SOTEC

WinBook
WJ シリーズ

ユーザーズガイド

このたびは、ソーテック WinBook WJシリーズをお買い上げいただき、まことにありがとうございます。
本書では、WinBook WJシリーズのご使用にあたって注意していただきたいことや、基本的な使いかた、および、より有効に活用する方法を説明しています。
WinBook WJシリーズを正しくお使いいただくためにも、必ず本書をお読みください。
読み終わったあとは、いつでもご参照いただけるよう、大切に保管してください。

ご使用の前に「安全上のご注意」
(☞2ページ)を必ずお読みください。

WinBook

本書の読みかた

マークについて

本書では次のマークが使われています。

警　告	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷（※1）を負う可能性が想定される内容を示しています。
注　意	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害（※2）を負う可能性が想定される内容および、物的損害（※3）のみの発生が想定される内容を示しています。
メモ	補足説明や、知っておくと便利なポイントを説明しています。
チェック	操作してはいけないこと、または操作するときに注意するポイントを説明しています。
☞ 参照ページ	その単語の詳細が別ページに紹介、または説明しています。本文とあわせて参照してください。
	参照していただきたい電子マニュアル（画面で見るマニュアル）の項目を紹介しています。

※1重傷とは、入院や長期の通院を要する恐れのある怪我などを指します。
※2傷害とは、入院や長期の通院を要しない怪我などを指します。
※3物的損害とは、本機の損害、および家屋・家財・ペットなどにかかわる二次的な損害を指します。

モデル名の表記ルール

■OSの区別による表記

XP Homeモデル

Windows XP Home Edition をインストールしているモデル

XP Proモデル

Windows XP Professional をインストールしているモデル

■機能の区別による表記

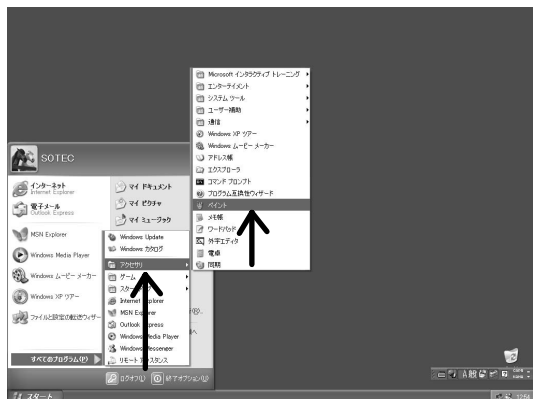
ワイヤレスLAN搭載モデル

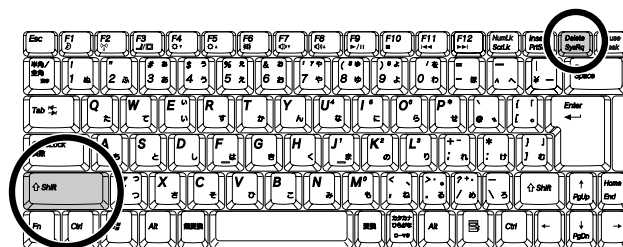
ワイヤレスLAN機能を搭載したモデル。無線によるネットワークの接続が可能

チェック

・本書中に出てくる画面およびイラストは、モデルまたはご使用の環境により実物と異なる場合があります。
・本書中に出てくるホームページの内容およびアドレス、またはお問い合わせ番号は、本書制作時の情報であり、予告なしに変更される場合があります。

▼操作の表記ルール

■メニューを選択する操作

つぎつぎとメニューを選択していく操作を「→」を使って省略しています。
たとえば、上画面のように、スタートボタンから「ペイント」のプログラムまでを選択する動作を、
［スタート］ボタン→［すべてのプログラム］→［アクセサリ］→［ペイント］を選択します。
と表記しています。

■複数のキーを同時に押す操作

※製品によりキーボードの形状は異なることがあります。

何かのキーを押しながら、ほかのキーを押す動作を「＋」を使って省略しています。
たとえば、上図のように、Shiftキーを押しながら、Deleteキーを押す動作を、

と表記しています。

■キー表記とキーボードの対応表

キーボード上の各キーは、次のように表記しています。

本書の表記	実際のキー
Esc	Esc
Tab	Tab
Ctrl	Ctrl
Shift	⇧Shift
Alt	Alt
Space	

本書の表記	実際のキー
Enter↵	Enter
BackSpace	Back Space
Insert	Insert PrtScr
Delete	Delete SysRq
Home	Home End

本書の表記	実際のキー
End	Home End
↑↓←→	↑PgUp ↓PgDn ← →
PageUp	↑PgUp
PageDown	↓PgDn
F1 F2…	F1 F2 …

本書の表記	実際のキー
変換	変換
半角/全角	半角/全角 漢字
NumLk	NumLk ScrLk
⊞	⊞
▤	▤

▼Windows XPの表記ルール

■カテゴリ表示モードの画面で説明しています

Windows XPには、カテゴリ表示モードと呼ばれる表示方法と、Windows2000など従来の表示イメージにあわせたクラシック表示モードと呼ばれる表示方法があります。本書では、カテゴリ表示モードの画面で説明しています。

■Windows XP Home Editionの画面で説明しています

Windows XPには、Windows XP ProfessionalとWindows XP Home Editionの2種類のバージョンがあります。本書では、Windows XP Home Editionの画面で説明しています。

■Windows XPまたはWindowsと省略して表記しています

本書では、Microsoft Windows XP Professional日本語版およびMicrosoft Windows XP Home Edition 日本語版を、Windows XPまたはWindowsと省略して表記しています。

安全上のご注意

本書では、本製品を正しくお使いいただき、お客様やほかの人々への危害や財産への損害を未然に防ぐために、いろいろな絵表示をしています。
その表示と意味は次のようになっています。

⃠記号は禁止の行為を示します。図の中や近くに具体的な禁止内容が描かれています。左図の場合は「分解禁止」という意味です。

● 記号は規制または指示の行為を示します。図の中に具体的な指示内容が描かれています。左図の場合は「電源プラグをコンセントから抜いてください」という意味です。

⚠ 警告（本機・ACアダプタ）

水場使用禁止

●洗い場、風呂場など、本機に水がかかる場所では使用しないでください。火災・感電の原因となります。

●付属のACアダプタ以外は使用しないでください。
火災・感電の原因となります。

●電源が100～240Vの範囲内であることを確認して使用してください。100～240Vを超える電源を使用すると火災・感電の原因となります。

分解禁止

●絶対に分解・改造をしないでください。火災・感電の原因となります。また、無償修理の対象外となります。

電源プラグを抜く

●ACアダプタから何かこげるような匂いがしたり、表面がかなり熱いときは直ちに電源プラグを抜いてください。
そのままご使用になると火災・感電の原因となります。

●長時間使用する場合は、本体の底部が発熱しますので、膝の上に置いて使用しないでください。
（発熱することは異常ではありません。）

⚠ 注意（本機・ACアダプタ）

電源プラグを
抜く

●電源プラグを抜くときはケーブルを持たず、必ずプラグ部分を持って抜いてください。
故障の原因となります。

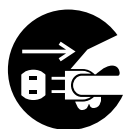
振動・衝撃を
与えない

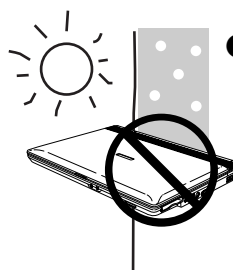
●振動や衝撃の加わる場所には設置しないでください。また、重い物をのせないでください。
故障による火災・感電の原因となります。

異物を挟んで
閉じない

●ディスプレイを閉じるときは、キーボードとの間にボールペンなどの異物がないかどうかご確認ください。
異物を挟んだまま、ディスプレイを閉じますと、ディスプレイを破損する恐れがあります。

●本体を持ち運ぶときは、ディスプレイを閉じてください。
ディスプレイを持ってぶらさげた状態で持ち運ぶと、ディスプレイに強い力が加わり、破損する恐れがあります。

●タコ足配線をしないでください。
コンセントが加熱し、火災・感電の原因となります。

電源プラグを
抜く

●使用時以外は電源プラグをコンセントから抜いてください。
漏電・火災の原因となります。

●熱の発生源の近く、直射日光のあたるところ、腐食性ガスのある環境、ほこりの多いところ、温度湿度条件を超える範囲では使用・保存しないでください。故障の原因となります。

●タッチパッドの表面をペン先などの尖ったもので触れたり、表面シートをはがしたりしないでください。
故障の原因となります。

●タッチパッドは軽く触れるだけで動作します。
必要以上に力を入れたり無理な姿勢で操作すると、指や手首を痛める原因となります。

●雷が近いときは、すみやかに電源をOFFにし、電源ケーブルをコンセントから抜いてください。
また、モジュラーケーブルやLANケーブルなど、接続されているケーブル類も抜いてください。
故障の原因となります。

●電源ケーブルの上にものをのせないでください。
電源ケーブルが傷むと漏電・火災の原因となります。

⚠ 警告（バッテリ）

●付属のバッテリ以外は使用しないでください。
また、付属のバッテリを本製品以外に使用しないでください。発熱・発火・破裂の原因になります。

●バッテリに強い衝撃を与えないでください。
故障の原因となります。

●バッテリ充電時に、所定の充電時間を超えても充電が完了しない場合は、充電をやめてください。そのまま充電を続けると、発熱、発火、破裂の恐れがあります。

●バッテリは、危険を防止するための保護装置が組み込まれています。分解・改造などしないでください。保護装置が壊れ、発熱・発火・破裂の恐れがあります。

●バッテリを火の中に入れないでください。破裂の恐れがあります。

●バッテリから液が漏れて、液が目に入ったときは、障害を起こす恐れがあるので、きれいな水で洗った後、直ちに医師の治療を受けてください。

●バッテリが漏液したり、異臭がするときは、すぐに火気より遠ざけてください。漏れた液に引火して、発火・破裂の恐れがあります。

⚠ 注意（バッテリ）

●バッテリから漏れた液が皮膚や衣服に付着した場合、皮膚がかぶれる恐れがあるので、すぐにきれいな水で洗ってください。

●バッテリを、水や海水などにつけて、濡らさないでください。バッテリの破損や性能・寿命を低下させる原因となります。

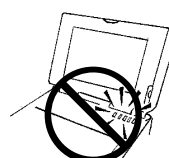
●バッテリを使う前に、サビ・異臭・発熱・その他異常と思われるときは、使用しないでください。ソーテックカスタマセンタにお問い合わせください。

●バッテリは火中に投じたり、加熱・分解・ショート(＋と－の端子を針金などで接続させること)はしないでください。ケガの原因となります。

●バッテリを小児が使う場合、保護者が取扱説明書の内容を教えてください。また、使用途中でも、取扱説明書のとおり使用しているかご確認ください。

●バッテリは乳幼児の手の届かない所へ保管してください。

⚠ 取り扱い上の注意

●液晶ディスプレイは先の尖ったものでたたいたり、引っかいたりしないでください。
破損する恐れがあります。

●本体外装の汚れは、清潔でやわらかい乾いた布を使い、から拭きしてください。

●ハードディスクが動作中のときは移動させないでください。
故障の原因となります。

●本製品の付属物は大切に保存してください。

●ハードディスクに保存したデータなどは、定期的にバックアップをお取りください。

・カラー液晶ディスプレイおよびバッテリは消耗品です。
・カラー液晶ディスプレイは非点灯、常時点灯などの画素が存在することがありますが故障ではありません。
・カラー液晶ディスプレイは表示内容によっては明るさのむらが発生することがありますが故障ではありません。
・使用周囲温度が低いとき、また本製品自体が冷えきっているときは、電源をONにしてもディスプレイのバックライトが「点灯しない」、「点滅する」、「暗い」などの症状がでます。この場合は、一度本体の電源をOFFにし、しばらく常温(10～35℃)の環境に放置した後、お使いください。

法規について

PCリサイクルについて

このマークが表示されている対象製品は、当社が無償で回収および再資源化します。
詳細は当社Webサイト(http://www.sotec.co.jp/)を参照してください。

PCグリーンラベル制度について

本製品は、社団法人電子情報技術産業協会(JEITA)により策定された「PCグリーンラベル制度」に合格致しました。
「PCグリーンラベル制度」とは、お客様が環境に配慮したパソコンをご購入になる際、商品選択を容易にするために、基準をクリアしたパソコンに「PCグリーンラベルロゴマーク」を表示する制度で、以下の3つのコンセプトから構成されています。

・環境(含3R※1)に配慮した設計・製造がなされている
・使用済み後も、引取り・リユース／リサイクル・適正処理がなされている
・環境に関する適切な情報開示がなされている

※1　3R=リデュース(Reduce)、リユース(Reuse)、リサイクル(Recycle)

グリーン購入ネットワーク(GPN)について

本製品はグリーン購入ネットワーク(GPN)に適合しています。

輸出および海外でのご使用に関する注意事項

本製品の輸出(個人による携行を含む)については、外国為替および外国貿易法に基づいて経済産業省の許可が必要になる場合があります。
必要な許可を取得せずに本製品を輸出すると、同法により罰せられます。
輸出の許可の要否については、ご購入頂いた販売店、または当社営業拠点にお問い合わせください。

モデムについて

本製品を日本国内で使用する場合は、国または地域の選択を「日本」に設定してご使用ください。「日本」以外の設定がされている場合、電気通信事業法(技術基準)に違反する行為となります。なお、ご購入時には「日本」に設定されておりますので、そのままご使用ください。

レーザ安全基準について

この装置には、レーザに関する安全基準(JIS・C-6802)クラス1適合の光ディスクドライブが搭載されています。

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会(VCCI)の基準に基づくクラスB情報処理装置です。
この装置は家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しく取り扱いをしてください。

国際エネルギースタープログラムについて

当社は、国際エネルギースタープログラムの参加事業者として、本製品が国際エネルギースタープログラムの対象製品に関する基準を満たしていると判断します。
国際エネルギースタープログラムは、コンピュータをはじめとした、オフィス機器の省エネルギー化推進のための国際的なプログラムです。
このプログラムは、エネルギー消費を効率的に抑えるための機能を備えた製品の開発、普及の促進を目的としたもので、事業者の自主判断により参加することができる任意制度となっています。対象となる製品はコンピュータ、ディスプレイ、プリンタ、ファクシミリ、複写機、スキャナ、複合機のオフィス機器で、それぞれの基準ならびにマーク(ロゴ)は参加各国の間で統一されています。

瞬時電圧低下について

本装置は、落雷等による電源の瞬時電圧低下に対し不都合が生じることがあります。電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置等を使用されることをお薦めします。
(社団法人電子情報技術産業協会(旧JEIDA)のパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策ガイドラインに基づく表示)

高調波電流規制について

この装置は、高調波ガイドライン適合品です。

「SOTEC電子マニュアル」について

SOTEC電子マニュアルは、本機のマルチメディア機能の活用方法、およびWindows XPやインターネットの便利な使いかたを、図解付きでわかりやすく紹介しています。

SOTEC電子マニュアルの起動方法

SOTEC電子マニュアルはデスクトップ上のアイコンから簡単に起動できます。

デスクトップ上にあるSOTEC電子マニュアルのアイコンをダブルクリックします。

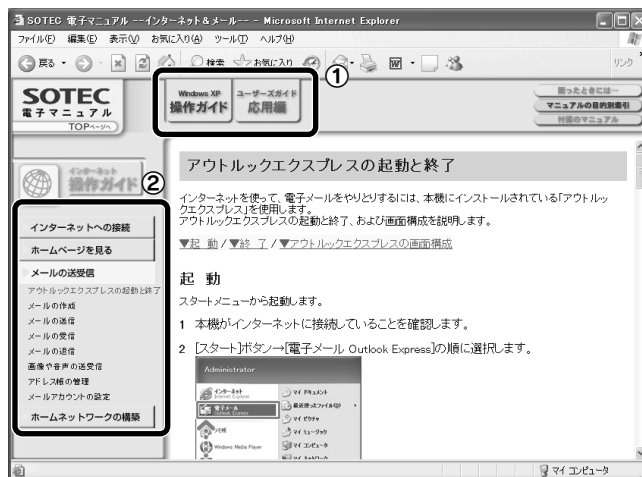
メニューが表示されます。

目的に応じたメニュータイトルをクリックします。

サブメニューが表示されます。

3 サブメニューの中からタイトルをクリックします。

目的のコンテンツが表示されます。

コンテンツ画面の説明

①クリックすると、ほかのメニューに移動できます。
②クリックすると、ほかの情報に移動できます。

動作環境

SOTEC電子マニュアルは以下の動作環境で使用できます。

O S	ブラウザ
Windows XP Home Edition Windows XP Professional	Internet Explorer 6.0以降 （※1）

※1：JavaScriptおよびActive Xは無効にしないでください。

注意事項

・SOTEC電子マニュアルは、株式会社ソーテックの著作物です。
・SOTEC電子マニュアルは予告なしに変更される場合があります。また、SOTEC電子マニュアルを運用した結果については、一切の責任を負わないものとします。
・SOTEC電子マニュアルで紹介されている各ソフトウェアは、ライセンスあるいはロイヤリティ契約のもとに供給されています。
・SOTEC電子マニュアルは、著作権法によって保護されています。一部または全部を無断で複製、転載、改変、カスタマイズ、頒布することを禁じます。特にSOTEC電子マニュアルを編集および改変してご利用になると、本製品の誤使用の原因となります。

置き場所を決める

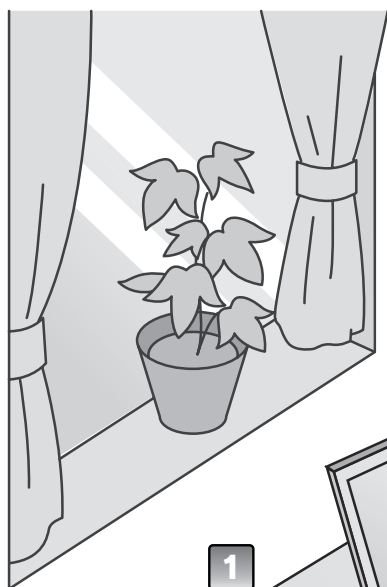
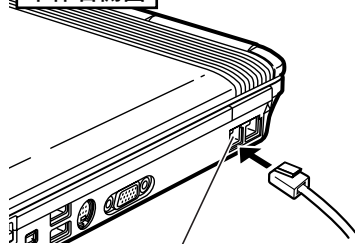
WinBookが手元に届いたら、まず、設置場所を決めてください。

1 パソコンのまわりは、通風口から熱が排出できるよう、15cm以上開けてください。

2 パソコンの前は、キーボードやタッチパッドが操作しやすいようにゆとりをもってください。

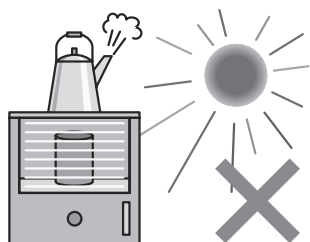
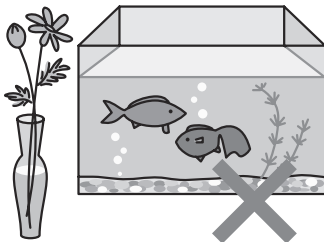
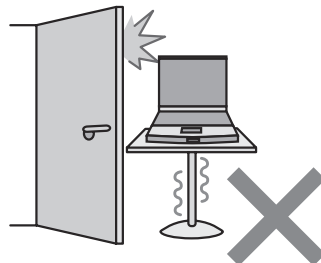
3 本体底面の吸気口をふさがないよう、座布団やタオルなどの上では使用しないでください。

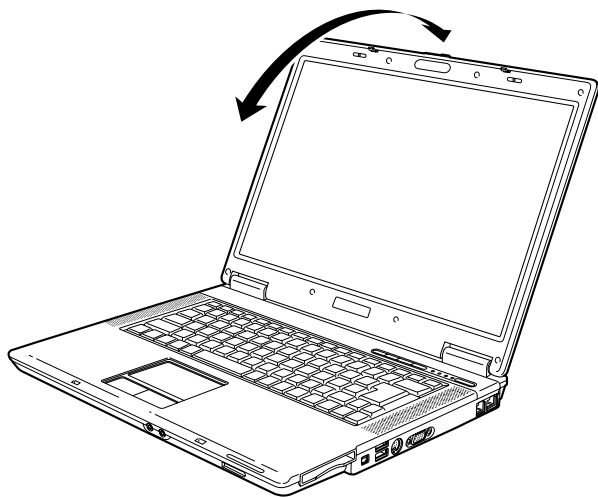
15cm〜

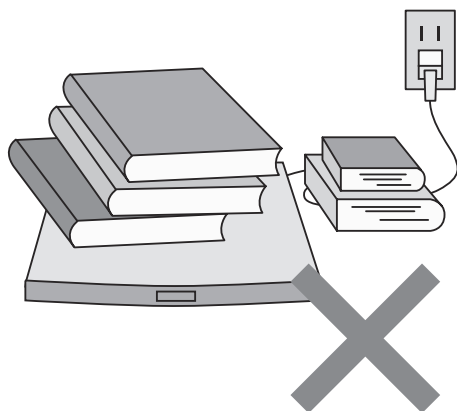
電話回線を使用してインターネットを利用する場合は、電話回線コンセントが近くにある場所を選んでください。

本体右側面

電話回線を利用してインターネットを利用する場合は、「カチッ」と音がするまで、モジュラーケーブルのプラグをFAX/モデムポートに差し込んでください。

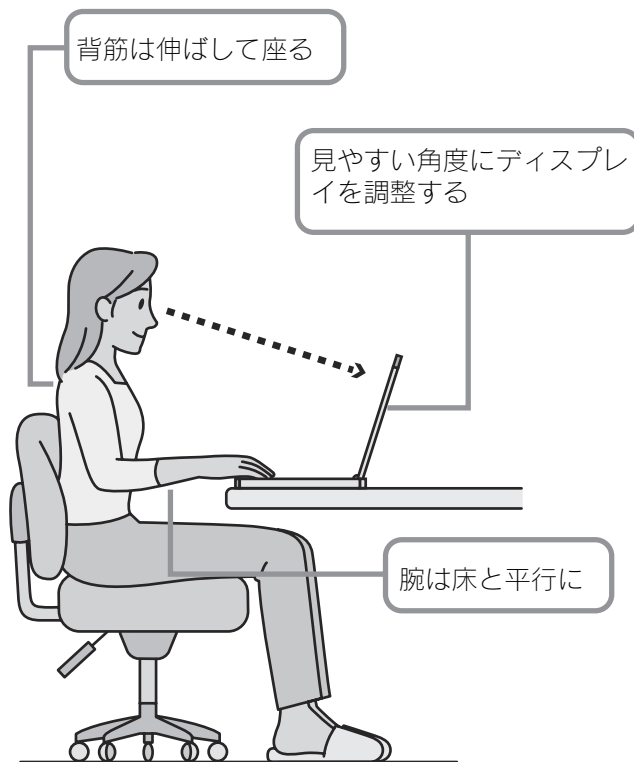
FAX/モデムポート

■置いてはいけない場所

直射日光のあたる場所、ストーブなど熱源の近く

水がかかりそうな場所

不安定な場所、物がぶつかりそうな場所

ディスプレイの角度調整について

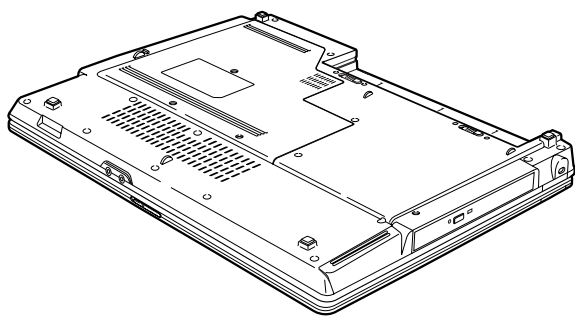
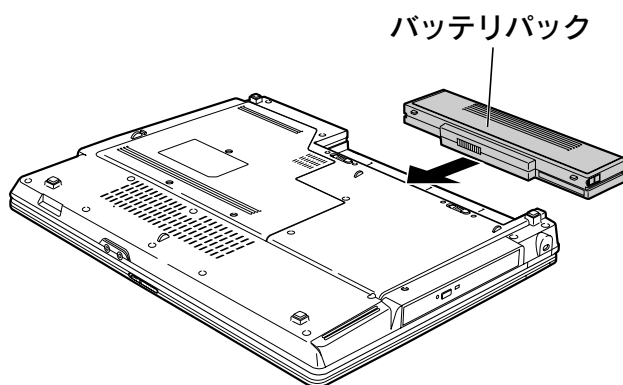
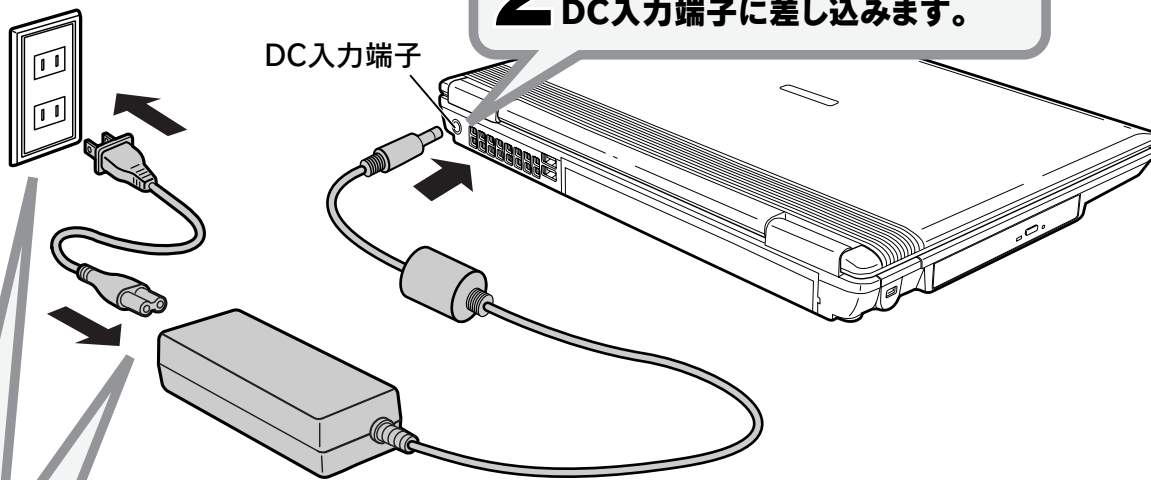
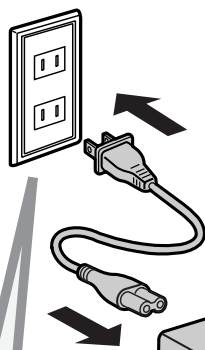
ディスプレイは、見やすい角度に調整できます。

管理について

本体および電源ケーブルの上に重いものをのせたり、通風孔を塞いだりしないでください。

正しい姿勢について

次のように正しい姿勢で、パソコンの前に座ってください。

接続する

必要な機器を接続しましょう。
スキャナやプリンタなど、すでに周辺機器をお持ちの場合でも、Windows XPのセットアップが終了するまでは接続しないでください。

1 バッテリパックを取り付けます。

1 ディスプレイカバーを閉じ、本体を裏返して、静かに置きます。

2 バッテリパックを矢印の方向に動かしながら取り付けます。

2 ACアダプタのプラグを、本体のDC入力端子に差し込みます。

3 電源ケーブルをACアダプタと電源コンセントに接続します。

Windows XPの セットアップ

必要な機器の接続が終われば、本機にWindows XPをセットアップしましょう。
Windows XPのセットアップが終われば、本機のセットアップは完了です。

セットアップの準備をする

メモ

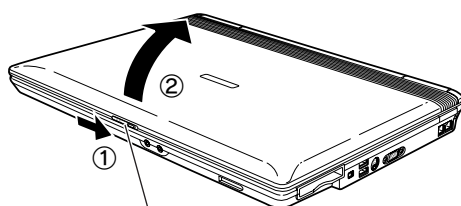
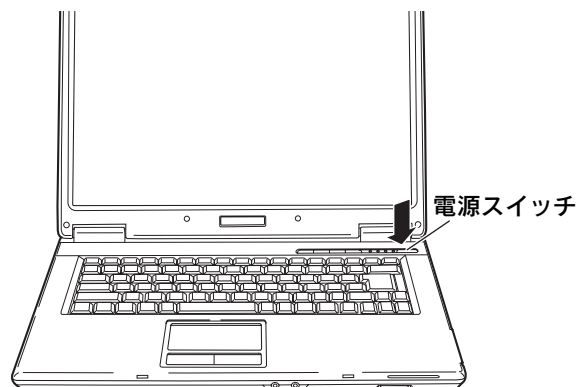
・セットアップ中は、画面の切り替えに少し時間がかかることがあります。「しばらくお待ちください」といったメッセージが表示されたり、マウスカーソル（マウスポインタ）の矢印が⌛になっているときは、キーボードのキーやタッチパッドのボタンを何度も押さないでください。

チェック

操作の途中で電源を切らない！
セットアップには、少し時間がかかります。セットアップ中は、絶対にパソコンの電源をOFFにしないでください。セットアップが終わる前に電源をOFFにすると、故障の原因となります。

チェック

分からないことがあったら・・・
セットアップの途中で分からないことがあれば、ヘルプで調べることができます。?をクリックするかF1キーを押すとヘルプを参照できます。

1 手前のディスプレイカバーラッチを矢印の方向へスライドして(①)、見やすい角度までディスプレイカバーを開きます(②)。

2 電源スイッチを押します。

パソコンの電源をONにしてから、しばらくの間は、画面の表示がいろいろ変化します。手順3の画面が表示されるまで、お待ちください。

3 ［次へ］ボタンにマウスカーソルの矢印を合わせて、左クリックします。

メモ

・タッチパッドを一度も使ったことがない方は、「タッチパッドを使ってみよう」（☞29ページ）を参照してください。

使用許諾契約に同意する

使用許諾契約に同意します。同意を拒否すると、Windowsのセットアップが終了してしまいます。

1 **使用許諾契約書を確認します。**

2 **同意したら、［同意します］の を左クリックして、 に変えます。**

3 **［次へ］ボタンを左クリックします。**

自動更新を設定する

Windows XPのセキュリティ、重要な更新、Service Pack等を自動的に更新するように設定します。

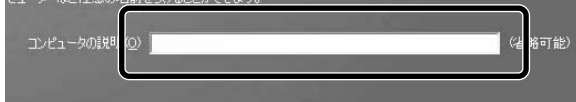
1 **「自動更新を有効にし、コンピュータの保護に役立てます」の を左クリックして に変えます。**

2 **［次へ］ボタンをクリックします。**

本機を設定する

コンピュータに名前をつけます。例として、「SOTEC-PC」と入力します。

1 **キーボードから、[S][O][T][E][C][-][P][C]の順にキーを押します。**

2 **任意でコンピュータの説明を入力します。**

📝 メモ

・コンピュータの説明は、入力を省略してもかまいません。

3 **［次へ］ボタンを左クリックします。**
XP Proモデルの方は　・・・・・ 4 へ進む
XP Homeモデルの方は　・・・・ 9 へ進む

4 **「管理者パスワード」の欄に、任意のパスワードを入力します。**

5 **「パスワードの確認入力」の欄に、「管理者パスワード」と同じパスワードを入力します。**

6 **［次へ］ボタンを左クリックします。**

チェック

管理者パスワードとは

「管理者パスワード」とは、本機の設定を管理する人のためのパスワードです。ここで設定したパスワードは絶対忘れないようにしてください。パスワードを忘れてしまうとWindows XPの再セットアップ（リカバリ）が必要になります。（☞63～74ページ）

7 **「いいえ、このコンピュータをドメインのメンバにしません」の○を左クリックして◉に変えます。**

チェック

ドメインの登録

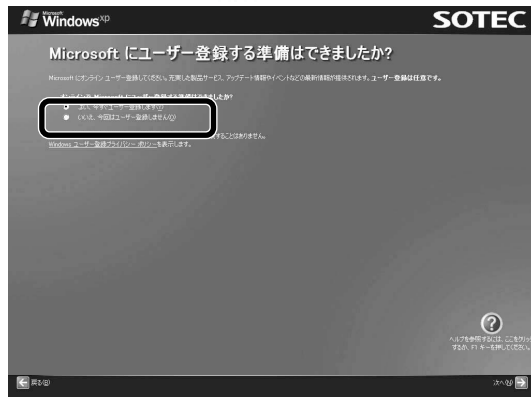
本機をクライアントサーバ型のネットワークに接続するには、ドメインの登録が必要です。ただし、ドメインの登録はセットアップ終了後に設定できますので、セットアップ中に設定する必要はありません。ドメインの登録に関する詳細は、市販のネットワークの専門書籍を参照してください。
なお、ご家庭などで通常に使用する場合は、ドメインの登録は必要ありません。

8 **［次へ］ボタンを左クリックします。**

［省略］ボタンを左クリックします。

メモ

・インターネットへの接続は、セットアップ終了後に設定することをお勧めします。

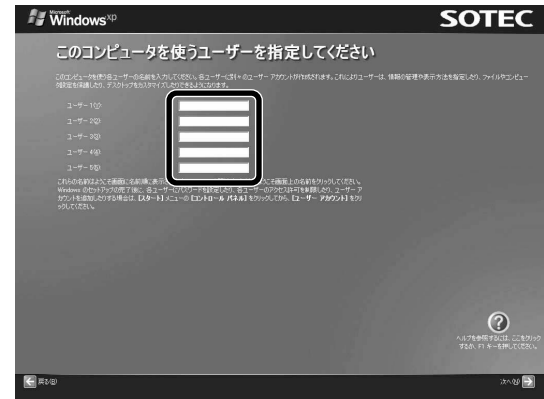
「いいえ、今回はユーザー登録しません」の◯を左クリックして◉に変えます。

11 ［次へ］ボタンを左クリックします。

メモ

・オンライン登録は、セットアップ終了後に行うことをお勧めします。本書では、オンライン登録に必要な、インターネットの設定方法を説明していません。下の画面が表示されてしまった場合は、［戻る］ボタンを左クリックして前の画面に戻ってください。

ユーザーを登録する

本機を使用するユーザーのユーザー名(ユーザーアカウント)を入力します。

必要なユーザー数だけ、任意のユーザー名を入力します。

・ユーザーは最低1つ以上登録してください。
・複数のユーザーを登録する場合、ユーザー名が同じにならないようにしてください。

メモ

・セットアップ終了後でも、「コントロールパネル」の「ユーザーアカウント」からユーザーを登録できます。

［次へ］ボタンを左クリックします。

セットアップを完了する

いよいよセットアップの完了です。

［完了］ボタンを左クリックします。

チェック

［スタート］ボタンを選択して表示される「本製品をご購入のお客様へ」を必ずお読みください。この中には、本機を使用される上で重要な情報が記述されています。
特に、Windowsを再セットアップする場合は、「本製品をご購入のお客様へ」に書かれているとおりにドライバソフトなどをインストールしてください。本機の性能を充分に発揮できないばかりか、一部の機能が動作しなくなる場合があります。

しばらくすると、Windows XPのデスクトップ画面が表示されます。

※表示されるデスクトップ画面は、ご購入いただいたパソコンによって異なります。

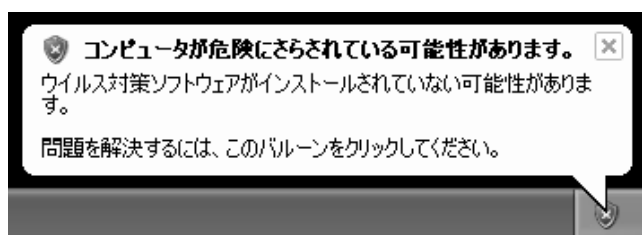
2 Windowsが起動したら、本機を一度再起動してからご使用ください。

画面右下のメッセージについて

Windows XPのインストール後、画面右下に次のようなメッセージが表示される場合があります。

「コンピュータが危険にさらされている可能性があります。」

この表示がでた場合、パソコンにウイルス対策ソフトがインストールされていないか、ウイルス対策ソフトが最新の状態でない可能性があることをお知らせするものです。デスクトップ上の「お使いになる前に実行してください」をクリックし、ウイルス対策ソフト「マカフィー・ウイルススキャン」をインストールすることをおすすめします。

コンピュータが危険にさらされている可能性があります。
ウイルス対策ソフトウェアがインストールされていない可能性があります。
問題を解決するには、このバルーンをクリックしてください。

チェック

- 「マカフィー・ウイルススキャン」のインストール後は、アップデート機能を使用して、最新の状態を維持してください。
- 「マカフィー・ウイルススキャン」が最新の状態を維持していない場合、メッセージが再度表示されます。

「Windows XPのツアーを始める」

この表示は、Windows XPの新機能を紹介するものですが、パソコンの操作に慣れてから見ることをおすすめします。

メモ

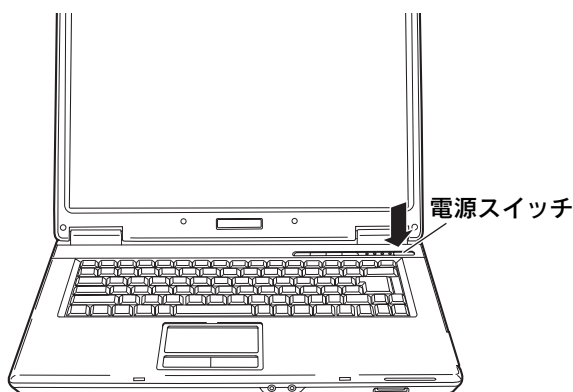
・この表示はしばらくすると自動的に消えます。

電源のON/OFF

セットアップが終了したら、本機の電源をON/OFFする方法を覚えましょう。

電源のON

セットアップが終了すれば、次に電源をONにしたとき、そのままWindows XPのデスクトップ画面が表示されます。

1 電源スイッチを押します。

しばらくすると、Windows XPのデスクトップ画面が表示されます。

※表示されるデスクトップ画面は、ご購入いただいたパソコンによって異なります。

メモ

・複数のユーザーアカウントを登録しているときは、ユーザーアカウントを選択する画面が表示されます。使用したいユーザーアカウントを選択してください。

電源のOFF

電源のOFFは「スタート」メニューから操作します。

1 ［スタート］ボタン→［終了オプション］を選択します。

【コンピュータの電源を切る】ダイアログが表示されます。

注意

いきなり電源スイッチを押して電源をOFFにする動作を繰り返すと、Windows XPのシステムが壊れて、Windows XPの再セットアップが必要になることがあります。電源をOFFにするときは正しい手順で操作してください。

2 ［電源を切る］をクリックします。

しばらくすると、本機の電源がOFFになります。

3 必要に応じて周辺機器の電源をOFFにします。

再起動

デバイスドライバのインストールが終了したあとや、Windowsの動作が不安定（画面が乱れたり、画面が動かない）になったときは、Windowsを再起動しましょう。【コンピュータの電源を切る】ダイアログが表示された状態で、［再起動］をクリックすると、再起動が実行されます。

メモ

・アプリケーションソフトの操作中に、マウスカーソルが動かなくなってしまったときなど、操作が続けられないときは、Ctrl＋Alt＋Deleteキーを同時に押して、特定のアプリケーションソフトを終了させることができます。

ユーザーアカウントを切り替える

本機に複数のユーザーアカウントが登録されているとき、本機の電源をONにしたままで、ユーザーアカウントを切り替えることができます。ユーザーアカウントの切り替えは、2つの方法があります。

ログオフして切り替える

現在のユーザーアカウントが本機の使用を終了してから、別のユーザーアカウントが本機の使用を開始します。

［スタート］ボタン→［ログオフ］を選択します。

【Windowsのログオフ】ダイアログが表示されます。

2 ［ログオフ］をクリックします。

現在のユーザーアカウントが本機の使用を終了し、ユーザーアカウントを選択する画面が表示されます。

3 本機の使用を開始するユーザーアカウントを選択します。

メモ

- パスワードが設定されている場合は、パスワードを入力します。
- パスワードが拒否された場合は、大文字と小文字を間違って入力していないか再度ご確認ください。Windows XPでは、Tarouとtarouは違う文字列として判別されます。

しばらくすると、Windows XPのデスクトップ画面が表示されます。

※表示されるデスクトップ画面は、ご購入いただいたパソコンによって異なります。

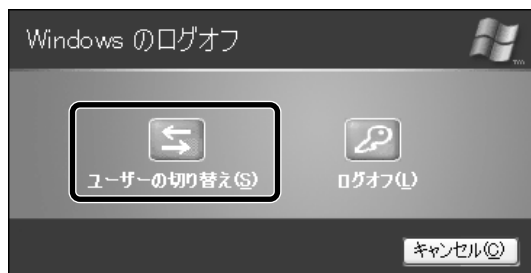
ログオフせずに切り替える

現在のユーザーアカウントが本機を使用したまま、別のユーザーも同時に本機の使用を開始します。

1 ［スタート］ボタン→［ログオフ］を選択します。

【Windowsのログオフ】ダイアログが表示されます。

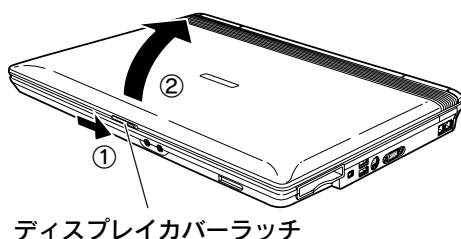
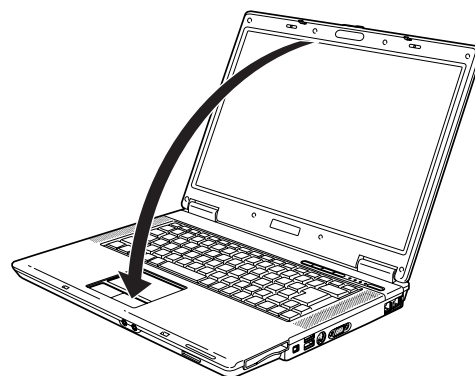
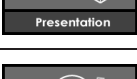
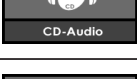
2 ［ユーザーの切り替え］をクリックします。

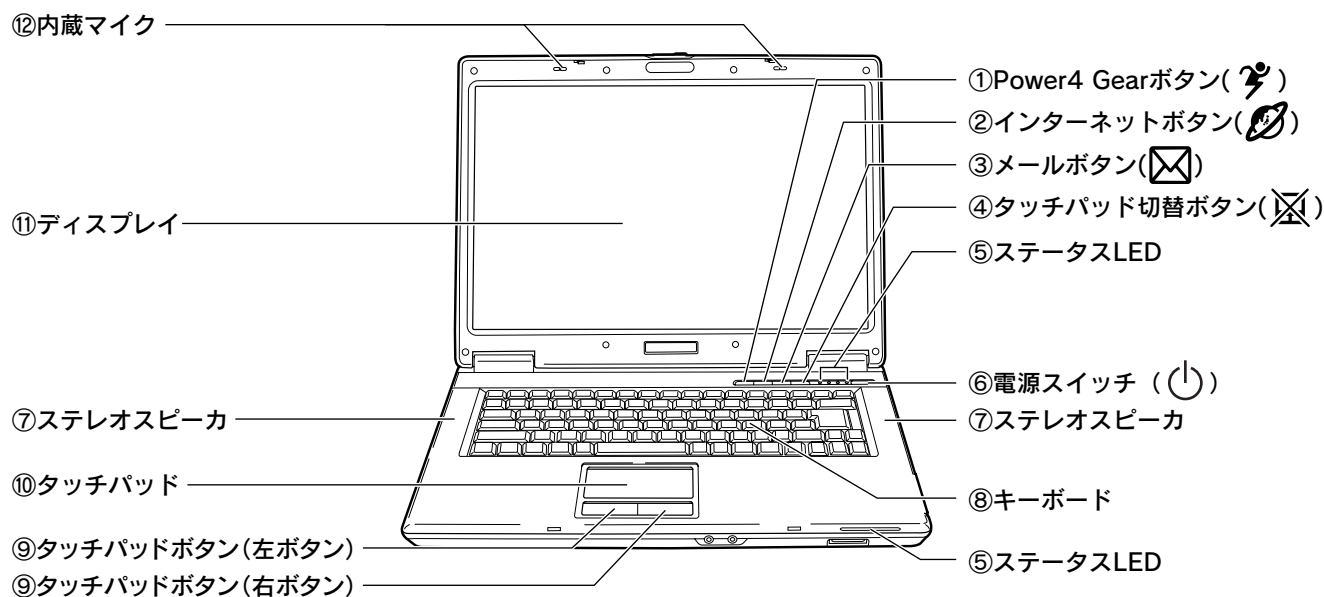
ユーザーアカウントを選択する画面が表示されます。

3 本機を使用を開始するユーザーアカウントを選択します。

しばらくすると、Windows XPのデスクトップ画面が表示されます。

各部の名前と機能

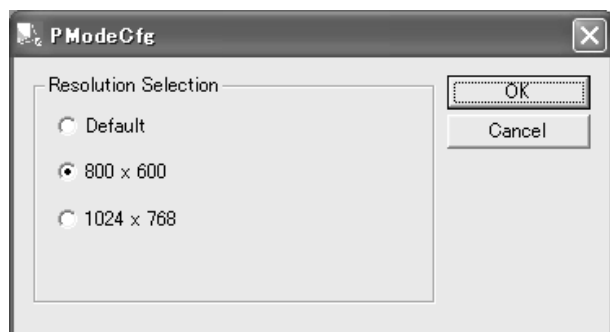
本体各部の名前とその機能について説明しています。なお、別のページで詳しく説明している部分もありますので、参照ページもあわせてお読みください。

ディスプレイカバーの開け閉め

手前のディスプレイカバーラッチを矢印の方向へスライドして(①)、見やすい角度までディスプレイカバーを開きます(②)。

ディスプレイカバーを閉じるときは、ディスプレイカバーを手前に倒します。

本体前面

① Power4 Gearボタン（）
本機の動作モードを切り替えるボタンです。ボタンを押すと、下表の上から下の順にモードが切り替わります。使用している電源によって、利用可能なモードは異なります。

モード	ACアダプタ使用	バッテリ使用	消費電力	処理能力
Super Performance	○	–	高	高
High Performance	○	○		
Game	○	○		
DVD movie	–	○		
Quiet Office	○	○		
Presentation	○	○		
CD-Audio	–	○		
Battery Saving	–	○	低	低

メモ

・ACアダプタを使っている場合は、High Performanceモードを選択することをお勧めします。
・「Power4 Gear」がインストールされている場合、[スタート]ボタン→[設定]→[コントロールパネル]→[パフォーマンスとメンテナンス]→[電源オプション]→[電源設定]タブの「電源設定」欄に「Power4 Gear」が追加され、「Power4 Gear」が有効になります。
・Presentationモードを選ぶと、画面の解像度を調整するダイアログが表示されます。お好みで解像度を選択してください。

② インターネットボタン（）
ボタンを押すと、Internet Explorerが起動します。

③ メールボタン（）
ボタンを押すと、Outlook Expressが起動します。

④ タッチパッド切替ボタン（）
ボタンを押すと、本体内蔵のタッチパッドおよび左右のタッチパッドボタンの動作がOFFになります。もう一度押すとONに戻ります。

⑤ ステータスLED
パソコンの動作状態が表示されます。(☞24ページ)

⑥ 電源スイッチ（）
電源OFF時に押すと、本機の電源をONします。(☞16ページ)
電源ON時に押すと、設定した動作を実行します。設定は［スタート］ボタン→［コントロールパネル］→［パフォーマンスとメンテナンス］→［電源オプション］→［詳細設定］→［電源ボタン］で選択できます。

注意

・HDD LEDが点灯している間は、電源をOFFにしないでください。ドライブの故障、またはデータの破損の恐れがあります。
・電源をOFFにしたあとに再度電源をONするときは、5秒以上待ってから操作してください。

⑦ ステレオスピーカ
Windowsのシステム音や、マルチメディアを使用したときの音声が、ステレオで出力されます。
(☞36ページ)

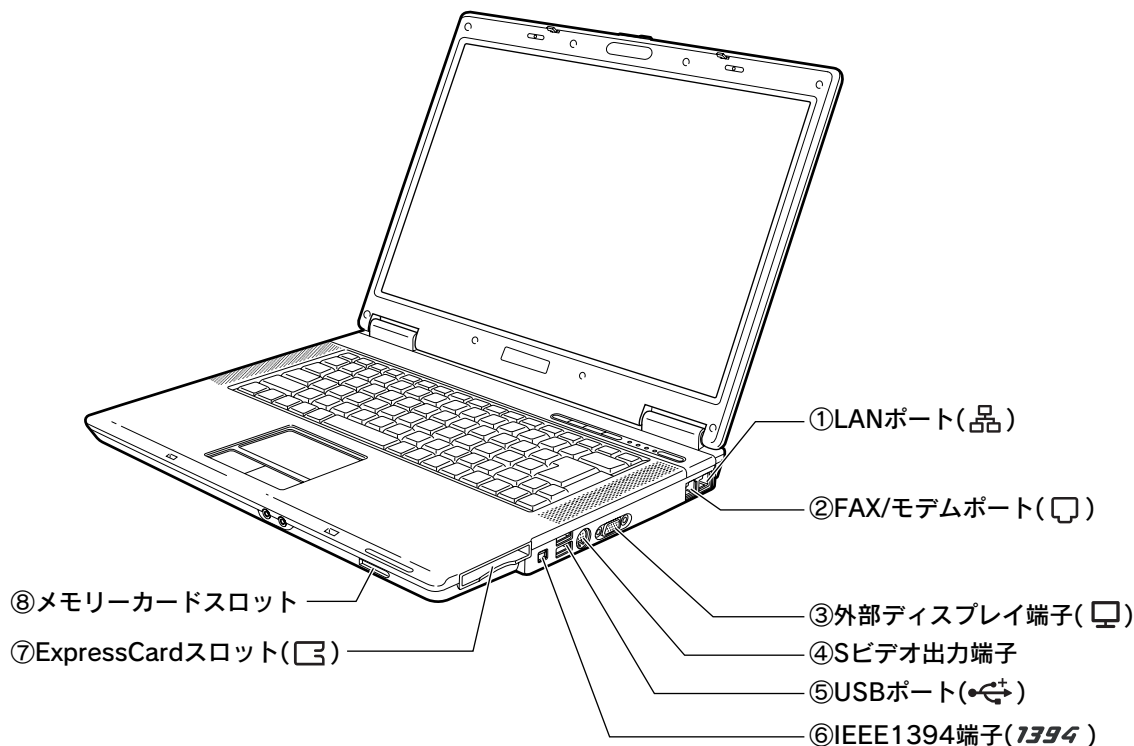
⑧ キーボード
キーを押して文字を入力したり、コマンド（命令）を送ったりします。(☞30〜33ページ)

⑨ タッチパッドボタン（右ボタン・左ボタン）
それぞれ、マウスの右ボタン、左ボタンに対応しています。(☞29ページ)

⑩ タッチパッド
指を軽くのせて動かすと、ディスプレイ上のマウスポインタが移動します。(☞29ページ)

⑪ ディスプレイ
文字やグラフィックが表示されます。
省電力機能によりパソコンが動作していなければ、自動的にディスプレイの表示が消えるように設定できます。

⑫ 内蔵マイク
本機に音声を入力します。

右側面

① LANポート（）
10BASE-T/100BASE-TX/1000BASE-TのLAN接続ができます。

注 意

本機のLANポートに接続できるケーブルは10BASE-T/100BASE-TX/1000BASE-T規格のイーサネットケーブルだけです。それ以外の規格のケーブルは使用しないでください。特にISDNケーブル、モジュラーケーブルは、絶対にLANポートへ接続しないでください。故障の原因となります。

② FAX/モデムポート（）
電話回線と接続します。（☞8ページ）

注 意

モジュラーケーブル以外のケーブルは絶対に差し込まないでください。故障の原因となります。

③ 外部ディスプレイ端子（）
外部ディスプレイを接続します。（☞56ページ）

④ Sビデオ出力端子
S映像入力端子付きのテレビやビデオと接続し、本機の映像をテレビやビデオに出力します。
（☞47ページ）

チェック

・下記の形状を持ったSビデオケーブルは使用できません。

使用できる　　使用できない

・著作権保護信号が埋め込まれている映像は出力できません。例えば、市販のDVDビデオを本機で再生した場合、そのDVDビデオの映像は、テレビやビデオには出力できません（本機では視聴できます）。

⑤ USBポート（）
USB2.0対応の周辺機器を接続します。USB1.1対応の周辺機器も接続できます。ただし、転送速度などはUSB1.1規格（Full-Speed）に基づきます。
（☞48ページ）

⑥ IEEE1394端子（1394）

DV端子付きのデジタルビデオ機器などを接続します。（☞46ページ）

⑦ ExpressCardスロット（ ）

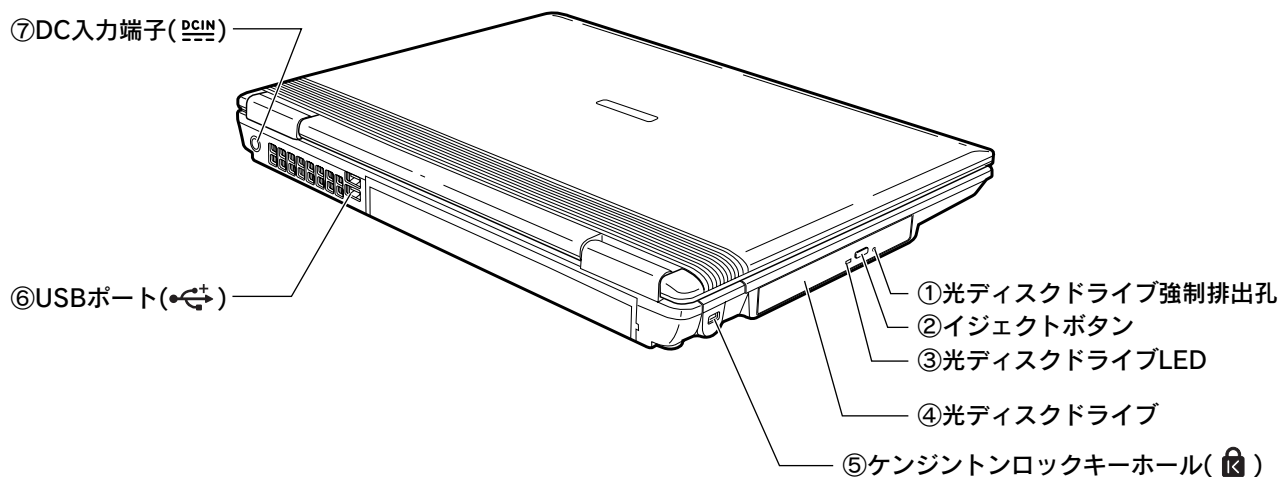
ExpressCard/34およびExpressCard/54規格に準拠したExpressCardを差し込みます。（☞51ページ）

⑧ メモリーカードスロット

以下のメモリーカードを差し込みます。
（☞49～50ページ）

・メモリースティック
・メモリースティック PRO
・SDメモリーカード
・MMC

・それぞれのメモリーカードには差し込む向きがあります。正しい向きで差し込んでください。
・メモリーカードには、それぞれ差し込む向きがあります。方向を確認して、正しく差し込んでください。
・「miniSDカード」または「メモリースティック デュオ」など、一覧に記載のない種類のカードは、本機で使用できません。
　メモリーカードを本機に挿入する前に、種類を確認してください。

左側面＆背面

① **光ディスクドライブ強制排出孔**
イジェクトボタンを押しても光ディスクドライブが出てこない場合に使用します。
この排出孔に針金などを押し込むと、光ディスクドライブを強制的に排出させることができます。
(☞35ページ)

注意
光ディスクドライブが正常に動作している場合は使用しないでください。
頻繁に使用すると故障の原因となります。

② **イジェクトボタン**
光ディスクドライブにディスクを入れるとき、または取り出すときに押すボタンです。
(☞35ページ)

③ **光ディスクドライブLED**
光ディスクドライブのアクセス中に点灯します。

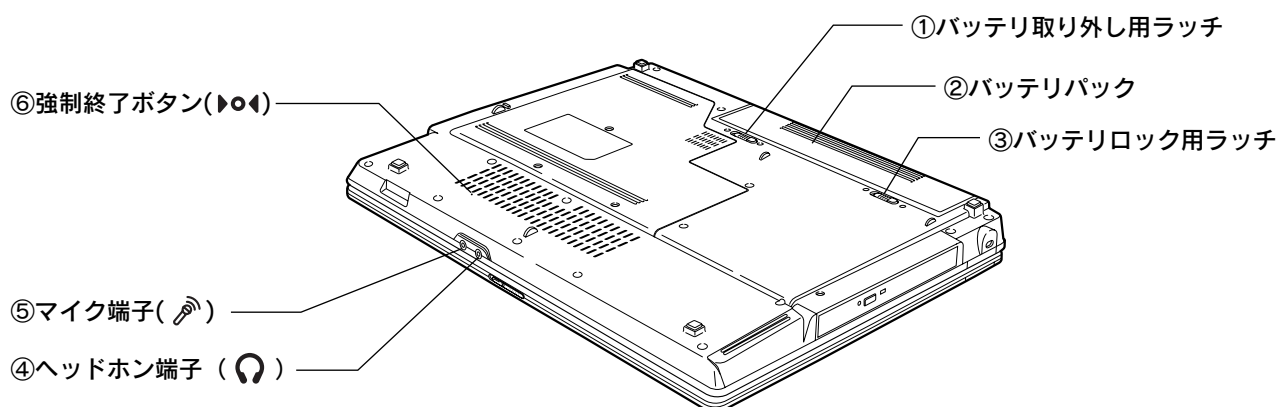
④ **光ディスクドライブ**
光ディスクドライブが読み込み可能なディスクを入れます。光ディスクドライブの仕様は、製品の構成によって異なります。
(☞34～35ページ)

⑤ **ケンジントンロックキーホール（ ）**
盗難防止用のロックに使用する取り付け穴です。

⑥ **USBポート（ ）**
USB2.0対応の周辺機器を接続します。USB1.1対応の周辺機器も接続できます。ただし、転送速度などはUSB1.1規格（Full-Speed）に基づきます。
(☞48ページ)

⑦ **DC入力端子（DCIN）**
付属のACアダプタを接続します。(☞25ページ)

注意
・付属のACアダプタ以外は絶対に使用しないでください。
火災・感電の恐れがあります。
・ACアダプタの上に物をのせたり、くるんだりしないでください。
ACアダプタが発熱し、火災を起こす恐れがあります。

底　面

① **バッテリ取り外し用ラッチ**
バッテリパックを取り外すときに、指でスライドしながら取り外します。(☞28ページ)

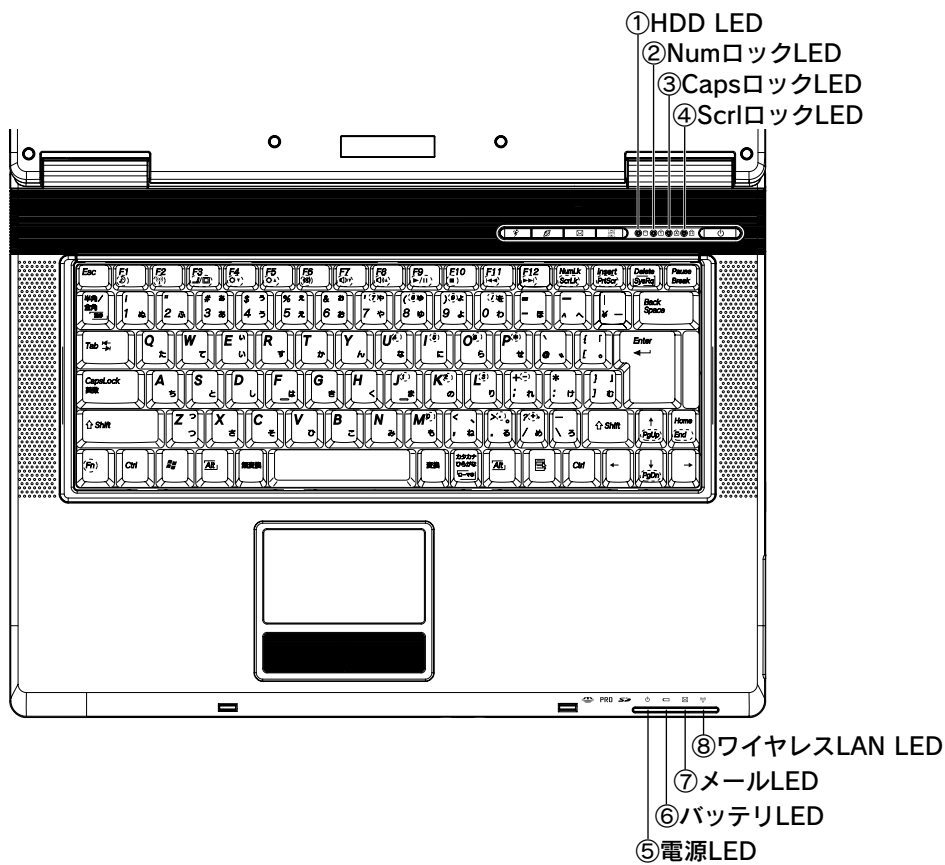
② **バッテリパック**
電源コンセントが無い場所でパソコンを動作させるためのバッテリです。(☞28ページ)

③ **バッテリロック用ラッチ**
バッテリを固定するためのラッチです。バッテリを取り外すときに解除します。(☞28ページ)

④ **ヘッドホン端子（ ）**
ヘッドホンを接続します。(☞46ページ)

⑤ **マイク端子（ ）**
マイクロホンを接続します。マイクロホンからの音声を本機に取り込みます。(☞46ページ)

⑥ **強制終了ボタン（ ）**
強制的に本機の電源を切るボタンです。通常の方法で電源を切れなくなったときに使用します。穴の中に、針金のような細くて硬い棒を差し込んでください。

ステータスLEDについて

① HDD LED（エイチディーディー）
ハードディスクドライブまたは光ディスクドライブのアクセス中に点灯します。

・HDD LEDが点灯している間は、電源をOFFにしないでください。
ドライブの故障、またはデータの破損の恐れがあります。
・電源をOFFにしたあとに再度電源をONするときは、5秒以上待ってから操作してください。

② NumロックLED（ニューメリック）
NumLkキーがロック状態のときに点灯します。

③ CapsロックLED（キャップス）
CapsLockキーがロック状態のときに点灯します。
ロック状態時は、Shiftキーを押さずアルファベットを大文字で入力できます。

④ ScrlロックLED
ScrollLockキーがロック状態ロック状態のときに点灯します。
ロック状態時の機能は、使用するアプリケーションソフトによって異なります。

⑤ 電源LED
電源が入っている状態を表示します。
（☞26ページ）

⑥ バッテリLED
バッテリの充電状態を表示します。
（☞26ページ）

⑦ メールLED
Outlook Expressに新着メールが届くと点灯します。

⑧ ワイヤレスLAN LED
ワイヤレスLAN搭載モデルのみ
ワイヤレスLANの機能が作動すると点灯します。
（☞38ページ）

ACアダプタの接続とバッテリの充電

本機の電源は、付属のACアダプタを使ってACコンセントからとる方法と、バッテリパックを使う方法の2通りあります。

初めて使うときは

バッテリは十分に充電されていない状態で出荷されています。本機を初めてお使いになるときは、バッテリパックを本機に取り付けてから、ACアダプタを接続してください。バッテリパックの充電が始まります。

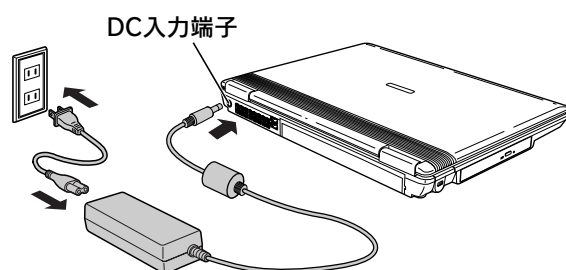
警告

- 弊社純正のACアダプタ以外は、絶対に使用しないでください。火災・感電の恐れがあります。
- ACアダプタの上に物をのせたり、くるんだりしないでください。ACアダプタが発熱し、火災を起こす恐れがあります。

メモ

- バッテリパックの充電中も本製品を使用できます。

ACアダプタの接続とバッテリの充電

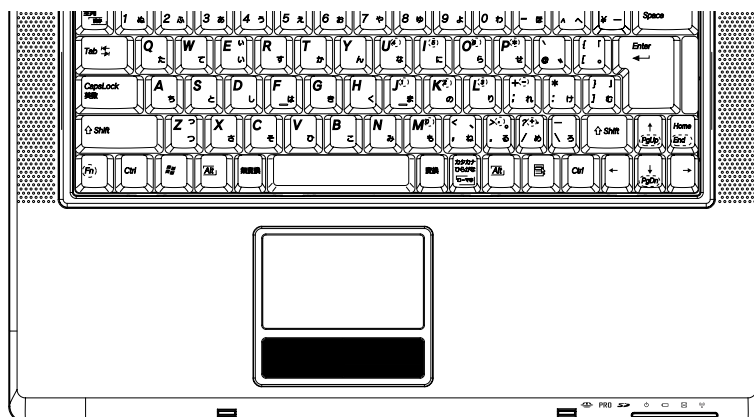
1 ACアダプタのプラグを、本機のDC入力端子に差し込みます。

2 電源ケーブルをACアダプタと電源コンセントに接続します。

バッテリLED（ ）が点灯し、バッテリパックの充電が始まります。

メモ

- 本製品に付属のACアダプタは、100V～240Vに対応しており、自動的に切り替わりますので、海外でも使用できます。
ただし、海外の電源コンセントは、日本と形状が異なる場合がありますので注意してください。

バッテリのみで使用するときは、ACアダプタを取り外してください。
AC電源で使用するときは、このままACアダプタを接続してください。

ステータスLEDの表示

電源LED( )

状　態	内　容
点灯	本機の電源がONの状態です。

バッテリLED( )

状　態	内　容
点灯	バッテリが充電中の状態です。
消灯	次のいずれかの状態です。 ・バッテリで動作中 ・バッテリが満充電 ・バッテリが装着されていない

・バッテリパックは、バッテリ動作中に交換することはできません。
必ず「バッテリパックの交換」（☞28ページ）の説明に従って交換してください。
・バッテリの残量が少ない状態でアプリケーションの操作を続けると、データやプログラムファイルが消えるなどの不具合が発生する恐れがあります。
バッテリの残量がすべて無くなると、アプリケーションの使用中でも電源がOFFになります。バッテリの警告音が鳴ったらすぐにデータを保存してください。

スタンバイと休止状態の違い

・スタンバイ

アプリケーションソフトなどの動作状態をメモリに保存し、パソコンの電源をOFFにする機能です。
次回、電源をONにすると、電源をOFFにする直前の状態でパソコンが起動します。
使用中のアプリケーションソフトを終了せずに電源をOFFにできるので、アプリケーションソフトを再起動する必要がありません。
ただし、スタンバイの状態では、少量の電力が消費されているため、バッテリだけで使用しているときに、長時間スタンバイの状態にしておくことはお勧めできません。

・休止状態

電源をOFFにする直前の状態で起動させる機能です。
動作状態をメモリではなく固定ディスクに保存するため、電力を消費しません。
スタンバイと休止状態の設定方法は、「SOTEC電子マニュアル」の「ユーザーズガイド応用編」の「省電力機能」を参照してください。

バッテリの残量警告と終了動作の設定

バッテリ残量が少なくなってきたことを知らせる警告音と、バッテリ残量が無くなったときにパソコンをどのような状態で電源をOFFにするかを設定できます。

［スタート］ボタン→［コントロールパネル］→［パフォーマンスとメンテナンス］→［電源オプション］を選択します。

【電源オプションのプロパティ】ダイアログが表示されます。

［アラーム］タブを選択します。

チェックを入れます。

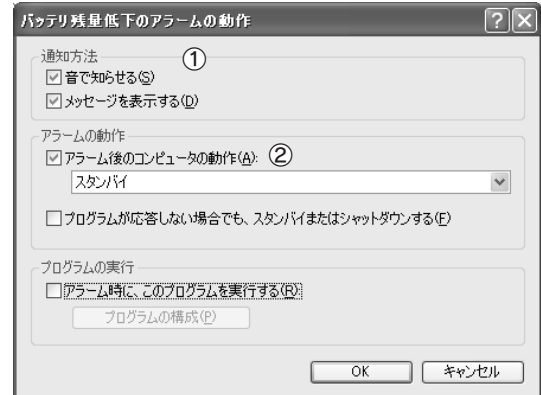
バッテリ残量が警告表示されます。

4

［アラームの動作］ボタンをクリックします。

警告表示後のパソコンの動作を設定できます。

警告表示後の動作設定

設定完了後は［OK］ボタンをクリックしてください。

① **通知方法**
警告の通知方法を選択します。

メモ

・両方を選択することもできます。
・音で知らせるが有効の場合でも、スピーカがミュートの時は実際には音は出ません。

② **アラーム後のコンピュータの動作**
警告通知後の本機の動作状態を選択します。

バッテリパックの交換

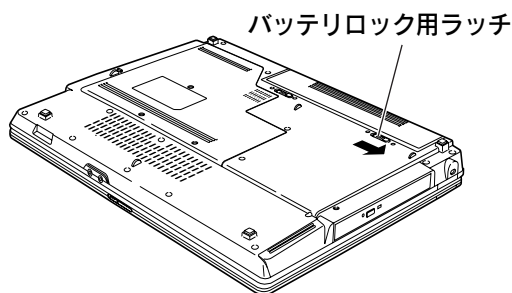
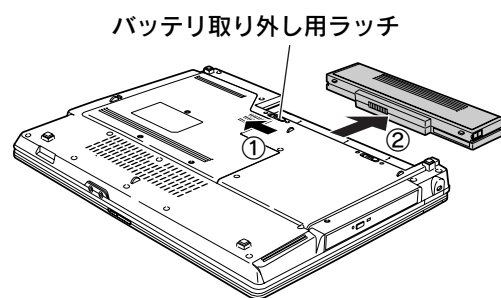
バッテリパックは、電源がOFFの状態で交換します。交換前に、バッテリLEDが消灯していることを確かめてください。

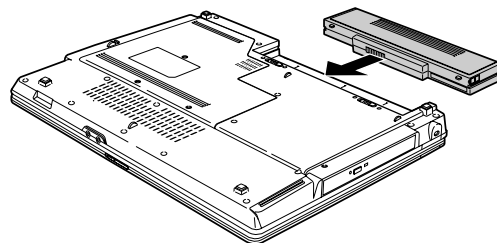
注意

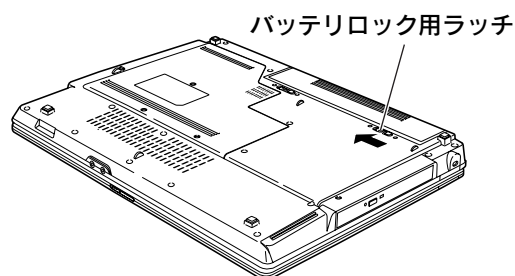
・弊社純正のバッテリパック以外のバッテリは絶対に使用しないでください。また、バッテリパックの分解や破壊、火中への投入、加熱、端子の短絡なども絶対に行わないでください。爆発や火災を起こす恐れがあります。

・バッテリパックの取り扱いについては「安全上のご注意」（☞4～5ページ）も必ずお読みください。

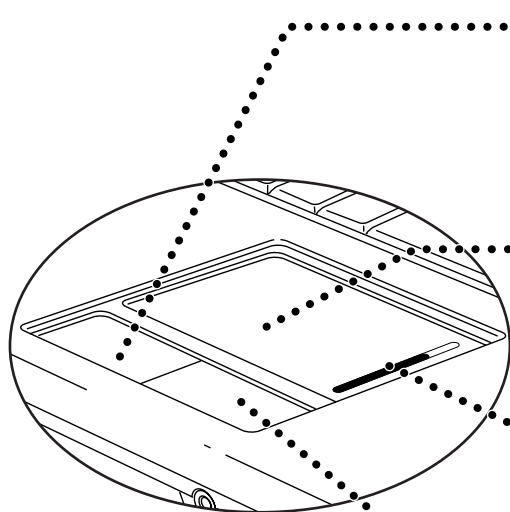
1 ディスプレイカバーを閉じ、本体を裏返して、静かに置きます。

2 バッテリロック用ラッチを矢印の方向にスライドして、ロックを解除します。

3 バッテリ取り外し用ラッチを矢印の方向に指でスライドさせながら(①)、バッテリパックを取り外します(②)。

4 交換用のバッテリパックを矢印の方向に動かしながら取り付けます。

メモ

・バッテリ取り外し用ラッチがロックされるまで、確実にはめ込んでください。

5 バッテリロック用ラッチを矢印の方向にスライドして、ロックします。

タッチパッドを使ってみよう

本機では、文字の入力以外、ほとんどの操作をタッチパッドで行います。ここでは、タッチパッドの基本操作を説明します。

タッチパッドの名前とはたらき

左ボタン
左クリックするときに押します。ダブルクリックするときは、このボタンを素早く2回押します。
本機の電源をONにすると、タッチパッドボタンの仕切り線がLEDで表示されます。

タッチパッド
指を触れて動かすと、画面上のマウスポインタがその動きに応じて動きます。指で軽く"トン"と1回たたくと左クリック、"トントン"とたたくとダブルクリックがボタンを使わずにできます。

スクロールパッド
上下になぞると、動きに合わせて画面が上下にスクロールします。

右ボタン
右クリックするときに押します。
Windowsでは、右クリックするとショートカットメニューが表示されます。
本機の電源をONにすると、タッチパッドボタンの仕切り線がLEDで表示されます。

注 意

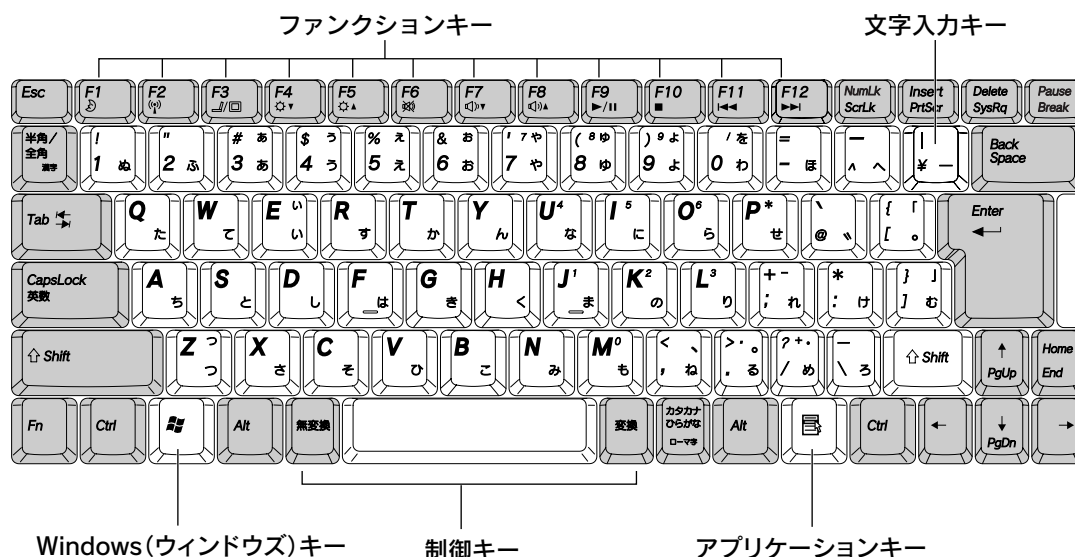
- タッチパッドをペン先などの先の尖ったもので触れないでください。故障の原因となります。
- 2本以上の指や手袋をした指、また、濡れた指などで操作しないでください。正常に動作しません。また、指先の皮脂や汚れによっても正常に動作しない場合があります。そのときは、十分に汚れを取り除いてからご使用ください。
- マウスポインタはタッチパッドを軽く触れるだけで動作します。必要以上に力を入れたり無理な姿勢で操作すると、指や手首を傷める原因となります。

SOTEC「電子マニュアル」参照

タッチパッドの操作方法
メニュー>ユーザーズガイド応用編>マウス>マウスの操作方法

キーボードを使ってみよう

キーボードは、文字や記号を入力したりパソコンへ指示をする役目をもっています。ここでは、キーボードの各キーの名前や機能について説明します。

キーはその機能によって、役割が大きく5つに分かれます。
本書では便宜上、キーボードにアミをかけて説明しています。実際のキーボードは色分けされていません。

■Windowsキー

単独で押すとWindows XPの「スタート」メニューを表示します。次のキーと合わせて押すと、Windows XPの代表となる機能がすぐに使えます。

[Windows]+[F1]	Windows XPの「ヘルプとサポートセンター」を表示
[Windows]+[M]	ウィンドウの最小化
[Windows]+[Tab]	タスクバーに表示されているボタンの切り替え
[Windows]+[R]	【ファイル名を指定して実行】ダイアログを表示
[Windows]+[E]	マイコンピュータを起動
[Windows]+[F]	ファイルとフォルダ検索画面を起動
[Windows]+[Pause]	【システムのプロパティ】ダイアログを表示
[Windows]+[Ctrl]+[F]	コンピュータの検索画面を起動

■アプリケーションキー

タッチパッドの右ボタンに相当します。使用するアプリケーションによって動作が異なります。お使いのアプリケーションソフトのマニュアルを参照してください。

■制御キー（薄いアミ部分）

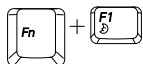
文字入力キーと組み合わせて使うキー、入力位置を決めるキー、パソコンに対してコマンド（命令）を送るキーなどです。これらのキーだけを使って文字を直接入力することはできません。

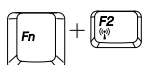
■文字入力キー

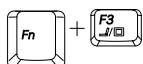
主に、アルファベットやひらがな、カタカナ、数字、記号などを入力するためのキーです。1つのキーに2つ以上の文字が割り当てられており、[CapsLock][Shift][NumLk][ひらがな][カタカナ]の各キーと組み合わせて、目的の文字が入力できます。

ファンクションキー

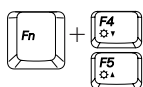
制御キーの一つである[Fn]キーとファンクションキーの組み合わせにより、画面の輝度を変えたり、省電力機能を作動させたりできます。

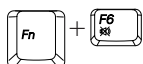
省電力機能を実行する

[Fn]キーを押しながら[F1]キーを押すと、休止状態に入ります。
(☞ 26ページ)
休止状態から復帰する場合は、電源スイッチを1回押します。(繰り返し押したり、長押しをしないでください。電源がOFFになります。)

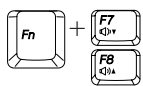
ワイヤレスLAN機能を実行する

[Fn]キーを押しながら[F2]キーを押すと、ワイヤレスLAN機能がONになります。(☞ 38~41ページ)
もう一度押すとOFFに戻ります。

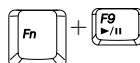
本体ディスプレイ表示か外部ディスプレイ表示かを切り替える

[Fn]キーを押しながら[F3]キーを1回押すごとに、①から③の順で、映像の表示先が切り替わります(③の次は①に戻ります)。

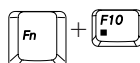
①本体ディスプレイ
②外部ディスプレイ端子
③本体ディスプレイ+外部ディスプレイ端子

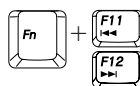
輝度を調整する

[Fn]キーを押しながら[F4]キーを押すごとに、ディスプレイの輝度が下がり、[F5]キーを押すごとにディスプレイの輝度が高くなります。

スピーカの音を消す(ミュート)

[Fn]キーを押しながら[F6]キーを押すと、スピーカの音が消えます。もう一度[Fn]キーを押しながら[F6]キーを押すと元に戻ります。

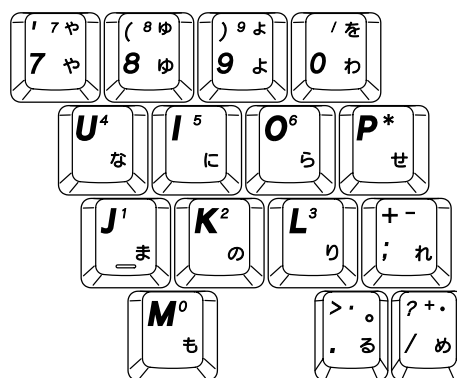
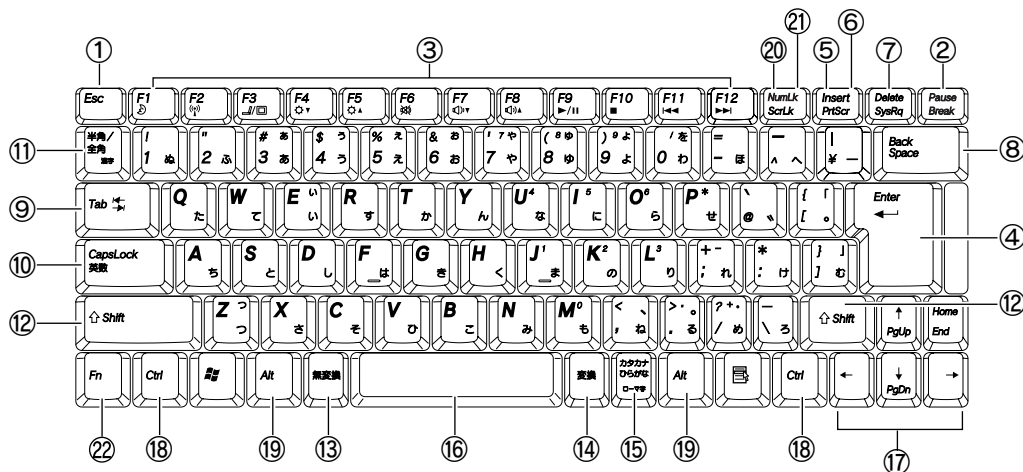
スピーカの音量を調整する

[Fn]キーを押しながら[F7]キーを押すごとに音量が下がり、[F8]キーを押すごとに音量が上がります。
(☞ 36ページ)

音声/映像を再生する

[Fn]キーを押しながら[F9]キーを押すと、音声/映像ファイルが再生します。再生中に[Fn]キーを押しながら[F9]キーを押すと、音声/映像ファイルが一時停止ます。

音声/映像を停止する

[Fn]キーを押しながら[F10]キーを押すと、音声/映像ファイルが停止します。

音声/映像の頭出しをする

[Fn]キーを押しながら[F11]キーを押すと現在再生している前の音声/映像ファイルが再生され、[F12]キーを押すと現在再生している次の音声/映像ファイルが再生されます。

テンキーを使って数字を入力する

通常、数字は英数モードのときにファンクションキーの下に並んでいるキーで入力することができますが、[NumLk]キーを押すことで、キーボードの図の部分(ニューメリックキー)でも数字を入力できるようになります。文字よりも数字の入力のほうが多いという場合などは、電卓のテンキーのように使うことができます。

各キーの機能

中止や中断させるコマンド(命令)を送る

① Esc（エスケープ）キー
設定を取り消したり、実行を中止します。

② Pause Break（ポーズ・ブレーク）キー
実行されている命令を中断したり、ブレーク信号を送ります。

設定されている機能を呼び出す

③ ファンクションキー
F1からF12キーまでの12個のキーにそれぞれ別の機能やコマンド（命令）が割り付けられています。キーを押したときの動作はアプリケーションにより異なります。

コマンド(命令)や設定された機能を決定する

④ Enter（エンター）キー
あるコマンド（命令）の実行を決定したり、設定された機能を確定させます。
文字を入力しているときは、このキーで改行できます。

画面のハードコピーをとる

⑤ PrtScr（プリントスクリーン）キー
表示されている画面を取り込んでクリップボードに転送します。

文字を編集する

⑥ Insert（インサート）キー【ロックされます】
文字入力のモードを切り替えます。1回押すごとに、カーソル位置にある文字の間に入れる「インサートモード」と、カーソル位置の文字に上書きする「タイプオーバーモード」が切り替わります。

⑦ Delete（デリート）キー
カーソル位置から右側の文字を削除します。カーソル位置は変わりません。

⑧ Back Space（バックスペース）キー
カーソル位置から、左側の文字を削除します。カーソル位置は左に動きます。

⑨ Tab（タブ）キー
文字を入力しているときに押すと、タブが入りカーソルが右に移動します。Shiftキーと同時に押すと、一つ前のタブ位置まで戻ります。
表計算やデータベースなどのアプリケーションでは、次の項目への移動などに使われます。

文字入力キーと組み合わせて、文字を入力する

⑩ CapsLock（キャップスロック）・英数キー【ロックされます】
アルファベットを入力するときの文字種を切り替えます。Shiftキーと同時に1回押すごとに、「大文字モード」と「小文字モード」が切り替わります。
ひらがな/カタカナモードから、アルファベットや数字を入力する英数モードに切り替えるときにも使います。（☞33ページ「メモ」）

⑪ **半角/全角キー【ロックされます】**
文字を入力しているときの文字種を切り替えます。Windows XPの日本語入力システムMicrosoft IMEでは、1回押すごとに「日本語入力モード」がオン/オフになります。
Altキーと同時に押すと「日本語入力モード」になります。

⑫ **Shift（シフト）キー**
ほかのキーと同時に押して別の機能を実行したり、実行方法を変えたりすることができます。たとえば、「大文字モード」で文字を入力しているときに、アルファベットキーと同時に押すと、小文字で入力することができます。

空白を入れたり、漢字に変換する

⑬ **無変換キー**
日本語入力システムを使っているときに、入力した文字を漢字などに変換したくない場合に押すと、入力モードが変わります。

⑭ **変換キー**
日本語入力システムを使っているときに、入力した文字を漢字などに変換します。

⑮ **カタカナ/ひらがなキー【ロックされます】**
「カタカナモード」と「ひらがなモード」を切り替えます。「カタカナモード」のときはこのキーだけ押すと「ひらがなモード」に、「ひらがなモード」のときはShiftキーと同時に押すと「カタカナモード」に切り替わります。
Ctrl＋Shiftキーと同時に押すと、カナキー入力のオン/オフを切り替えることができます。

⑯ **スペースキー**
文字を入力しているときに押すと、スペース(空白)が入ります。

カーソルを動かす

⑰ **カーソルキー**
キーに表記されている矢印の方向に、カーソルが移動します。

ほかのキーと組み合わせて機能を実行する

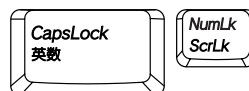
⑱ **Ctrl（コントロール）キー**
文字入力キーや、ほかの制御キーと組み合わせて使うと、特定の動作ができます。

⑲ **Alt（オルト）キー**
オルタネートキーともいい、文字入力キーや、他の制御キーと組み合わせて使うと、特定の動作ができます。

⑳ **NumLk（ニューメリックロック）キー【ロックされます】**
ロックすると、テンキーをテンキーとして動作させます。ロックを外すと、テンキーを特定の動作キーとして動作させます。(☞下記「メモ」)

㉑ **ScrLk（スクロールロック）キー【ロックされます】**
Fnキーと同時に押して使用します。使用しているソフトにより動作は異なりますが、通常はカーソルキーの動きを変えることができます。

メモ

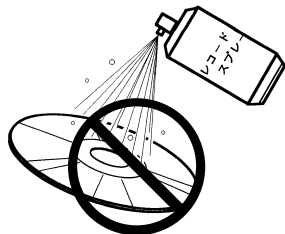
・キーには、1回押すごとに状態が固定されてロック状態になるキーと、固定されずに押したときだけ機能するキーの2通りがあります。
ロックされるキーの中でも下の2種類のキーは、ロック状態になるとキーボード上のステータスLEDが点灯します。

㉒ **Fn（エフエヌ）キー**
他のキーと組み合わせて、画面の輝度を変えたり、省電力機能を作動させたりできます。
(☞31ページ)

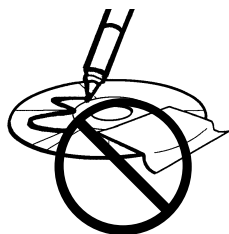
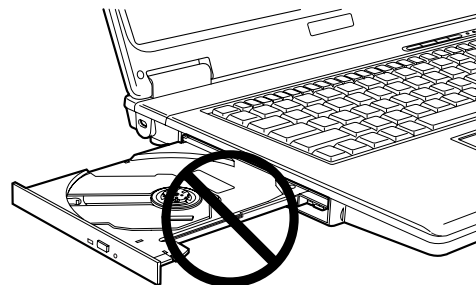
ご使用の前に

CD-ROMを使ってみよう

ここでは、CD-ROMの使いかたを説明します。

CD-ROMを使うときの注意

光ディスクドライブやCD-ROMディスクの取り扱いにあたっては次の点に十分注意してください。また、CD-ROMディスクを使わない場合は、パソコンの電源をOFFにする前にドライブから取り出して、適切な場所に保管してください。

清掃するときは、レコード用クリーナーやベンジン、シンナーではなく、必ずCD専用のクリーナーを使ってください。また、レンズクリーナーは乾式のものを使用してください。湿式は汚れを増長させますので絶対に使わないでください。

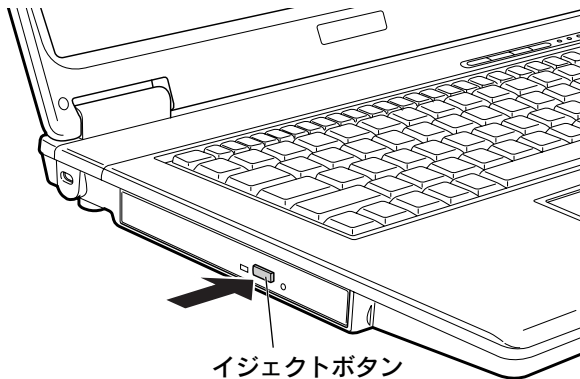
強い衝撃を与えたり表面に傷を付けないでください。また、ゴミやホコリの多い場所に置かないでください。読み込みエラーの原因となります。

記録面にラベルを貼ったり、ペンなどで字を書かないでください。

トレイを開けたままにしておかないでください。内部にゴミやホコリが入り込んで故障の原因となります。

SOTEC「電子マニュアル」参照

CD-ROMディスクの規格について
メニュー＞ユーザーズガイド応用編＞CD/DVD＞CD/DVDのディスクの規格について

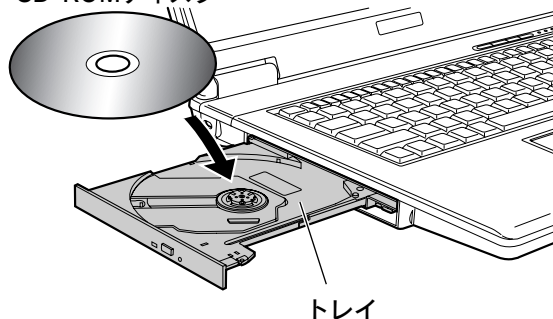
CD-ROMディスクの出し入れ

1 **イジェクトボタンを押します。**

トレイが出てきます。

イジェクトボタン

チェック

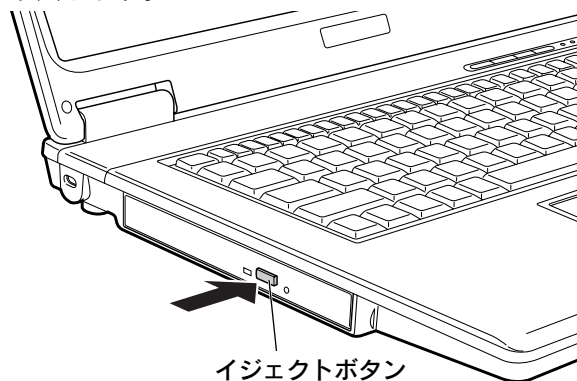
本機の光ディスクドライブは、本機の電源がONになっていないと動作しません。

2 **CD-ROMディスクの記録面をトレイ側に向けて、トレイにセットします。**

チェック

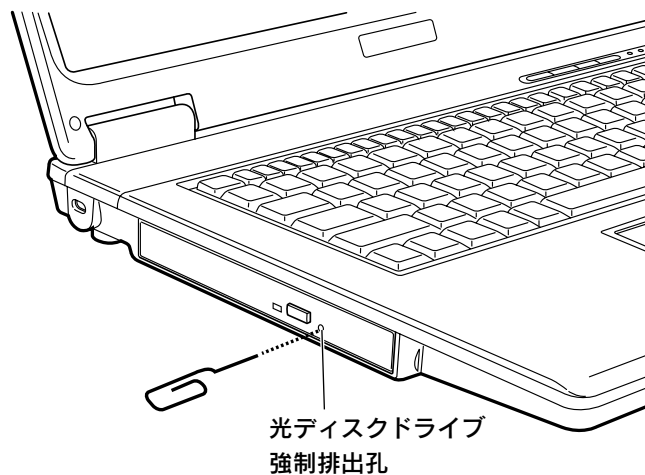
CD-ROMディスクはトレイの中心部で固定します。「カチッ」という音がするまで確実にCD-ROMディスクをトレイにセットしてください。

3 **トレイを押し込み、光ディスクドライブを閉じます。**

4 **CD-ROMディスクを取り出すときは、再度イジェクトボタンを押します。**

トレイが出てくるので、CD-ROMディスクを取り出します。

トレイが出てこない場合は・・・

イジェクトボタンを押してもトレイが出てこない場合、光ディスクドライブ強制排出孔に、針金など(太さ1mm前後)を押し込んでください。トレイを手動で取り出すことができます。

ご使用の前に

音量を調整する

本機には、サウンド機能が搭載されており、音声を入出力する端子が用意されています。ここではサウンド機能の使いかたを説明します。

内蔵スピーカについて

本製品にはステレオスピーカが内蔵されています。スピーカからは3種類の音源から音声を出力できます。それぞれの音源は、Windowsの「ボリュームコントロール」で個別に音量の調整やミキシングができます。

PCスピーカ	コンピュータに標準で装備されている“ビープ音”を発生する音声です。
デジタルサウンド機能	16ビットDAコンバータを使用したサウンド回路からの再生音声、およびFMシンセサイザ音源から出力される音声です。
マイク入力	マイク端子に接続されたマイクまたは内蔵マイクからの音声です。

スピーカの音量を調整する

スピーカ/ヘッドホンの音量は次のように調整します。

キーボードから調整する

キーボードのファンクションキーから音量を調整できます。
Fnキーを押しながらF7キーを押すごとに音量が下がり、F8キーを押すごとに音量が上がります。

SOTEC「電子マニュアル」参照

Windowsからの音量の調整
メニュー＞ユーザーズガイド応用編＞音声＞Windowsからの音量調節

音声の録音
メニュー＞ユーザーズガイド応用編＞音声＞パソコンへ録音

画面の解像度を調整する

ディスプレイの解像度を変更して、より広い領域でWindowsを表示したり、フォントの大きさを変更して、文字をより見やすく表示できます。ここでは解像度や色数といった、画面の設定の変更方法について説明します。

解像度や色数の変更

画面の解像度、色数、フォントサイズは、【画面のプロパティ】ダイアログから調整できます。

1 デスクトップ上で右クリックして表示されるメニューから、［プロパティ］を選択します。

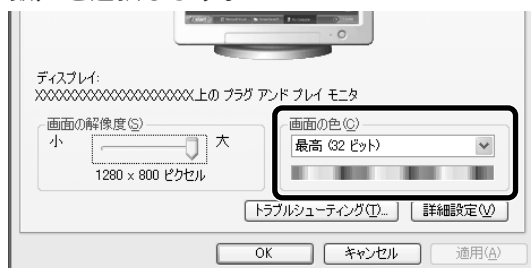
【画面のプロパティ】ダイアログが表示されます。

2 ［設定］タブを選択します。

3 を左右にスライドさせ、画面の解像度を選択します。

メモ

・初期設定は「1280×800ピクセル」です。

4 ボタンをクリックし、画面の色（表示する色数）を選択します。

5 ［適用］ボタンをクリックします。

変更を確認するダイアログボックスが表示されます。

6 ［はい］ボタンをクリックします。

SOTEC「電子マニュアル」参照

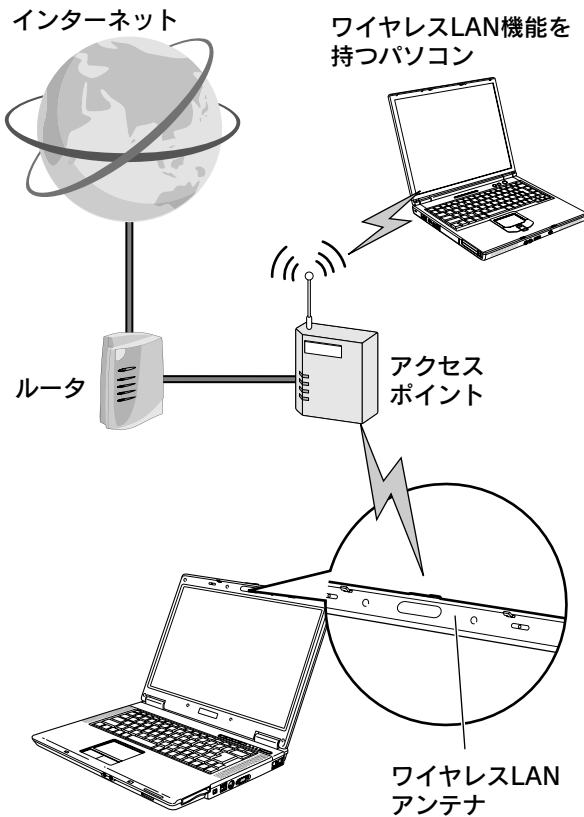
フォントサイズの変更方法
メニュー＞ユーザーズガイド応用編＞画像表示＞フォントサイズの変更

壁紙の設定
メニュー＞ユーザーズガイド応用編＞画像表示＞壁紙の設定

ワイヤレスLANを利用する

本機には、「IEEE802.11b/g」規格または「IEEE802.11a/b/g」規格に準拠したワイヤレスLANモジュールが内蔵されており、他のパソコンと無線通信ができます。（どちらのモジュールが内蔵されているかは、お客様のBTO選択構成により異なります。）

ワイヤレスLAN搭載モデルのみ

ワイヤレスLANとは？

無線でデータ通信

ワイヤレスLANとは、LANケーブルを使わないで、無線通信でデータをやり取りするLANのことです。
本機の他に、「アクセスポイント」と呼ばれる別売の中継機器と、ワイヤレスLAN機能を持つ他のパソコンを用意すると、本機と他のパソコンは無線通信でデータをやり取りできます。

インターネットにも接続可能

市販のルータをアクセスポイントと接続すると、本機にケーブルを接続することなく、ワイヤレスLAN経由でインターネットに接続できます。

・ワイヤレスLAN機能は、IEEE802.11b、IEEE802.11gおよびIEEE802.11a方式に準拠しております。それ以外の方式およびBluetooth方式対応の通信機器とは通信できません。
・電波障害によるノイズの発生など他の機器に影響を与える場合や、ワイヤレスLANの機能を使わないときは、ワイヤレスLAN機能をOFFにしてください。
・無線機器の使用が禁止されている区域では使用しないでください。
・IEEE802.11a方式は電波法により、使用が屋内に限定されます。

セキュリティに関するご注意

無線LANでは、電波で情報のやり取りを行うため、セキュリティに関する設定を行っていない場合、以下のような問題が発生する可能性があります。

●通信内容を盗み見られる

悪意ある第三者が、電波を故意に傍受し、次のような通信内容を盗み見られる可能性があります。

・IDやパスワードまたはクレジットカード番号等の個人情報
・メールの内容

●不正に侵入される

悪意ある第三者が、無断で個人や会社内のネットワークへアクセスし、次のような行為をされてしまう可能性があります。

・個人情報や機密情報を取り出す（情報漏洩）
・特定の人物になりすまして通信し、不正な情報を流す（なりすまし）
・傍受した通信内容を書き換えて発信する（改ざん）
・コンピュータウィルスなどを流しデータやシステムを破壊する（破壊）

セキュリティの設定を行わないで使用した場合の問題を充分理解した上で、お客様自身の判断と責任においてセキュリティに関する設定を行い、無線LANを使用してください。

ワイヤレスLANの仕様

ワイヤレスLANモジュールの仕様です。

※通信速度、通信距離は使用状況、電波環境、接続機器、使用のアプリケーションなどにより異なります。
※通信速度は規格による速度（理論値）であり、実際のデータ転送速度とは異なります。

●2.4GHz ワイヤレスLAN

規　格	IEEE802.11b/g準拠
電波方式	直交周波数分割多重方式(OFDM)、直接スペクトラム拡散方式(DSSS)
送受信周波数帯	2.4GHz帯
最大通信速度	54Mbps

●5GHz ワイヤレスLAN

IEEE802.11aにも対応したワイヤレスLANモジュールの、IEEE802.11aの仕様です。

※通信中にレーダー波（気象レーダーなど）を検出した場合、チャンネルの自動変更のため通信が中断される場合があります。

規　格	IEEE802.11a準拠
電波方式	直交周波数分割多重方式（OFDM）
送受信周波数帯	5GHz帯
最大通信速度	54Mbps

ワイヤレスLANに接続する

自動認識での設定

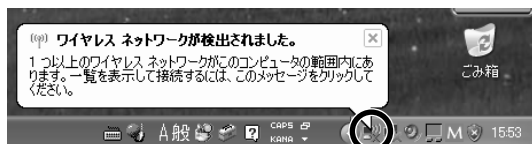
1 **Fnキーを押しながらF2キーを押します。**

ワイヤレスLANの機能が作動すると、ワイヤレスLAN LED（☞24ページ）が点灯します。

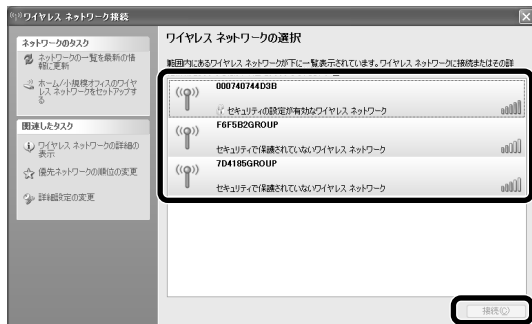
メモ

・接続可能なワイヤレスLANが検出されると、タスクバーにメッセージが表示されます。

2 **タスクバーに表示された［ワイヤレスネットワーク接続］アイコンをクリックします。**

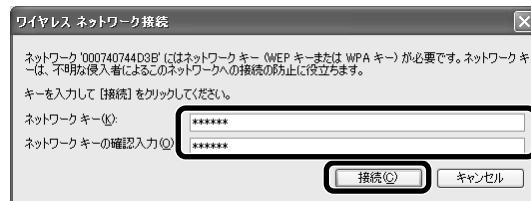
ワイヤレスネットワーク接続プログラムが起動します。

［ワイヤレスネットワーク接続］アイコン

3 **ネットワーク一覧から使用するワイヤレスネットワーク(アクセスポイント)を選択して、［接続］ボタンをクリックします。**

ネットワークキーの入力画面が表示されます。

メモ

・一覧にネットワーク(アクセスポイント)が表示されない場合は、［ネットワーク一覧を最新の情報に更新］をクリックします。
・ワイヤレスLANが[Wireless Provisioning Services]をサポートしている場合は、ワイヤレスLAN接続に使用する追加ファイルをダウンロード、のメッセージが表示されます。
［ダウンロード］のボタンをクリックして追加ファイルをダウンロードします。
・セキュリティに保護されていないワイヤレスLANに接続する場合、警告メッセージが表示されます。
そのまま接続する場合は、［接続］ボタンをクリックします。セキュリティを設定する場合は、［キャンセル］ボタンをクリックして終了させ、セキュリティの設定後、再度ワイヤレスLANの接続を行います。

4 **「ネットワークキー」と「ネットワークキーの確認入力」を入力して、［接続］ボタンをクリックします。**

本機がワイヤレスLANに接続されます。

メモ

・ご使用のワイヤレスLANがセキュリティにより保護されており、ネットワークキーが自動的に取得される設定になっている場合は、ネットワークキーの入力画面は表示されず、そのままワイヤレスLANに接続されます。
・別途、ネットワーク設定が必要な場合があります。

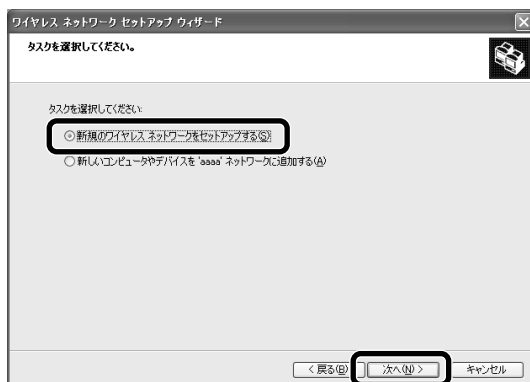
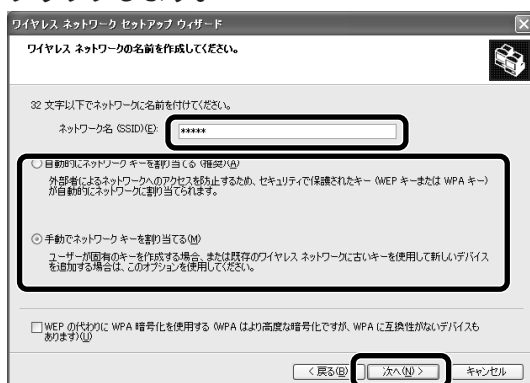
手動での設定

1 **左段「自動認識での設定」の手順1、2を実行します。**

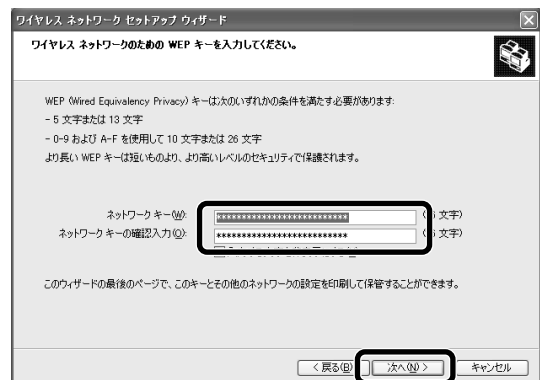
2 **ネットワークタスク内の［ホーム/小規模オフィスのワイヤレスネットワークをセットアップする］をクリックします。**

ワイヤレスネットワークセットアップウィザードが起動します。

3 ［次へ］ボタンをクリックします。

4 「新規のワイヤレスネットワークをセットアップする」を選択して、［次へ］ボタンをクリックします。

5 「ネットワーク名」を入力して、ネットワークキーの割り当て方法を選択し、［次へ］ボタンをクリックします。

メモ

・自動でネットワークキーを割り当てる場合は、手順7へ進みます。

6 「ネットワークキー」と「ネットワークキーの確認入力」を入力して、[次へ]ボタンをクリックします。

7 ネットワーク設定をUSBフラッシュメモリに保存したい場合は、「USBフラッシュドライブを使用する」を選択、USBフラッシュメモリを使用しない場合は、「ネットワークを手動でセットアップする」を選択して、［次へ］ボタンをクリックします。

8 ［完了］ボタンをクリックします。

本機がワイヤレスLANに接続されます。

メモ

別途、ネットワーク設定が必要な場合があります。

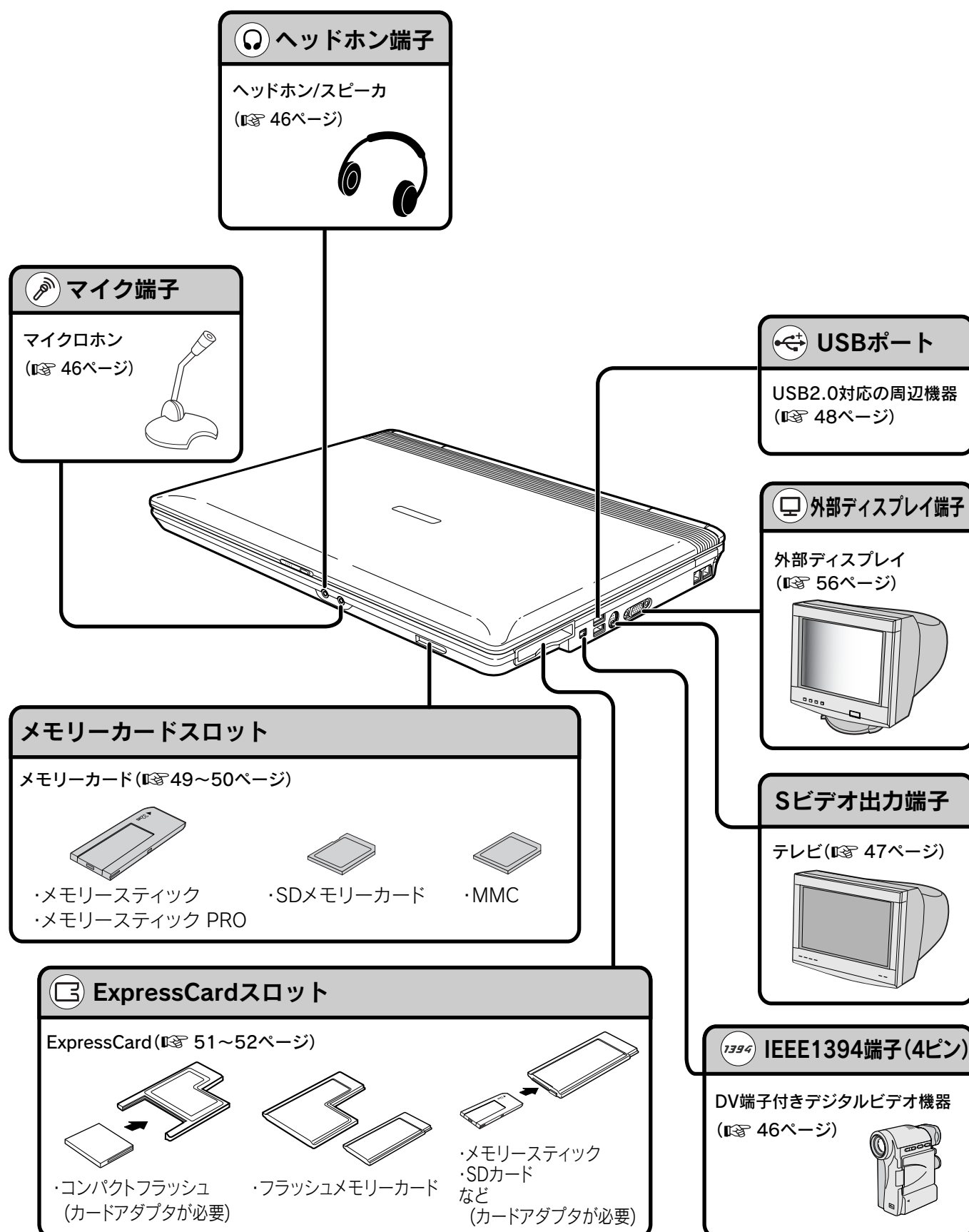
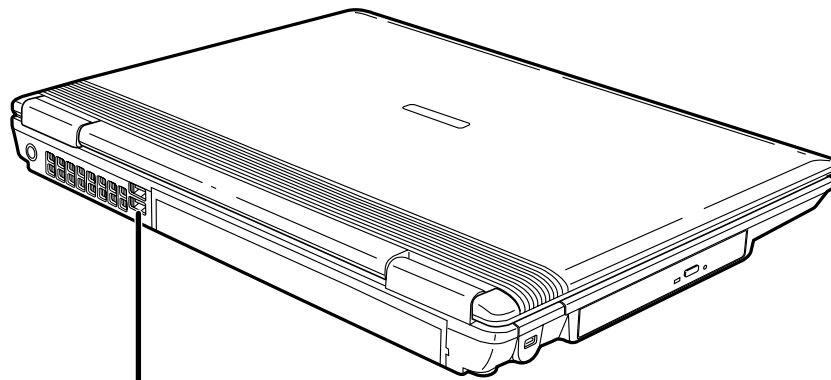
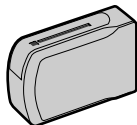
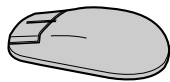
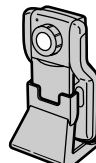
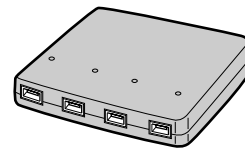
■ワイヤレスLAN接続を終了する

1 Fnキーを押しながらF2キーを押します。

本機がワイヤレスLANから切断され、ワイヤレスLAN LEDが消灯します。

使用できる周辺機器

本機には、さまざまな周辺機器が接続できます。次にその一例を紹介します。

前面&右側面

背面

USBポート
USB2.0対応の周辺機器(☞ 48ページ)
・カードリーダ/ライタ
・USB対応マウス
・CCDカメラ
・USBハブ など

周辺機器を取り付ける前に

周辺機器を取り付ける前に、まず確認したり、作業しなければならないことを説明します。

電源をOFFにする

ケーブル類や、周辺機器を取り付けるときは、本機の電源をOFFにし、電源ケーブルをACコンセントから取り外します。電源ケーブルが接続されたまま周辺機器を取り付けると、本機を壊したり、感電する恐れがあります。

メモ

・次の機器は、パソコンの電源をONにしたまま、取り付けや取り外しができます。
  - ・USB対応の機器
  - ・IEEE1394対応の機器
  - ・ExpressCard対応の機器
  - ・メモリースティック
  - ・メモリースティック PRO
  - ・SDメモリーカード
  - ・MMC

1 **本機の電源をOFFにします。**

「電源のOFF」（16ページ）

2 **電源ケーブルを取り外します。**

3 **周辺機器を取り付けます。**

本体内部の機器を取り付けたり、取り外したりするときは、金属のへりでけがをしないよう、手袋をして作業をするなど十分に気を付けてください。

取り付け時の注意事項

体の静電気を取り除いてください

基板がむき出しになっているメモリなどは、静電気に弱く、帯電した手で触ると壊れてしまう恐れがあります。ドアのノブなど、身近な金属に触れて、体に帯電している静電気を取り除いてから、これらの機器を取り付けてください。

ユーザーズガイドをよく読んでください

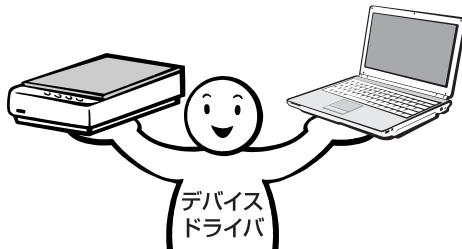
周辺機器などは、取り外しや取り付けを間違うと、機器を壊してしまう恐れがあります。本書をよく読んでから、周辺機器を取り付けてください。

周辺機器に付属のマニュアルをよく読んでください

周辺機器に付属のマニュアルには、取り付け方法や、取り付けたあとに必要となるソフトウェアやハードウェアの設定方法が詳しく書かれています。
周辺機器のマニュアルをよく読み、必要な機器、および必要な設定ファイル（デバイスドライバなど）を理解し、これから始める接続作業に備えてから、周辺機器を取り付けてください。

プラグアンドプレイについて

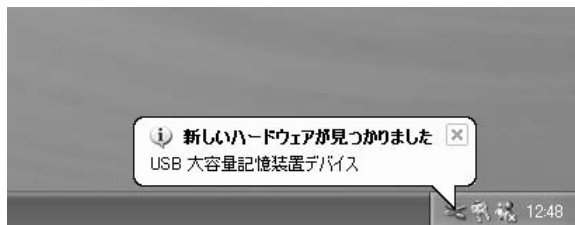
Windows XPには、周辺機器を取り付けるだけで、すぐに使用できる状態に設定する「プラグアンドプレイ」という機能があります。プラグアンドプレイを実現するには、周辺機器に対応したデバイスドライバがWindows側で用意されている必要があります。
用意されていない場合は、Windowsのウィザード機能を使って、デバイスドライバをWindowsにインストールします。

メモ

周辺機器を使うときは、「デバイスドライバ」と呼ばれる周辺機器をコントロールするソフトウェアが必要です。
デバイスドライバは、あらかじめ本機のWindows側で用意されている場合と、周辺機器に付属している場合（CD-ROMディスクなどで提供されています）があります。周辺機器メーカのホームページから入手することもできます。

デバイスドライバがWindowsにある場合

周辺機器に対応したデバイスドライバが、すでにWindows側で用意されている場合は、周辺機器を取り付けるだけで、すぐに使える状態になります。

1 周辺機器を取り付けたあとに、電源をONにします。

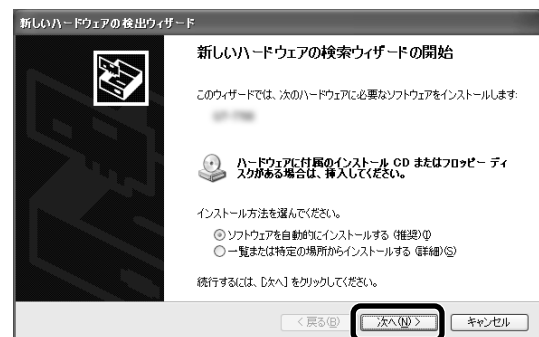
デスクトップ画面右下のタスクバーに、「新しいハードウェアが見つかりました」と吹き出しが表示されます。
これで、周辺機器が使えるようになります。

チェック
プラグアンドプレイに対応した周辺機器でも、設定が自動で行われない場合があります。

デバイスドライバがWindowsにない場合

周辺機器に対応したデバイスドライバがWindowsにない場合、周辺機器に付属しているデバイスドライバをWindowsにインストールします。

1 周辺機器を取り付けたあとに、電源をONにします。

【新しいハードウェアの検索ウィザード】ダイアログが表示されます。

2 ［次へ］ボタンをクリックします。

3 表示される指示に従って操作します。

デバイスドライバが正常にインストールされたことを示すメッセージが表示されたら、設定は終了です。

4 ［完了］ボタンをクリックします。

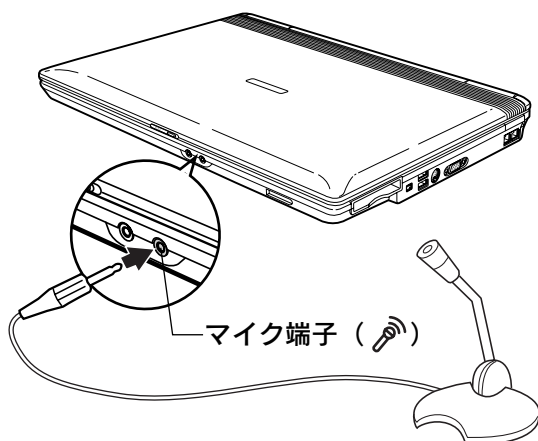
これで、設定は無事終了しました。

チェック
プラグアンドプレイに対応していない周辺機器の場合、デバイスドライバの組み込みや、リソースの設定を自分で行う必要があります。
また、周辺機器側のディップスイッチなどを変更する必要があります。
詳細は、お使いの周辺機器メーカへお問い合わせください。

AV機器と接続する

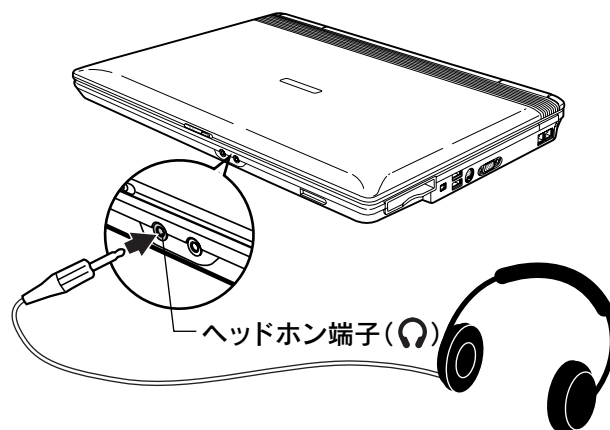
本製品と接続できるAV機器の紹介と接続方法を説明します。

マイクロホンと接続する

市販のマイクロホンのプラグを、本機のマイク端子（🎤）に接続すると、マイクロホンから音声を録音できます。

メモ

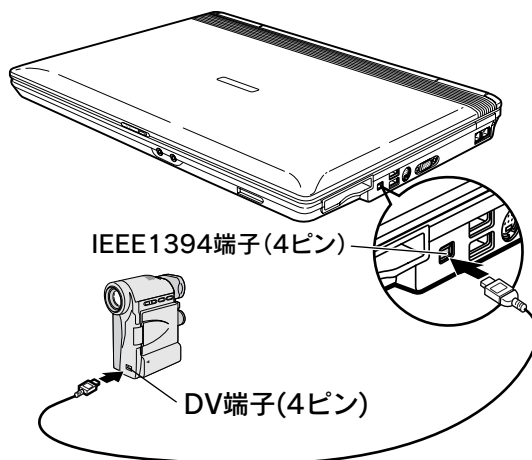
- マイクロホンはステレオタイプのミニプラグ付きマイクロホンを、電器店などでお求めください。
- スピーカにマイクロホンを近づけると、スピーカとマイクロホンが共振し、キーンという音が出ることがあります。これを「ハウリング」と呼びます。ハウリングは、マイクロホンをスピーカから遠ざけるか、入力レベルを小さくする（ボリュームコントロールで調整）ことで防ぐことができます。

ヘッドホンと接続する

市販のヘッドホンのプラグを、本機のヘッドホン端子（🎧）に接続すると、スピーカから音声を出力せずに、ヘッドホンから出力できます。

メモ

- ヘッドホンはミニプラグ付きヘッドホンを、電器店などでお求めください。

デジタルビデオ機器と接続する

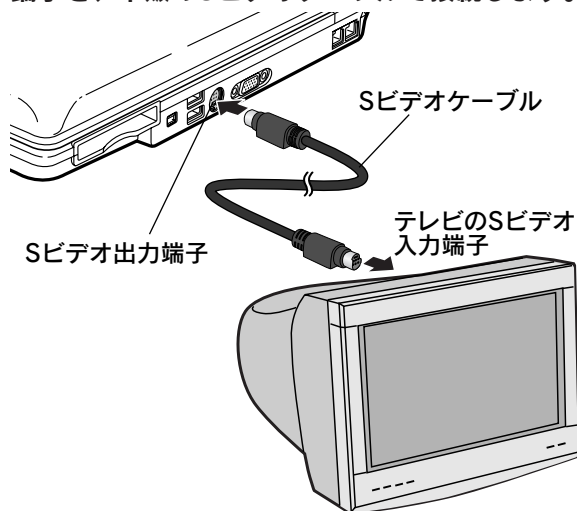
本機のIEEE1394端子（1394 4ピン）とDV端子を持つデジタルビデオ機器を接続して、映像および音声を取り込んだり、映像および音声をデジタルビデオ機器に出力できます。

メモ

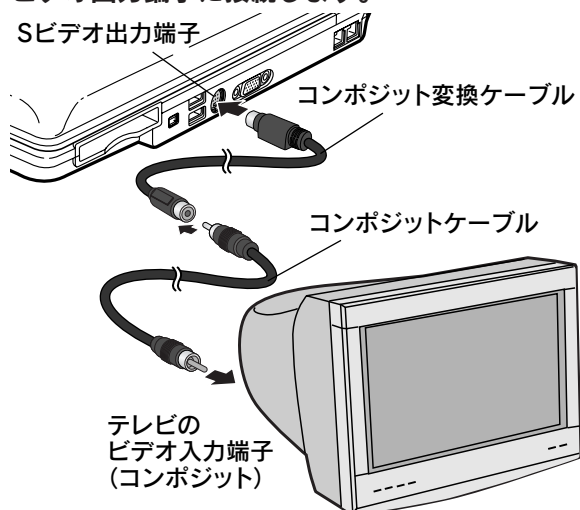
- IEEE1394端子はDV端子とも呼ばれています。

テレビと接続する

本機とテレビを接続して、パソコンの映像をテレビに表示できます。

テレビにSビデオ入力端子があるとき

1 本機のSビデオ出力端子とテレビのSビデオ入力端子を、市販のSビデオケーブルで接続します。

テレビにビデオ入力端子（コンポジット）があるとき

1 付属のコンポジット変換ケーブルを、本機のSビデオ出力端子に接続します。

2 コンポジット変換ケーブルに、市販のコンポジットケーブルを接続します。

3 市販のコンポジットケーブルを、テレビのビデオ入力端子（コンポジット）に接続します。

メモ

- Sビデオケーブル、およびコンポジットケーブルは、電器店などでお求めください。
- テレビへの映像表示切替は、Fn＋F3キーで行ってください。
  お使いの状態によっては、Fn＋F3キーで切替できない場合があります。その場合は、【画面のプロパティ】ダイアログの［設定］タブ（☞37ページ）にある［詳細設定］ボタンをクリックして、表示される設定画面を使って切り替えてください。

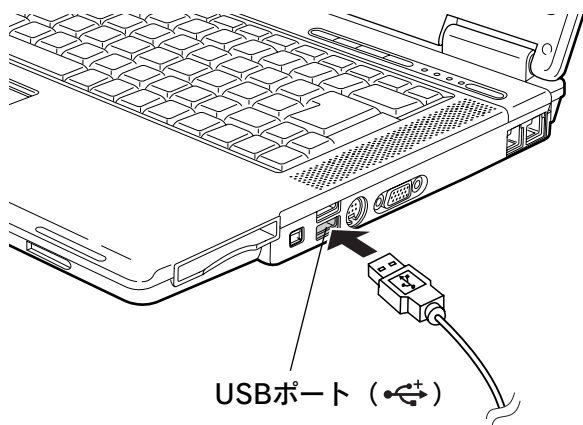
USB対応の周辺機器を使う

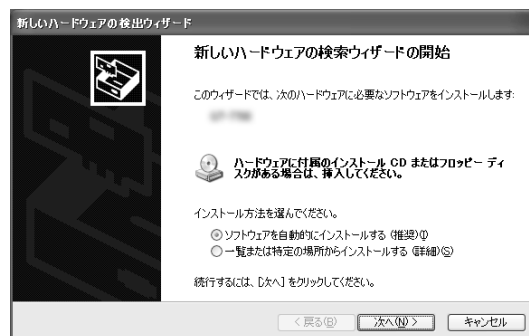
USBポートには、さまざまなUSB機器を接続して利用することができます。ここでは、本機の電源をONにした状態で、USB対応の周辺機器を接続する方法について説明します。

接続時の注意事項

・接続前に、デバイスドライバのインストールが必要なUSB機器があります。
・ケーブルには差し込む向きがあります。無理に差し込もうとしないで、方向を確認して正しく差し込んでください。
・本機には、4つのUSBポートを用意しています。どのUSBポートを使用しても構いません。
・USBポートの数が足りないときは、市販のUSBハブを接続して、USBポートの数を増やすことができます。

USB対応の周辺機器を接続する

1 本機のUSBポート（ ）に、USB機器のケーブルを差し込みます。

USB機器の接続後、しばらく待つと、画面の表示が切り替わり、【新しいハードウェアの検索ウィザード】ダイアログが表示されます。

2 表示される指示に従って操作します。

デバイスのインストールが終了したことを示すメッセージが表示されれば、設定は終了です。

・表示されないときは、USBポートからコネクタを一度抜き、3秒以上時間をおいてから、再度差し込んでみてください。
・USB機器に、Windows XP対応のデバイスドライバが付属されていない場合、USB機器をWindows XPで使うための専用デバイスドライバが別途必要になります。

3 ［完了］ボタンをクリックします。

接続したUSB機器によっては、このあと、ソフトウェアのインストールなどの作業が必要になります。

・次回からはUSBポートに接続するだけで、すぐに使用できます。
・異なるUSBポートにUSB機器を接続すると、【新しいハードウェアの検索ウィザード】が表示される場合があります。その場合は、設定を再度行ってください。

SOTEC「電子マニュアル」参照

USB
メニュー＞ユーザーズガイド応用編＞周辺機器＞USB

メモリーカードを使う

本機には、メモリーカードを読み書きするスロットがあります。

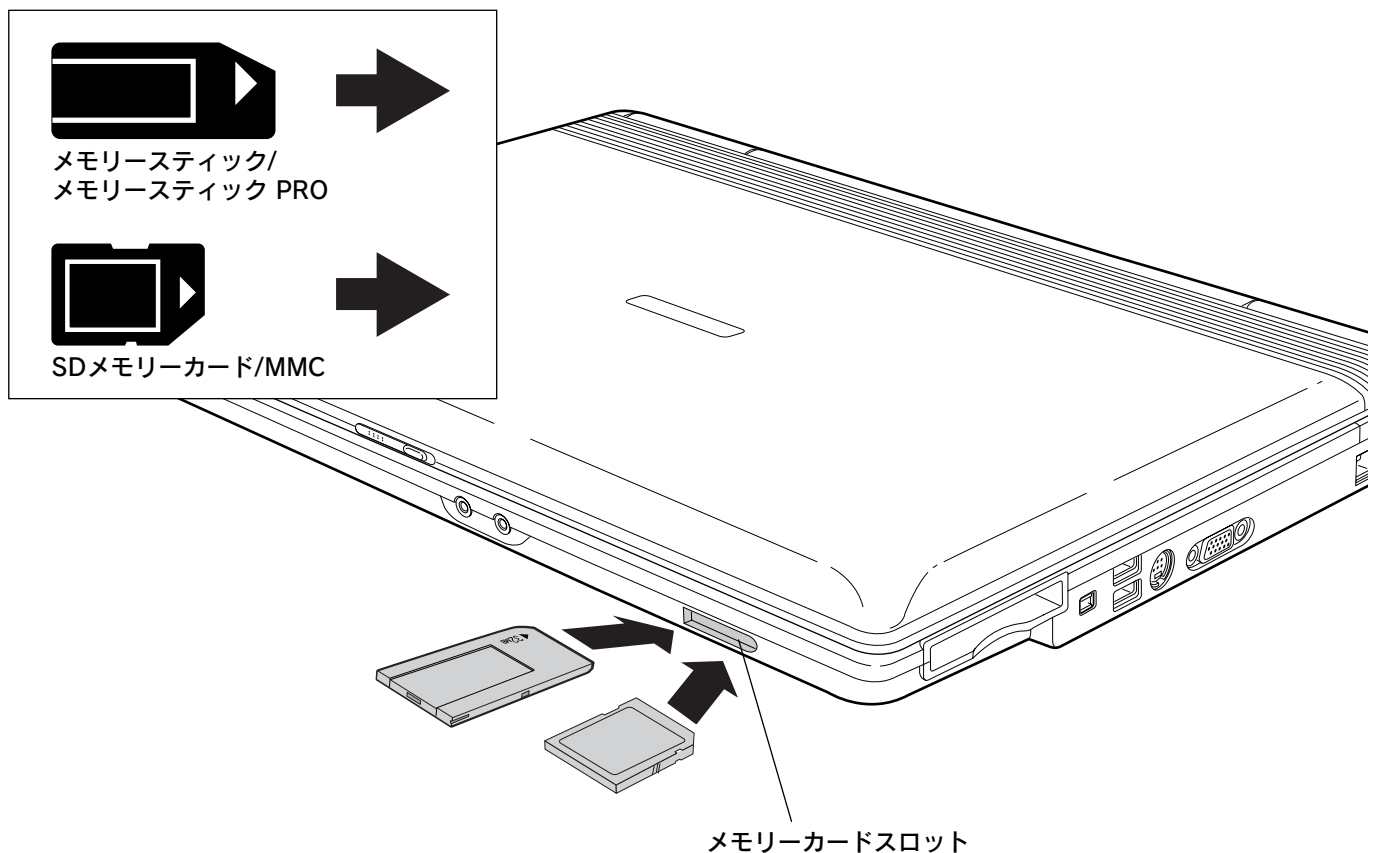
メモリーカードの種類

本機で使用できるメモリーカードの種類と機能は、次のとおりです。

使用できるメモリーカード	記憶容量	著作権保護機能	誤消去防止スイッチ
SDメモリーカード	～2GB	あり	あり
MMC	～1GB	なし	なし
メモリースティック	～128MB	あり	あり
メモリースティック PRO	～2GB	あり	あり

・表の情報は本書制作時のものです。
・画像ファイルなどのファイルデータの読み出し・書き込みができます。
・マジックゲートメモリースティックに著作権保護（暗号化）を施して記録された音声ファイルは、本機のメモリーカードスロットでは再生できません。
・本機でのSDメモリーカード使用にあたっては、SD I/Oおよび著作権保護機能には対応していません。

メモリーカードの差し込み方向

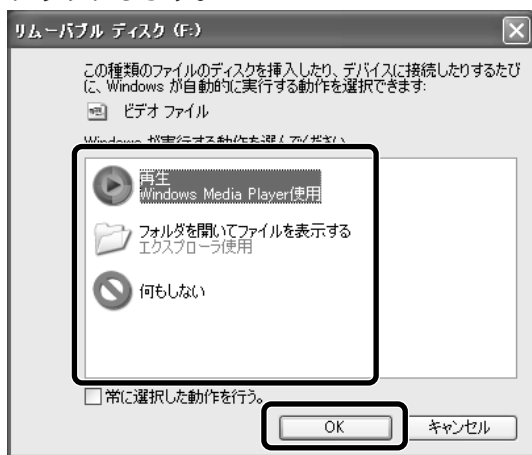
各種メモリーカードの差し込み方向は、次のとおりです。各種メモリーカードのラベルの向きや切り欠きの位置を確認して、正しく差し込んでください。

メモリーカードの差し込み

メモリーカードを差し込み、使用するまでの手順を説明します。

差し込む向きを確認して、本機のメモリーカードスロットにメモリーカードを確実に差し込みます。

しばらくするとメモリーカードが本機に認識され、ダイアログが表示されます。

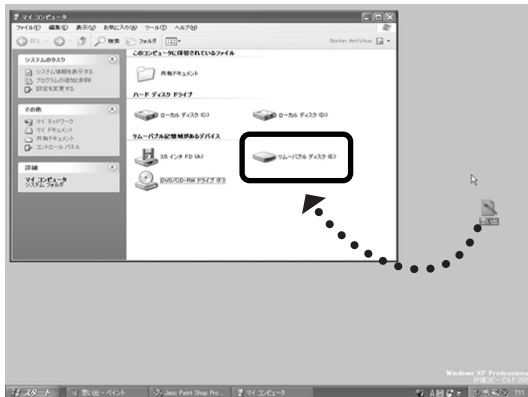
・メモリーカードには、それぞれ差し込む向きがあります。方向を確認して、正しく差し込んでください。
・メモリーカードには、それぞれ差し込む向きがあります。方向を確認して、正しく差し込んでください。
・「miniSDカード」または「メモリースティック デュオ」など、表に記載のない種類のカードは、本機で使用できません。
メモリーカードを本機に挿入する前に、種類を確認してください。

2 実行させたい動作を選択して、[OK] ボタンをクリックします。

表示されるダイアログは、メモリーカードに入っているファイルによって異なります。

メモ

・これらの動作を実行させたくない場合は、[キャンセル] ボタンをクリックします。

ファイルをコピーする

正しく認識されたメモリーカードのアイコンに、ほかのディスクからファイルをドラッグアンドドロップすると、メモリーカードにデータをコピーできます。

誤消去防止スイッチについて

SDメモリーカードの側面、およびメモリースティックの背面には、誤消去防止スイッチがあります。スイッチを「LOCK」に合わせると、データを誤って消去することを防止できます。

メモリーカードの取り出し

1 メモリーカードの動作が終了していること（データの読み書きが行われていない状態）を確認し、メモリーカードを取り出します。

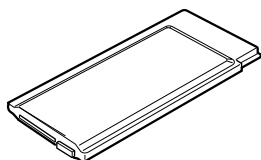
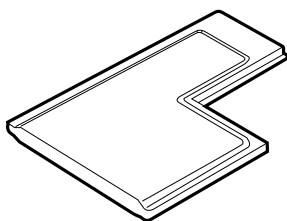
各種メモリーカードをWindows上で使用している間は、メモリーカードを取り出さないでください。メモリースロットの故障や、データが破損する恐れがあります。

「ハードウェアの安全な取り外し」を行うと、Windowsを再起動するまでメモリーカードが認識できなくなります。

ExpressCardを使う

ExpressCardスロットには、市販のExpressCardを差し込んで使用することができます。
ここではExpressCardの接続方法について説明します。
（PCカード（CardBus）は使用できません。）

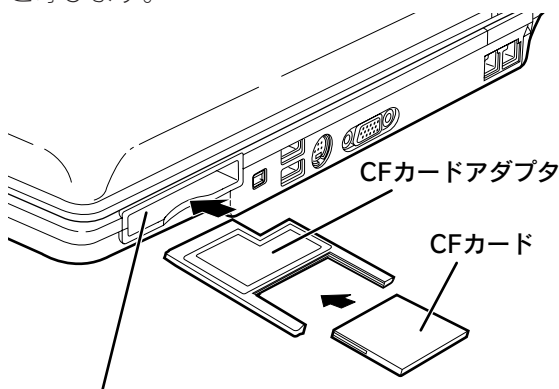
ExpressCardの種類

ExpressCardには、幅が34mmの「ExpressCard/34」と、幅が54mmの「ExpressCard/54」の2種類の規格があります。本機は、どちらの規格にも対応しています。

ExpressCard/34

ExpressCard/54

ExpressCardの差し込み

ここでは、デジタルカメラの画像の記憶媒体として使用されるコンパクトフラッシュを例に、本機に差し込んで使用するまでの手順を説明します。

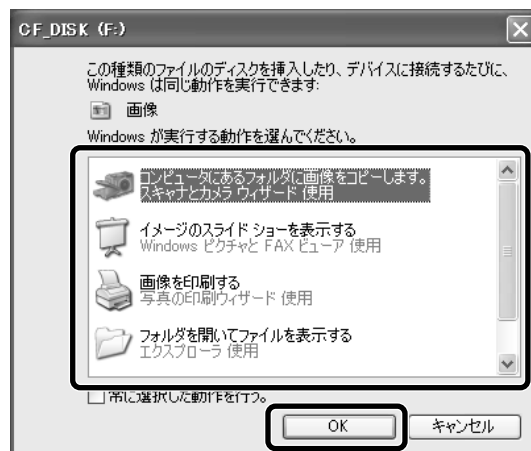
本機のExpressCardスロット（　）に、ExpressCardを差し込みます。

ここでは、コンパクトフラッシュアダプタに差し込んだコンパクトフラッシュをExpressCardと呼びます。

ExpressCardスロット（　）

しばらくすると、自動的に認識されます。
コンパクトフラッシュに画像などが保存されている場合は、スライドショーなどを自動的に行う機能が働きます。

チェック

- ExpressCardは差し込む向きがあります。無理に差し込もうとせず、方向を確認して正しく差し込んでください。
  差し込む方向については、ExpressCardに付属の取扱説明書を参照してください。
- ExpressCardを差し込む際は、スロットに対し平行に差し込んでください。無理な角度で差し込むと、スロットが機能しなくなることがあります。

2 実行させたい機能を選択して、[OK] ボタンをクリックします。

メモ

- 機能を実行させたくない場合は、[キャンセル] ボタンをクリックします。

チェック

ExpressCardによっては、接続後、さらに別の設定を行うものがあります。
ExpressCardに付属の取扱説明書を参照してください。

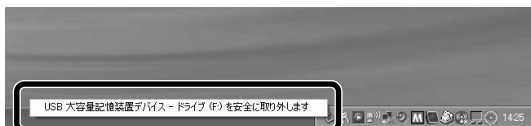
ExpressCardの取り出し

ExpressCardへのアクセス中に、本機からExpressCardを取り出すと、コンパクトフラッシュなどに記録されているデータが壊れる場合があります。取り外しは必ず次の手順で行ってください。

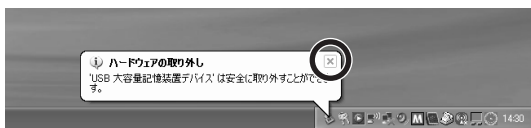
チェック

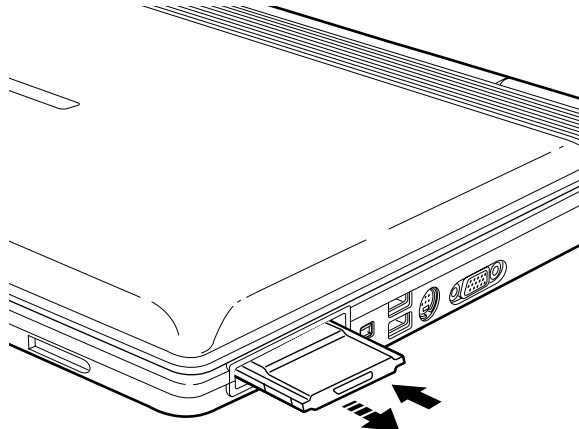
スタンバイ・休止状態でExpressCardを取り出すと、本機が正常に動作しない恐れがあります。ExpressCardの取り出しは、スタンバイ・休止状態から元の状態に戻してから、必ず次の手順で取り出してください。

1 **デスクトップ右下（タスクバー）の のアイコンをクリックします。**

2 **「USB大容量記憶装置デバイスードライブを安全に取り外します」を選択します。**

メモ

・表示されるメッセージは、差し込んでいるExpressCardによって異なります。

3 **次のようなダイアログが表示されたら ✕ ボタンをクリックします。**

4 **ExpressCardを押し込みます。**

ExpressCardがExpressCardスロットから少し出てきます。

チェック

ExpressCard/34は、スロットに対して幅が狭いため、スロットの端に寄って差し込まれます。取り出すときにカードの端を押すと、取り出せない場合があります。取り出すときは、カードの中央を押してください。

5 **ExpressCardをゆっくりと引き抜きます。**

メモリの増設/交換

複数のアプリケーションソフトを使っているときなどに、処理速度が遅いと感じるようになってきたら、メモリを増やしてみましょう。ここでは、メモリについての基本的な知識と、メモリの増設/交換方法について説明します。

メモリについて

メモリは、作業をするときの「作業机」のようなものです。机の上が広いと作業がしやすいように、メモリの総容量が大きいとアプリケーションソフトの動作も快適になります。

メモリが少ないと・・・

メモリ増設/交換作業の流れ

●本機の電源OFF
●バッテリパック・ACアダプタの取り外し

●メモリの交換（☞ 54ページ）

●交換したメモリの確認（☞ 55ページ）

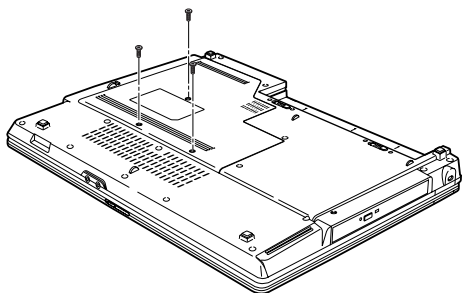
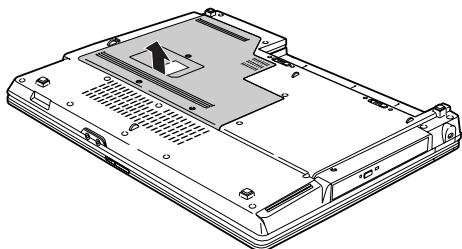
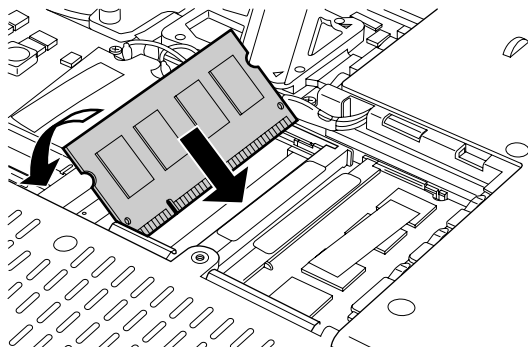
注意

メモリを取り扱うときに気をつけること

- 装着の前には、必ず本機の電源をOFFにしてください。
- 装着の前には、必ずバッテリパックとACアダプタを取り外してください。
- メモリは静電気にたいへん弱い部品です。静電気を帯びた物や人の手でメモリに触れると、メモリが壊れる恐れがあります。メモリを取り扱うときは、体の静電気を取り除いてください。(☞44ページ)
- メモリの端子部には触れないでください。端子部分に手を触れると、接触不良によりメモリが壊れる恐れがあります。
- メモリはたいへん壊れやすい部品です。取り外したメモリは大切に保管してください。

メモリの増設

1 ディスプレイカバーを閉じ、本体を裏返しにします。

2 メモリモジュールカバーを固定しているネジを取り外します。

3 メモリモジュールカバーを少しスライドさせて、持ち上げて取り外します。

4 新しいメモリをメモリスロットのコネクタ部へ差し込み、メモリのコネクタに差し込まれていない部分を「カチッ」と音がするまで下に押し込みます。

チェック

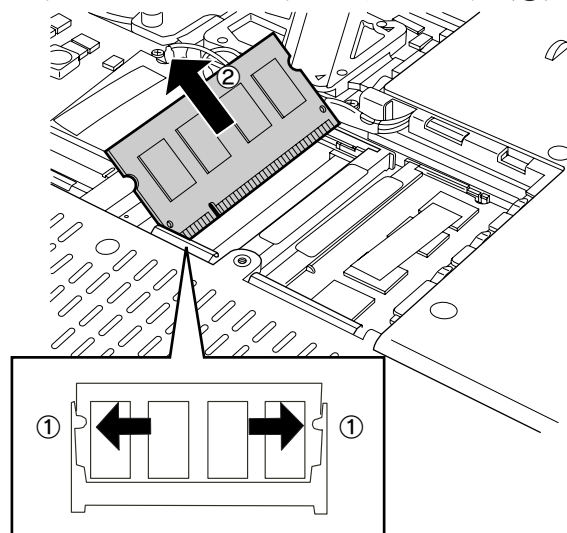
・メモリの向きを間違えないようにしてください。
・メモリ下部の切り欠きがメモリスロットの凸部に合うようにしてください。

5 メモリモジュールのカバーを取り付け、ネジで固定します。

6 バッテリパックを装着、ACアダプタを接続します。

メモリの交換

1 「メモリの増設」（☞左段）の手順1～3を行います。

2 メモリを固定しているフックを開いて（①）、メモリスロットからメモリを取り外します（②）。

チェック

フックを開くときは、無理な力を入れず慎重に行ってください。力を入れすぎると、曲がる恐れがあります。

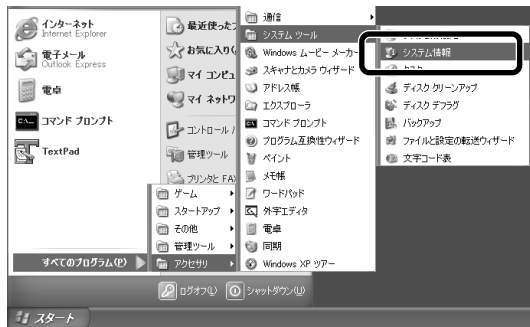
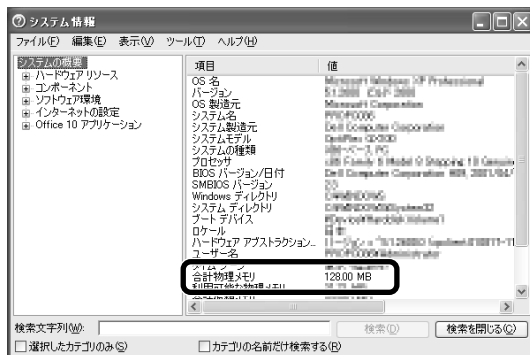
3 「メモリの増設」（☞左段）の手順4～6を行います。

交換したメモリを確認する

電源をONにして、メモリが増えているか確認しましょう。

1 本機の電源をONにします。

2 [スタート]ボタン→[すべてのプログラム]→[アクセサリ]→[システムツール]→[システム情報]を選択します。

【システム情報】ウィンドウが表示されます。ウィンドウの表示後しばらくすると、システム情報の各項目が表示されます。

3 ここに表示されている数値を確認します。

チェック

表示されたメモリの数値が増えていない場合は、メモリが正しく取り付けられているか、このパソコンで使えるメモリかご確認ください。

周辺機器の接続

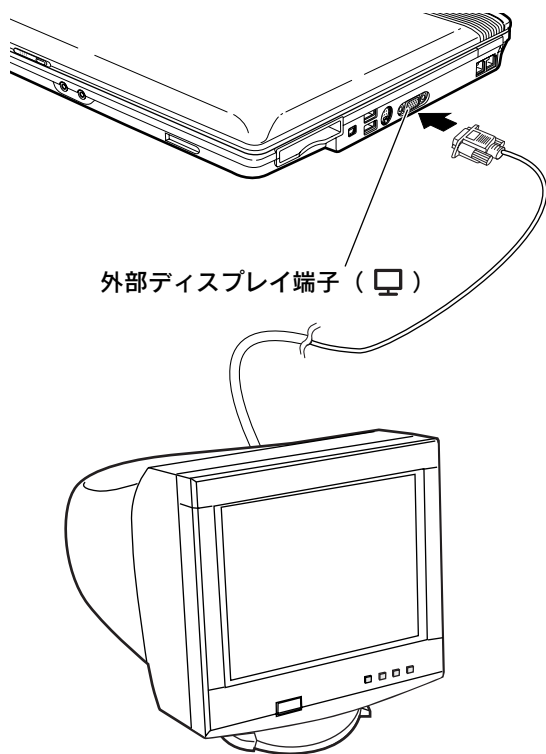
外部ディスプレイを接続する

本機には、外部ディスプレイを接続するためのコネクタが装備されています。

本機の電源をOFFにします。

チェック

・機器の接続の前に、本機の電源は必ずOFFにしてください。
・スタンバイや休止状態といった省電力機能が働いている状態では接続しないでください。省電力機能の状態の場合は、再度電源をONにし、［コンピュータの電源を切る］から「電源を切る」を選択しパソコンの電源をOFFにしてください。
（☞16ページ）

2 **本機の外部ディスプレイ端子（ ）に、外部ディスプレイのケーブルを接続します。**

チェック

・本機の電源をONにしてから、外部ディスプレイの電源をONにしてください。
・外部ディスプレイを接続した場合Windowsのコントロールパネルの［画面］で、「ディスプレイの種類」の設定変更が必要なときがあります。
・本体ディスプレイと外部ディスプレイを同時表示する場合、接続する外部ディスプレイは、設定したデスクトップ領域(解像度)をサポートするものを使用してください。

メモ

・Fnキーを押しながらF3キーを1回押すごとに、①から③の順で、映像の表示先が切り替わります（③の次は①に戻ります）。

①本体ディスプレイ
②外部ディスプレイ端子
③本体ディスプレイ＋外部ディスプレイ端子

「おかしいな？」と思ったら

本機のご使用中にトラブルが発生したり、疑問に感じたことがあれば、あわてずに次の項目をチェックしながら対処してください。

まずはじめに

あわてて対処しないでください

トラブルが発生したと思ったら、パソコンをそのままの状態で1分くらい放置してください。すぐに電源を切ったり、むやみにタッチパッドのボタンを押したり、キーボードのキーをたたいたりしないでください。
なんらかのメッセージが表示された場合は、そのメッセージを書きとめてください。

1 本書で該当する項目を探しましょう

☞「困ったときのチェックリスト」(59ページ)

本書に該当する項目があれば、本書の指示に従って解決してください。

2 オンライン情報から該当する項目を探しましょう

☞「パソコンで調べる」(58ページ)

本書以外にも、弊社Webサイト「ソーテックオンラインサポート」や、Microsoft社のWebサイト「マイクロソフトヘルプとサポート」に、トラブル解決のためのQ&Aが掲載されています。Windows XPおよびアプリケーションソフトのヘルプも活用してください。

3 パソコンを購入時の状態に戻しましょう

☞「リカバリ」(63〜74ページ)

本機をご購入時の状態に戻します。（この作業をリカバリといいます）
リカバリの前に、必要なデータや設定情報のバックアップを取ってください。

4 ソーテックカスタマセンタに連絡しましょう

以上の方法でどうしても解決できないときは、ソーテックカスタマセンタに連絡してください。
お電話の前に、「サポート・ガイド」または「ケア・シート」をよくお読みになり、注意事項などを確認してください。

パソコンで調べる

本書以外にも、次のWebサイトおよびヘルプをご参照ください。トラブル解決のための情報が提供されています。

■SOTEC電子マニュアル（デスクトップ画面上の［SOTEC電子マニュアル］アイコンをダブルクリック）

本機のマルチメディア機能の活用方法、およびWindows XPやインターネットの便利な使いかたを図解付きで説明しています。トラブルの解決方法および予防方法も説明しています。

■マイクロソフトヘルプとサポート（http://www.microsoft.com/japan/support/）

Windows固有の技術情報を中心に掲載されています。Windowsの不具合の修正プログラムも、このWebページからダウンロードできます。

■ソーテックオンラインサポート（http://www.sotec.co.jp/support/）

弊社製品の仕様の公開や、ソーテックカスタマセンタに寄せられる質問などを掲載しています。各製品のドライバおよびプログラムも、このページからダウンロードできます。

■ヘルプとサポート（［スタート］ボタン→［ヘルプとサポート］）

Windowsおよび本機に関して、知っておくと有用な情報を掲載しています。Windowsのトラブルシューティングおよびチュートリアルも利用できます。

困ったときのチェックリスト

トラブルが発生した、または発生したと思ったら、次のチェックリストでパソコンの症状をチェックしてください。

1 パソコンの電源はONになりますか？

●ONになりません（☞60ページ）

ONになります

2 Windowsは起動しますか？

●セーフモードで起動します（☞60〜61ページ）

●起動しません（☞60ページ）

正常に起動します

3 Windowsの画面は表示されますか？

●表示されますが、正常ではありません（☞60〜62ページ）

●セーフモードで表示されます（☞60〜61ページ）

正常に表示されます

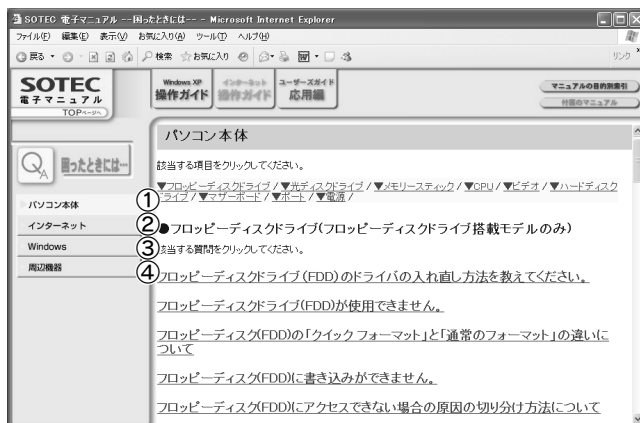
4 マウス・キーボードは正常ですか？

●正常ではありません（☞62ページ）

正常に動作します

SOTEC電子マニュアルを起動してください。

SOTEC電子マニュアルで調べる

Windowsの使用中に起こるトラブルや質問は、「SOTEC電子マニュアル」の「困ったときには」に記載しています。

① パソコン本体
フロッピーディスク、CD/DVD、CPU、メモリなどのトラブルや質問をまとめています。

② インターネット
インターネットや電子メールの使用中によく起こるトラブルや質問をまとめています。

③ Windows
Windows本体に関する質問をまとめています。

④ 周辺機器
周辺機器に関するトラブルや質問をまとめています。

よくある質問集

本機の使用中に遭遇する、よくある質問や問題をまとめました。ソーテックカスタマセンタへお問い合わせいただく前に、確認してください。

パソコンを起動する前に

Q.1
海外のコンセントに接続して使用できるか

A. **・AC電源が100V～240Vまでの間であれば使用できます(プラグの形状が異なる場合、変換プラグが必要)。**
ただし、日本国外で本機を使用される場合は、サポート対象外となります。

パソコンが動かない

Q.2
電源スイッチを押しても動かない

A. **・ACアダプタは正しく接続されていますか？**
ACアダプタのプラグが本機と正しく接続されているか、ACアダプタの電源プラグが電源コンセントに正しく接続されているかをご確認ください。
・バッテリは十分に充電されていますか？
ACアダプタを接続して、バッテリを充電してからご使用ください。
・ACアダプタが故障している可能性があります。
他の電気製品を本機が接続されている電源コンセントに接続して、他の電気製品が動くかどうかご確認ください。他の電気製品が正常に動くようであれば、ACアダプタが故障している可能性があります。ソーテックカスタマセンタへお問い合せください。
・本機が故障していることがあります。
ソーテックカスタマセンタへお問い合せください。

Q.3
画面に何も表示されない

A. **・本機の電源はONになっていますか？**
本機の電源スイッチをONにしてください。
・表示モードの設定が外部ディスプレイになっており、外部ディスプレイの電源がOFFになっていませんか？
本機の電源をONにし直してから再度、外部ディスプレイの電源スイッチをONにしてください。または、Fn＋F3キーを同時に押して、表示モードを本体ディスプレイに戻してみてください。

Q.4
パソコンの電源をONにしたところ、黒い画面に英語の文字が表示され、Windowsが起動しない

A. **・パソコンのシステムが不安定になっている可能性があります。**
リカバリを試してください。
ただし、リカバリを実行すると、Windowsが工場出荷時の初期状態に戻り、お客様がハードディスクドライブに保存されたデータは全て消去されてしまいます。
リカバリ方法は、「リカバリ」をご参照ください。(☞63～74ページ)
一部のアプリケーションについては、個別にインストールしていただく必要があります。
・フロッピーディスクドライブを接続している場合、フロッピーディスクが入っている可能性があります。
フロッピーディスクを取り出して、キーボードのいずれかのボタンを押してください。
・これで回復できない場合は、ケーブルとハードディスクドライブの物理的な接触不良の可能性もありますので、ソーテックカスタマセンタまでお問い合わせください。

Q.5
パソコンを起動したところ、「セーフモード」という文字が画面に表示され、通常よりも低い解像度で起動している

A. **・この状態は誤動作ではなく、「セーフモード」というWindowsを正常な状態に戻すための診断モードです。**
セーフモードで起動した場合、ドライバや周辺機器との接続に問題があるか、何かの設定が壊れているかなどの原因が考えられます。セーフモードは、不具合の原因がどこにあるかを調べて、それを解消するための診断モードです。不具合がどこにあるかを調べるための最低限の操作のみを行うよう設定されています。

問題解決後(自動修復含む)、再起動すると通常どおりWindowsが起動します。

Q.6

周辺機器を取り付けたらWindows XPが起動しない

A. ・**周辺機器のデバイスドライバが原因で、Windows XPが起動できなくなった可能性があります。**
「セーフモード」でWindows XPを起動して、トラブルの原因と思われるデバイスドライバを無効にしてください。この方法でWindows XPが正常に起動した場合、正しいデバイスドライバをインストールするか、デバイスドライバ自体を削除する必要があります。
「セーフモード」でデバイスを無効にするには、次の操作に従って設定してください。

①本機の電源をONにして、「SOTEC」ロゴが表示されている間にF5キーを押します。
②[Windows拡張オプションメニュー]が表示されるので、「セーフモード」をキーボードで選択してください。
③[オペレーティングシステムの選択]で「Microsoft Windows XP」を選択してください。
④ユーザー名を選択してください。セーフモードでWindows XPが起動します。
⑤［スタート］ボタン→［コントロールパネル］→［システム］アイコンを選択して、［ハードウェア］タブをクリックします。
⑥【デバイスマネージャ】ダイアログを表示させ、追加した周辺機器の【プロパティ】ダイアログで[全般]タブをクリックしてください。
⑦「すべてのハードウェアプロファイルを使用する」のチェックを外し、[OK]ボタンをクリックしてください。
Windows XPを再起動すると、通常モードでWindows XPが起動します。

・**この方法でもWindows XPが起動しない場合、本機の電源をOFFにしてから、新しく取り付けた周辺機器を外してください。**

Q.7

終了できない

A. ・**電源スイッチを4秒以上押すことにより電源を切ることが可能です。**
その際、必ず各種アクセスLEDがついてないことをご確認ください。上記の方法で電源が切れない場合は、電源ケーブルおよびバッテリパックを抜いてください。

パソコンを使っていたら

画面上のトラブル

Q.8

表示される日付や時刻が正しくない

A. ・**日付や時刻が間違った設定になっていませんか？**
Windowsのタスクバーの時刻をダブルクリックして「日付と時刻のプロパティ」を起動します。【日付と時刻のプロパティ】ダイアログで正しい日付や時刻を設定してください。

・**本機に内蔵されている電池が切れている可能性があります。**
マザーボードに取り付けられているリチウム電池の寿命は、平均2～3年です。本機の使用期間が2～3年経過していたら、ソーテックカスタマセンタに修理依頼を行ってください。

Q.9

日付の設定を変更しても元に戻ってしまう

A. ・**電池容量切れになっている可能性があります。**
日付設定などのバックアップ電源として内蔵電池を使用しています。この内蔵電池が容量不足になると、日付設定などのデータ保持ができなくなります。
電池は消耗品ですので、寿命があります。寿命についてはお客様のご使用状況により大きく異なりますが、平均2～3年です。本機の使用期間が2～3年経過していたら、ソーテックカスタマセンタに修理依頼を行ってください。

Q.10

DVD映像の再生ができない

A ・**リカバリを行っていませんか？**
リカバリを行った後に、DVD映像を再生するためには、付属のDVD再生ソフトのインストールが必要です。付属アプリケーションのインストールは「アプリケーションセットアップランチャー」で行います。(☞71ページ)

ディスプレイのトラブル

Q.11

いきなり画面が消えた

A. ・**スタンバイまたは休止状態に入った可能性があります。**
電源スイッチを押してください。
・**ACアダプタのプラグが電源コンセントから外れていませんか？**
コンセントまたはプラグを差し込みなおしてください。
・**バッテリが充電されていない可能性があります。**
バッテリを十分に充電してから、接続してください。

Q.12

画面表示にムラがある

A. ・**ディスプレイを見やすい角度に調整してください。**
液晶ディスプレイは、周囲の温度などの影響によって表示が変わる特性があります。ムラがあるのは故障ではありません。

マウスやキーボードのトラブル

Q.13

マウスポインタが動作しない

A. ・**接続ケーブルが外れていませんか？**
接続ケーブルを正しく接続してください。それでも動かない場合は、本機を再起動してください。
・**本機の電源をONにしたあとにマウスを接続していませんか？**
マウスを接続後、再起動してください。
・**適正なマウスドライバを使用していますか？**
市販されているマウスの中には、専用のマウスドライバが必要なものがあります。使用するマウスに付属のマウスドライバを正しくインストールしてください。

Q.14

キー入力中に突然カーソルが別の場所に移動してしまう

A. ・**タッチパッドの表面付近では、小さな反動でもカーソルが移動してしまうことがあります。**
親指がタッチパッドの表面付近にあるときなど、タッチパッドの表面のタッピング機能が反応することがあります。

Q.15

タッチパッドを使用したとき、マウスカーソルの動きが悪いことがある

A. ・**タッチパッドの表面が埃や汗などによって汚れていると、このような現象が発生することがあります。**
清潔な布などで、タッチパッドの表面の汚れをふき取ってからご使用ください。

Q.16

デバイスマネージャ上で日本語106（109）キーボードが、英語101（102）キーボードと表示されてしまう

A. ・**この現象は、Windows XPのシステムがプラグアンドプレイでキーボードを認識する際に、英語101/102キーボードが指定されているために発生します。**
回避策として、次の方法を試してください。デバイスマネージャから、次の手順で日本語106/109キーボードに変更します。
①［スタート］ボタン→［コントロールパネル］→［システム］アイコンを選択して、［ハードウェア］タブをクリックします。
②［デバイスマネージャ］ボタンをクリックして【デバイスマネージャ】ウィンドウを開きます。「キーボード」にある英語101/102キーボードをダブルクリックします。
③［ドライバ］タブを選択し［ドライバの更新］ボタンをクリックします。
④「一覧または特定の場所からインストールする(詳細)」をチェックして、［次へ］ボタンをクリックしてください。
⑤「検索しないで、インストールするドライバを選択する」をチェックして、［次へ］ボタンをクリックしてください。
⑥「互換性のあるハードウェアを表示」のチェックを外してください。
⑦「モデル」欄から「日本語PS/2キーボード(106/109キー)」を選択して、［次へ］ボタンをクリックしてください。
⑧［はい］ボタンをクリックしてドライバを更新し、パソコンを再起動してください。

Q.17

押したキーと違う文字が表示される

A. ・**CapsLock、ひらがな/カタカナなどが間違って押されていませんか？**
目的の文字がタイプされるようにCapsLock、ひらがな/カタカナキーを押してください。
・**キーボードのドライバは適正なものですか？**
キーボードのドライバがお使いのキーボードに対応したものではない可能性があります。キーボードのドライバを更新してください。
・**NumロックLEDが点灯していますか？**
NumロックLEDが点灯している時は、キーボードの一部がテンキーとして動作します。テンキー機能を使用しない時は、Fn+NumLkキーを押し、ロック状態を解除してください。

リカバリの準備をする

使用していたデータや設定内容をバックアップして、リカバリ後に同じ環境で使えるようにします。

ファイルのバックアップ

リカバリを実行すると、ご購入後にお客様が作成・追加したデータはすべて消去され、製品出荷時の状態に戻ります。お客様が作成・追加したデータは、外部記憶メディア（フロッピーディスク、USBメモリ、CD-R/RWなど）に保存してください。

『お気に入り』のバックアップ

Internet Explorerの『お気に入り』は、「C:¥Documents and Settings¥＊＊＊＊¥Favorites」フォルダ内に格納されています（＊＊＊＊にはWindows XPのユーザーアカウント名が入ります）。次の手順でバックアップを作成してください。

1 **［スタート］ボタン→［ファイル名を指定して実行］を選択します。**

【ファイル名を指定して実行】ダイアログが表示されます。

2 **「C:¥Documents and Settings¥＊＊＊＊¥Favorites」を入力し、［OK］ボタンをクリックします（＊＊＊＊にはWindows XPのユーザーアカウント名が入ります）。**

3 **【お気に入り】ウィンドウ内にある、すべてのフォルダとファイルを、外部記憶メディアに保存します。**

以上で『お気に入り』のバックアップ作成は完了です。

Outlook Express 6のバックアップ

Outlook Express 6のバックアップは、メールアカウント、メッセージ、アドレス帳に分けて行います。

メモ

・複数のユーザーでOutlook Express 6を使用している場合は、バックアップを作成したいユーザーのアカウントを選択（ログイン）します。

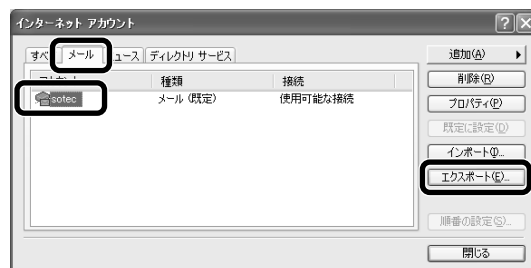
メールアカウントのバックアップ

メールアカウントのバックアップは、次の手順で作成してください。

1 **Outlook Express 6が起動した状態で、［ツール］メニューより［アカウント］を選択します。**

【インターネットアカウント】ダイアログが表示されます。

2 **［メール］タブをクリックし、表示されるアカウントの一覧からバックアップを作成したいアカウントを選択し、［エクスポート］ボタンをクリックします。**

【インターネットアカウントのエクスポート】ダイアログが表示されます。

3 **任意のファイル名と保存場所を設定して、［保存］ボタンをクリックします。**

【インターネットアカウント】ダイアログに戻ります。

以上でメールアカウントのバックアップ作成は完了です。

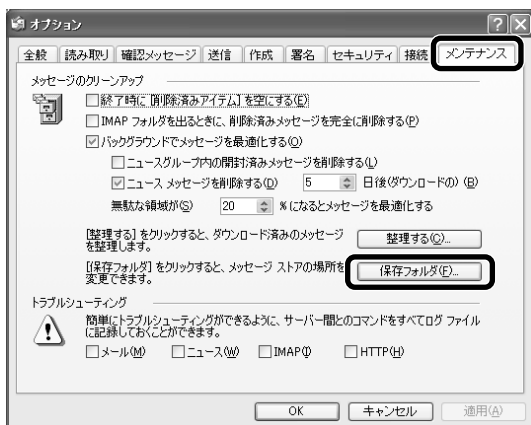
■メッセージのバックアップ

メッセージのバックアップは、次の手順で作成してください。

1 **Outlook Express 6が起動した状態で、[ツール]メニューより[オプション]を選択します。**

【オプション】ダイアログが表示されます。

2 **[メンテナンス]タブをクリックし、[保存フォルダ]ボタンをクリックします。**

【保存場所】ダイアログが表示されます。

3 **【保存場所】画面に表示されている保存場所のアドレスをメモします。**

4 **[スタート]ボタン→[ファイル名を指定して実行]を選択します。**

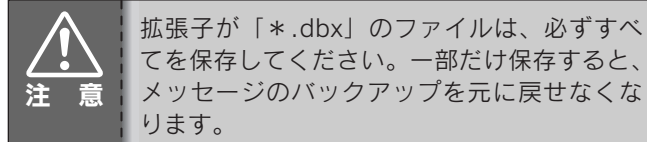
【ファイル名を指定して実行】ダイアログが表示されます。

5 **手順3でメモした内容を入力し、[OK]ボタンをクリックします。**

画面が表示されます。

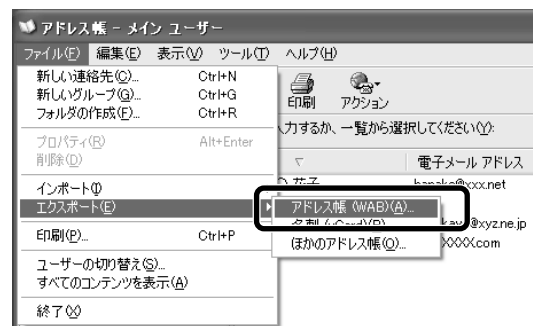
6 **表示されているファイルの中から、拡張子が「＊.dbx」になっているファイルをすべて、外部記憶メディアに保存します。**

以上でメッセージのバックアップ作成は完了です。

拡張子が「＊.dbx」のファイルは、必ずすべてを保存してください。一部だけ保存すると、メッセージのバックアップを元に戻せなくなります。

■アドレス帳のバックアップ

アドレス帳のバックアップは、次の手順で作成してください。

1 **アドレス帳が起動した状態で、[ファイル]→[エクスポート]→[アドレス帳]の順に選択します。**

【エクスポートするアドレス帳ファイルの選択】ダイアログが表示されます。

2 **任意のファイル名と外部記憶メディアの保存場所を設定して、[保存]ボタンをクリックします。**

保存が完了したことを知らせるダイアログが表示されます。

3 **[OK]ボタンをクリックします。**

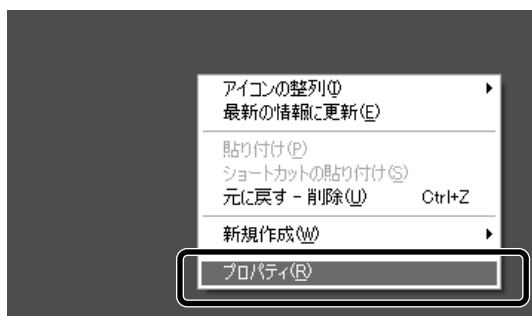
以上でアドレス帳のバックアップ作成は完了です。

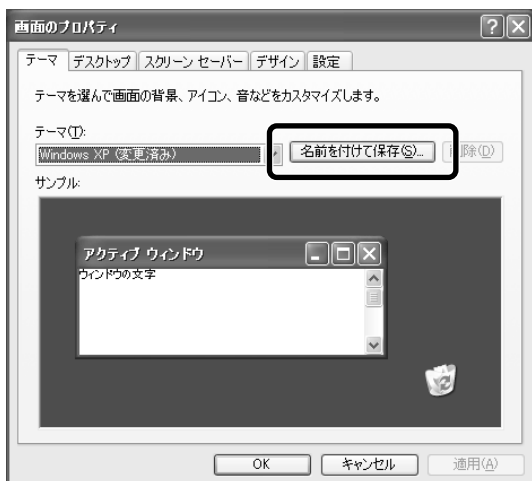
デスクトップ画面設定のバックアップ

現在使用しているデスクトップ画面の設定は、次の手順でバックアップを作成してください。

お客様が作成した画像を壁紙に使用している場合は、別途画像ファイルのバックアップを取ってください。

1 デスクトップ上で右クリックして表示されるメニューから、［プロパティ］を選択します。

【画面のプロパティ】ダイアログが表示されます。

2 ［名前を付けて保存］ボタンをクリックします。

【名前を付けて保存】ダイアログが表示されます。

3 任意のファイル名と外部記憶メディアの保存場所を設定して、［保存］ボタンをクリックします。

以上でデスクトップ画面設定のバックアップ作成は完了です。

ユーザー辞書のバックアップ

現在使用しているユーザー辞書は、次の手順でバックアップを作成してください。

1 ［スタート］ボタン→［ファイル名を指定して実行］の順に選択します。

【ファイル名を指定して実行】ダイアログが表示されます。

2 ［C:¥Documents and Settings¥＊＊＊＊¥Application Data¥Microsoft¥IMJP8_1］を入力して、［OK］ボタンをクリックします。

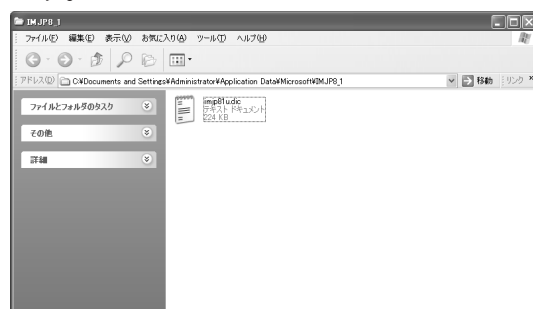
（＊＊＊＊にはWindows XPのユーザーアカウント名が入ります）

【IMJP8_1】ウィンドウが表示されます。

メモ

・ユーザー辞書をほかの任意のフォルダへ保存している場合は、任意のフォルダを開きます。

3 ［imjp81u］ファイルを、異なる任意のファイル名で外部記憶メディアに保存します。

以上でユーザー辞書のバックアップ作成は完了です。

メモ

・ファイル名は必ず変更してください。

リカバリを実行する

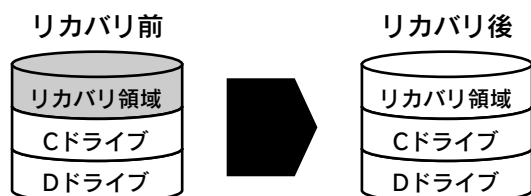
リカバリを実行すると、工場出荷時の状態に戻ります。

復旧方法を選ぶ

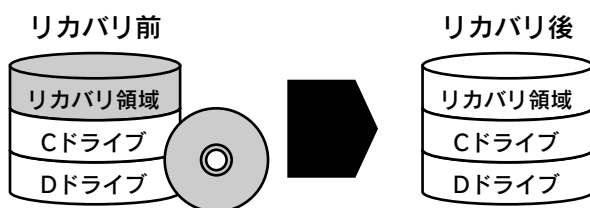
お客様にとって最適な復旧方法を、次の2つの中から選んでください。

(1)ハードディスクを使った復旧(☞右段)

ハードディスク内にあるリカバリ領域を使用してリカバリします。

・短時間でリカバリできる
・リカバリCD・緊急復旧CDが不要
・ハードディスクの起動部分が壊れている場合はリカバリを実行できない

(2)ハードディスクと緊急復旧CDを使った復旧(☞69ページ)

ハードディスク内にあるリカバリ領域と、本製品に付属している緊急復旧CDを併用してリカバリします。

・短時間でリカバリできる
・ハードディスクの起動部分が壊れている場合でもリカバリを実行できる

・上記の方法以外でハードディスクの初期化・リカバリなどを行わないでください。ハードディスクリカバリまたは緊急復旧CDを使ったリカバリが行えなくなる場合があります。
・BIOSの設定を変更した場合、リカバリが実行されない場合があります。BIOSの設定を変更した場合は、設定を工場出荷の状態に戻してからリカバリを実行してください。

ハードディスクを使って復旧する

■通常の方法で復旧する

購入時の状態にリカバリする方法です。

この方法でリカバリした場合、リカバリ後はCドライブのデータが消えます。消えたデータは復旧できないので、あらかじめデータのバックアップを作成しましょう。

1 本機の電源がOFFであることを確認したあと、ディスプレイ、パソコンの順に電源をONにします。

"SOTEC"ロゴの入った画面が表示されます。

2 "SOTEC"ロゴが入った画面が表示されている間に、F5キーを押します。

【オペレーティングシステムの選択】画面が表示されます。

メモ

・Windowsが起動してしまった場合、再度上記手順をおこなってください。
・F5キーを数回押すと、【Windows拡張オプションメニュー】画面が表示される場合があります。その場合は、「↓」キーを押して、[OSの選択メニューへ戻る]を選択し、Enterキーを押してください。【オペレーティングシステムの選択】画面へ戻ります。
・"SOTEC"ロゴの入った画面は、表示時間が短いのでご注意ください。タイミングは"SOTEC"ロゴが消える直前ですが、押すタイミングが合わない場合は、"SOTEC"ロゴが表示されている間、F5キーを数回押してみてください。

↓キーを押して［Harddisk Recovery］を選択して、Enter↵キーを押します。

【ハードディスクの復元について】画面が表示されます。

Yキーを押します。

【復元方法の選択】画面が表示されます。

ハードディスクの復元について

HD リカバリを使用してハードディスクの内容をリカバリしますと、
お客様が本製品をセットアップする前の状態になります。
（一部インストールされないアプリケーションがある場合があります）
また、復元時には、お客様がご購入後にインストールされましたアプリケーションやハードディスクに保管されているデータ等はすべて消えてしまいますので、お手数ですが各種データは事前にバックアップ作業を行った後ハードディスクの復元を行う事をお勧めします。

復元を行う場合は ………………………… ［Y］キーを押してください

データを保存する為、中断する場合は ………… ［N］キーを押してください

SOTEC

メモ

・リカバリを中止する場合はNキーを押します。キャンセルのメッセージが表示されるので、Ctrl+Alt+Deleteキーを同時に押して、パソコンを再起動します。

1キーを押します。

【復元の開始（一般)】画面が表示されます。

復元方法の選択

ハードディスクの復元方法を選択してください。

1．一般的な方法で復元を行う場合 ………………… ［1］キーを押してください
通常は、この方法を選択してください。Cドライブのみ復元を行います。

2．高度なオプションを選択して復元を行う場合 …［2］キーを押してください
ハードディスクを分割しての復元や、ハードディスク全体を１つにして復元を行います。（すべての内容が消去されます）

← 復元を中止する場合 ………………………… ［N］キーを押してください

SOTEC

メモ

・リカバリを中止する場合はNキーを押します。キャンセルのメッセージが表示されるので、Ctrl+Alt+Deleteキーを同時に押して、パソコンを再起動します。

Ctrl＋Sキーを押します。

リカバリが始まります。

復元の開始（一般）

この方法では、複数のパーティションが存在するハードディスクのCドライブにリカバリを行います。

注意！
リカバリの操作を開始すると、Cドライブの内容は消去されます。
一度消去されたデータを元に戻すことはできません。
実行中に電源を切ったり、リセットしたりしないでください。

→ リカバリを開始する場合 ………… ［Ctrl］キーを押しながら［S］キーを押してください

← リカバリを中止する場合 ………… ［N］キーを押してください

SOTEC

メモ

・リカバリを中止する場合はNキーを押します。キャンセルのメッセージが表示されるので、Ctrl+Alt+Deleteキーを同時に押して、パソコンを再起動します。

リカバリが完了したら、完了を知らせる画面が表示されます。

Ctrl＋Alt＋Deleteキーを押します。

パソコンが再起動します。パソコンの再起動後、Windows XPのセットアップが始まります。「Windows XPのセットアップ」（☞11ページ）を参照して、セットアップを完了させてください。

リカバリ

高度な方法で復旧する

購入時と異なるハードディスクのドライブ構成で、リカバリする方法を説明します。

チェック

この方法でリカバリした場合、リカバリ後はハードディスクのデータがすべて消えます。消えたデータは復旧できないので、あらかじめデータのバックアップを作成しましょう。

1 66～67ページの手順1～4までを実行します。

【復元方法の選択】画面が表示されます。

2 [2]キーを押します。

【復元方法の選択（2)】画面が表示されます。

復元方法の選択

ハードディスクの復元方法を選択してください。

1．一般的な方法で復元を行う場合 ……………… [1] キーを押してください
通常は、この方法を選択してください。Cドライブのみ復元を行います。

2．高度なオプションを選択して復元を行う場合 … [2] キーを押してください
ハードディスクを分割しての復元や、ハードディスク全体を１つにして
復元を行います。(すべての内容が消去されます)

← 復元を中止する場合 ……………………… [N] キーを押してください

SOTEC

メモ

・リカバリを中止する場合は[N]キーを押します。キャンセルのメッセージが表示されるので、[Ctrl]+[Alt]+[Delete]キーを同時に押して、パソコンを再起動します。

3 復元のオプションを選択します。

復元方法の選択（2）

復元のオプションを選択してください。
注意！重要なデータは作業を行う前にバックアップを行ってください。

1．８ＧＢをＣドライブ、
残りをＤドライブに使用する場合 ……… [1] キーを押してください
ハードディスクの内容すべてが消去され、パーティションは２分割されます。

2．全体の半分をＣドライブ、
残りをＤドライブに使用する場合 ……… [2] キーを押してください
ハードディスクの内容すべてが消去され、パーティションは２分割されます。

3．全体をＣドライブとして使用する場合 … [3] キーを押してください
ハードディスクの内容すべてが消去され、パーティションは１つになります。

← 戻る ……………………………………… [N] キーを押してください

SOTEC

8GBをCドライブ、残りをDドライブで構成する場合：
[1]キーを押します。
CドライブとDドライブを同じ容量で構成する場合：
[2]キーを押します。
Cドライブだけで構成する場合：
[3]キーを押します。

メモ

・前のメニューに戻る場合は、[N]キーを押します。

4 67ページの手順6～7を実行します。

ハードディスクと緊急復旧CDを使って復旧する

緊急復旧CDを光ディスクドライブに入れます。

2 本機を再起動します。

「再起動」（☞16ページ）
しばらくすると【ハードディスクの復元について】画面が表示されます。

3 [Y]キーを押します。

【復元方法の選択】画面が表示されます。

ハードディスクの復元について

HD リカバリを使用してハードディスクの内容をリカバリしますと、
お客様が本製品をセットアップする前の状態になります。
（一部インストールされないアプリケーションがある場合があります）

また、復元時には、お客様がご購入後にインストールされましたアプリケーションやハードディスクに保管されているデータ等はすべて消えてしまいますので、お手数ですが各種データは事前にバックアップ作業を行った後ハードディスクの復元を行う事をお勧めします。

復元を行う場合は …………………………………… ［Y］キーを押してください

データを保存する為、中断する場合は ………… ［N］キーを押してください

SOTEC

メモ

・リカバリを中止する場合は[N]キーを押します。キャンセルのメッセージが表示されるので、[Ctrl]+[Alt]+[Delete]キーを同時に押して、パソコンを再起動します。

[1]キーを押します。

【復元の開始（一般）】画面が表示されます。

復元方法の選択

ハードディスクの復元方法を選択してください。

1．一般的な方法で復元を行う場合 ………………… ［1］キーを押してください
通常は、この方法を選択してください。Cドライブのみ復元を行います。

2．高度なオプションを選択して復元を行う場合 …［2］キーを押してください
ハードディスクを分割しての復元や、ハードディスク全体を1つにして復元を行います。（すべての内容が消去されます）

← 復元を中止する場合 ………………………… ［N］キーを押してください

SOTEC

メモ

・リカバリを中止する場合は[N]キーを押します。キャンセルのメッセージが表示されるので、[Ctrl]+[Alt]+[Delete]キーを同時に押して、パソコンを再起動します。

5 [Ctrl]＋[S]キーを押します。

リカバリが始まります。

復元の開始（一般）

この方法では、複数のパーティションが存在するハードディスクのCドライブにリカバリを行います。

注意！
リカバリの操作を開始すると、Cドライブの内容は消去されます。
一度消去されたデータを元に戻すことはできません。
実行中に電源を切ったり、リセットしたりしないでください。

→ リカバリを開始する場合 ………… [Ctrl] キーを押しながら [S] キーを押してください

← リカバリを中止する場合 ………… [N] キーを押してください

SOTEC

メモ

・リカバリを中止する場合は[N]キーを押します。キャンセルのメッセージが表示されるので、[Ctrl]+[Alt]+[Delete]キーを同時に押して、パソコンを再起動します。

リカバリが完了したら、完了を知らせる画面が表示されます。

6 [Ctrl]＋[Alt]＋[Delete]キーを押します。

パソコンが再起動します。パソコンの再起動後、Windows XPのセットアップが始まります。「Windows XPのセットアップ」（☞11ページ）を参照して、セットアップを完了させてください。

高度な方法で復旧する

購入時と異なるハードディスクのドライブ構成で、リカバリする方法を説明します。

チェック

この方法でリカバリした場合、リカバリ後はハードディスクのデータがすべて消えます。消えたデータは復旧できないので、あらかじめデータのバックアップを作成しましょう。

69ページの手順1〜3までを実行します。

【復元方法の選択】画面が表示されます。

2キーを押します。

【復元方法の選択（2)】画面が表示されます。

復元方法の選択

ハードディスクの復元方法を選択してください。

1．一般的な方法で復元を行う場合 ………………… ［１］キーを押してください
通常は、この方法を選択してください。Ｃドライブのみ復元を行います。

2．高度なオプションを選択して復元を行う場合 …［２］キーを押してください
ハードディスクを分割しての復元や、ハードディスク全体を１つにして
復元を行います。（すべての内容が消去されます）

← 復元を中止する場合 ………………………… ［Ｎ］キーを押してください

SOTEC

メモ

・リカバリを中止する場合はNキーを押します。キャンセルのメッセージが表示されるので、Ctrl+Alt+Deleteキーを同時に押して、パソコンを再起動します。

復元のオプションを選択します。

復元方法の選択（2）

復元のオプションを選択してください。
注意！重要なデータは作業を行う前にバックアップを行ってください。

1．８ＧＢをＣドライブ、
　残りをＤドライブに使用する場合 ……… ［１］キーを押してください
ハードディスクの内容すべてが消去され、パーティションは２分割されます。

2．全体の半分をＣドライブ、
　残りをＤドライブに使用する場合 ……… ［２］キーを押してください
ハードディスクの内容すべてが消去され、パーティションは２分割されます。

3．全体をＣドライブとして使用する場合 … ［３］キーを押してください
ハードディスクの内容すべてが消去され、パーティションは１つになります。

← 戻る ……………………………………… ［Ｎ］キーを押してください

SOTEC

8GBをCドライブ、残りをDドライブで構成する場合：
1キーを押します。
CドライブとDドライブを同じ容量で構成する場合：
2キーを押します。
Cドライブだけで構成する場合：
3キーを押します。

メモ

・前のメニューに戻る場合は、Nキーを押します。

69ページの手順5〜6を実行します。

パソコンの環境を元に戻す

リカバリ終了後、パソコンの環境をリカバリ前に使用していた状態に戻します。

アプリケーションソフトの設定

本製品に付属のソフトウェアは、「アプリケーションセットアップランチャー」を使用してインストールします。

1 **［スタート］ボタン→［アプリケーションセットアップランチャー］→［セットアップランチャー］をクリックします。**

2 **インストールしたいアプリケーションをクリックし、［実行］ボタンをクリックします。**

インストールが始まります。

3 **画面の指示にしたがってインストールを行います。**

メモ

- ［実行］ボタンをクリックすると、途中で中断した場合でも、状態欄には「実行済み」と表示されます。
- 本製品購入後にインストールしたアプリケーションソフトは、別途インストールしてください。

バックアップしたファイルを元に戻す

63ページでバックアップをとったデータを元に戻します。外部記録メディアにバックアップをとったデータは、バックアップ前と同じ場所に戻してください。

『お気に入り』を元に戻す

Internet Explorerの『お気に入り』のバックアップは、次の手順で元に戻してください。

1 **［スタート］ボタン→［ファイル名を指定して実行］を選択します。**

【ファイル名を指定して実行】ダイアログが表示されます。

2 **「C:¥Documents and Settings¥＊＊＊＊¥Favorites」を入力し（＊＊＊＊にはWindows XPのユーザーアカウント名が入ります）、［OK］ボタンをクリックします。**

【お気に入り】ウィンドウが表示されます。

3 **外部記憶メディアからバックアップをとったフォルダやファイルを、【お気に入り】ウィンドウ内へコピーします。**

以上でバックアップの読み込みは完了です。

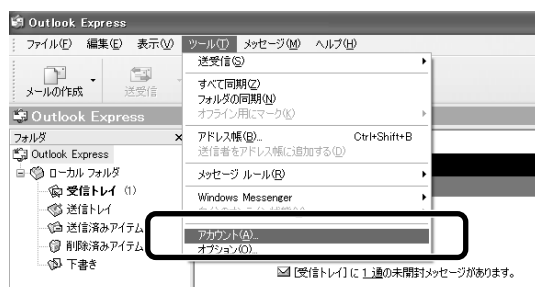
Outlook Express 6を元に戻す

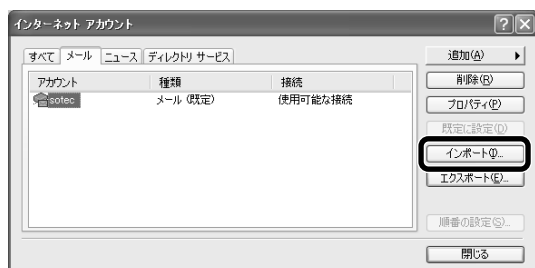
メールアカウント、メッセージ、アドレス帳のバックアップを元に戻します。

メールアカウントのバックアップを読み込む

メールアカウントのバックアップは、次の手順で元に戻してください。

1 **Outlook Expressを起動した状態で、[ツール]メニューから[アカウント]を選択します。**

【インターネットアカウント】ダイアログが表示されます。

2 **[インポート]ボタンをクリックします。**

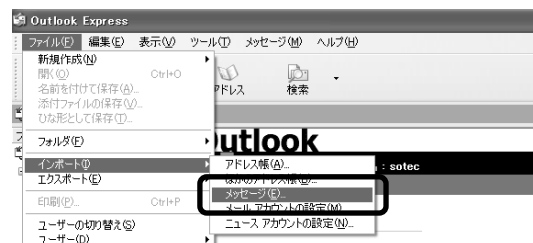
【インターネットアカウントのインポート】ダイアログが表示されます。

3 **バックアップをとったiafファイルを選択してから、[開く]ボタンをクリックします。**

以上でバックアップの読み込みは完了です。

メッセージのバックアップを読み込む

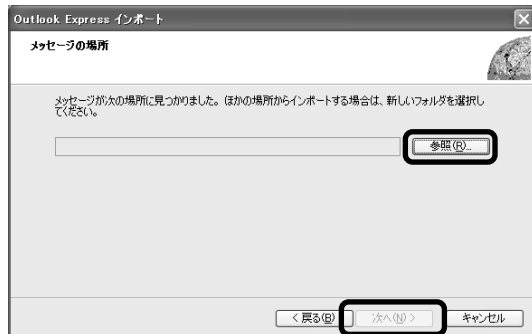
メッセージのバックアップは、次の手順で元に戻してください。

1 **Outlook Express 6を起動した状態で、[ファイル]メニューから[インポート]→[メッセージ]の順に選択します。**

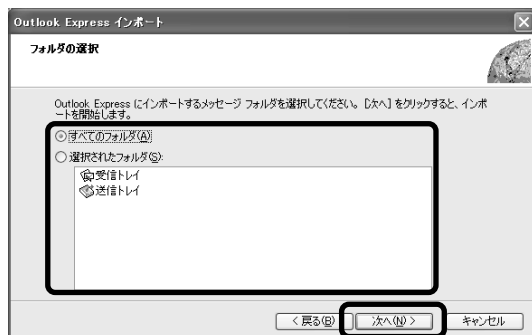
【Outlook Express インポート】ダイアログが表示されます。

2 **一覧から、[Microsoft Outlook Express 6]を選択して、[次へ]ボタンをクリックします。**

【Outlook Express 6からインポート】ダイアログが表示されます。

3 **「Outlook Express 6ストアディレクトリからメールをインポートする」にチェックを入れて、[OK]ボタンをクリックします。**

4 ［参照］ボタンをクリックして、バックアップをとったデータの場所を指定して、［次へ］ボタンをクリックします。

チェック

バックアップを読み取り専用のメディア（CD-Rに書き込んだファイルなど）から行うと、エラーが発生する場合があります。
そのため、あらかじめハードディスクにコピーしておき、コピーしたファイルからインポートを行うようにしてください。

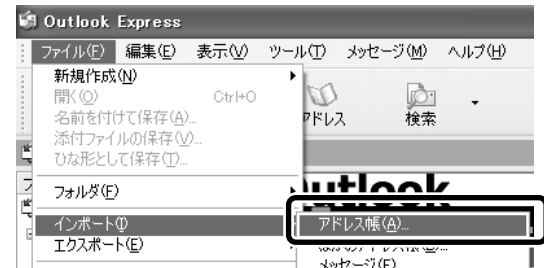
5 「すべてのフォルダ」をチェックするか、「選択されたフォルダ」をチェックしてから、読み込ませたいフォルダを選択して［次へ］ボタンをクリックします。

6 ［完了］ボタンをクリックします。

以上でバックアップの読み込みは完了です。

アドレス帳のバックアップを元に戻す

アドレス帳のバックアップは、次の手順で元に戻してください。

1 Outlook Express 6を起動した状態で、［ファイル］メニューから［インポート］→［アドレス帳］の順に選択します。

【インポートするアドレス帳ファイルの選択】ダイアログが表示されます。

2 バックアップをとったアドレス帳ファイルを選択して、［開く］ボタンをクリックします。

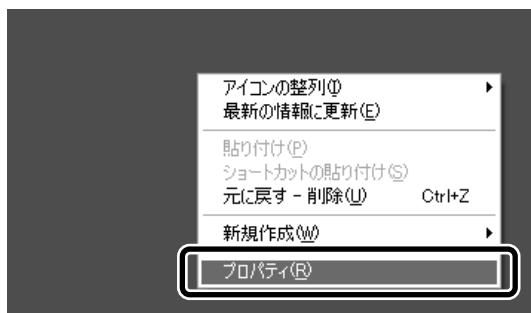
以上でバックアップの読み込みは完了です。

リカバリ

デスクトップの画面設定を元に戻す

デスクトップ画面設定のバックアップは、次の手順で元に戻してください。

1 デスクトップ上で右クリックして表示されるメニューから、［プロパティ］を選択します。

【画面のプロパティ】ダイアログが表示されます。

2 ［テーマ］の をクリックして、表示される一覧から［参照］を選択します。

【テーマを開く】ダイアログが表示されます。

3 バックアップをとったデスクトップの画面設定ファイルを選択して、［開く］ボタンをクリックします。

以上でバックアップの読み込みは完了です。

ユーザー辞書を元に戻す

ユーザー辞書のバックアップは、次の手順で元に戻してください。

1 ［スタート］ボタン→［ファイル名を指定して実行］の順に選択します。

【ファイル名を指定して実行】ダイアログが表示されます。

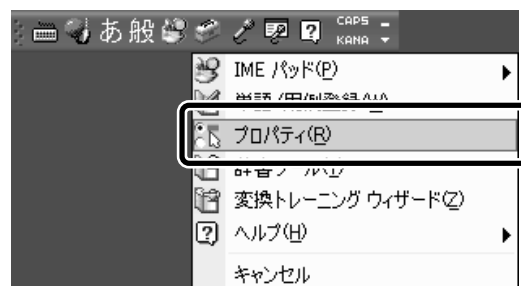
2 ［C:¥Documents and Settings¥＊＊＊＊¥Application Data¥Microsoft¥IMJP8_1］を入力して、［OK］ボタンをクリックします。

（＊＊＊＊にはWindows XPのユーザーアカウント名が入ります）

【IMJP8_1】ウィンドウが表示されます。

3 バックアップをとったユーザー辞書ファイルを、【IMJP8_1】ウィンドウ内に移動します。

4 IME2002のツールバーから をクリックして、表示されるメニューから［プロパティ］を選択します。

【Microsoft IME スタンダードのプロパティ】ダイアログが表示されます。

5 ［参照］ボタンをクリックします。

【ユーザー辞書の設定】ダイアログが表示されます。

6 バックアップをとったユーザー辞書ファイルを選択して、［開く］ボタンをクリックします。

以上でバックアップの読み込みは完了です。

BIOSを設定する

ここではBIOSの概要と、BIOSを設定するための「BIOSセットアッププログラム」の操作方法について説明します。

BIOSとは

"BIOS"とは「Basic Input Output System」の略称で、パソコンを動作させるためのプログラムです。このBIOSの設定を正しく行うことで、パソコンの性能を正しく引き出すことができます。本機ではあらかじめ、最適の状態でBIOSが設定されています。ただし、本機の拡張などを行った際には、拡張する機器に合わせてBIOSの設定を変更する必要があります。

BIOSの設定は複雑で、誤った設定をしてしまうと、本機が正常に動かなくなる恐れがあります。特に理由もなくBIOSの設定を変更しないでください。

BIOSセットアッププログラムの起動方法

本機の電源がOFFであることを確認したあと、ディスプレイ、パソコンの順に電源をONにします。

"SOTEC"のロゴが入った画面が表示されたら、F2キーを押します。

しばらくすると、セットアッププログラムの起動画面が表示されます。

メモ

・"SOTEC"ロゴが入った画面の表示中にEscキーを押すと、起動デバイスの選択画面が表示されます。
・BIOSの詳しい操作方法については、「SOTEC電子マニュアル」から「付属のマニュアル」→「BIOSセットアップマニュアル」を参照してください。

項目の選択・設定の方法

BIOSセットアッププログラムは、次のキーを使って操作します。

←→キー　・メインメニューの項目を左右に移動する
↑↓キー　・項目を上下に移動する
　　　　　・設定値を変更する
Enter↵キー・サブメニューへ移動する
　　　　　・項目選択時、別ウィンドウを開く/閉じる
Tabキー　・次項目へジャンプする
Escキー　・BIOSセットアッププログラムを終了する
　　　　　・前メニューに戻る（サブメニューの場合）
　　　　　・ウィンドウを閉じる（別ウィンドウが開いている場合）

廃棄について

パソコンの廃棄は、法律や各自治体の条例などにより、廃棄方法が定められています。本製品を廃棄する前にご参照ください。

本製品の廃棄について

本製品は、個人使用か事業使用で、廃棄方法が異なります。

事業系使用済みパソコンの回収・再資源化業務について

ソーテックは、2001年4月1日より事業系(法人ユーザー)の使用済みパソコンの回収及び再資源化業務を開始致しております。
本件は、2001年4月より施行された「資源の有効な利用の促進に関する法律(改正リサイクル法)」に基づき、3月28日に公布された省令「パーソナルコンピュータの製造等の事業を行う者の使用済みパソコンの自主回収及び再資源化」に準拠しております。
事業系使用済みパソコンにおける回収工程から、再生・再資源化及び処分工程までの全工程を遂行しております。回収・リサイクルの流れは次の通りです。

1. 事業系のお客様から、事業系専用リサイクルコールセンタにて受付。
2. 全国ネットワークの回収デポにて製品を回収。
3. リサイクルセンタへ運搬。
4. リサイクルセンタ及び指定業者にて再生・再資源化。

なお、料金体系や周辺機器などの個別条件につきましても、下記の電話番号にてご案内しております。

事業系専用リサイクルコールセンタ

TEL　03-5493-3756

月曜～金曜　9：00～17：00
（土・日・祝日および弊社指定休業日を除く）

この電話番号は、リサイクル専用です。
製品に関するサポートには対応しておりません。

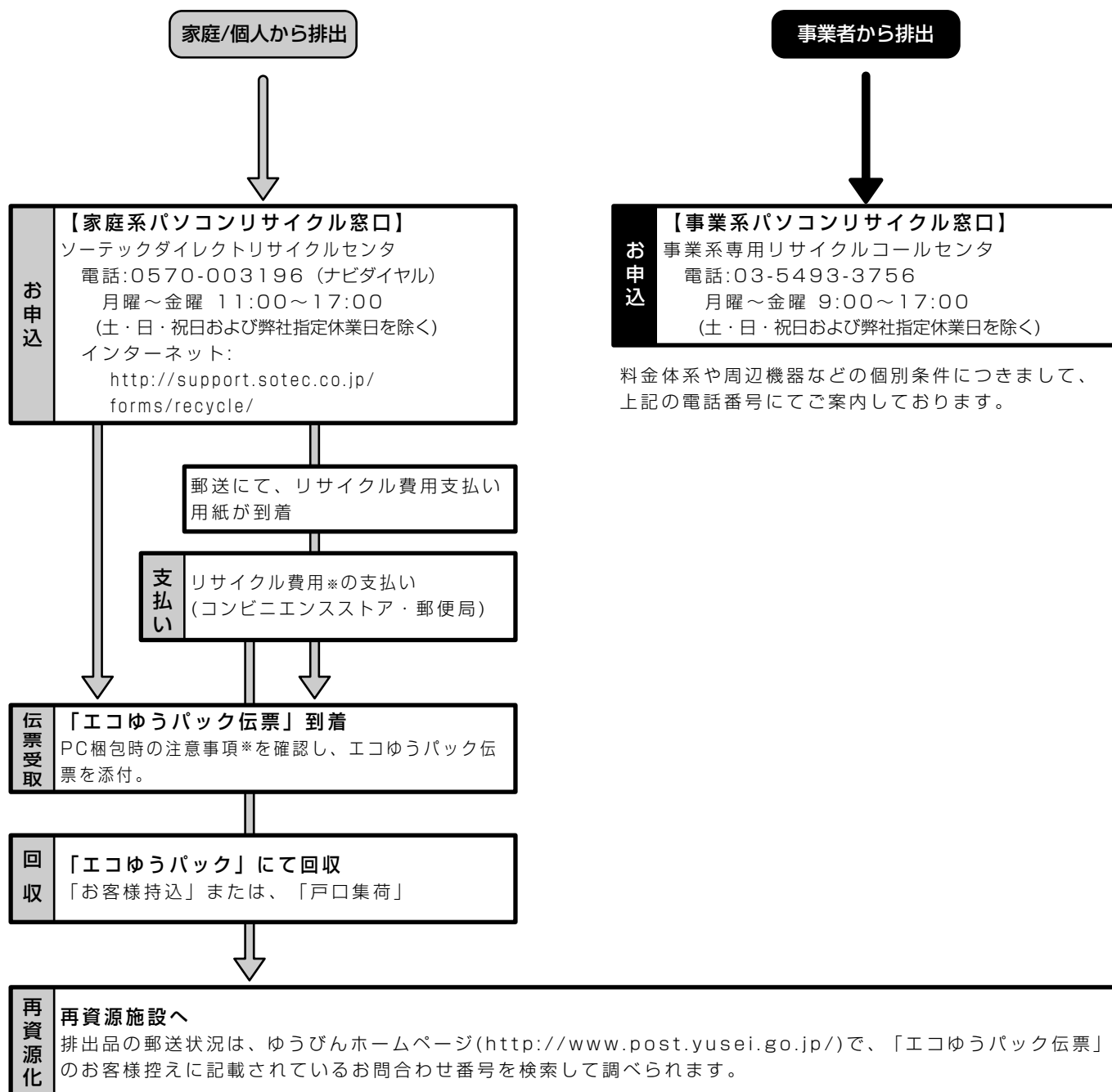
家庭系パソコンの回収・再資源化について

2003年10月1日以降にお客様が当社製の家庭利用のパソコンを廃棄される際には、専用窓口にて受付をいたします。回収につきましては、社団法人電子情報技術産業協会(JEITA)が日本郵政公社と提携して構築した回収システムを利用いたします。

対象製品(パソコン・ディスプレイ)にはJEITAが定める「PCリサイクルマーク」を貼付して出荷いたします。同マーク付き製品については、無償で回収・再資源化いたします。
PCリサイクルマークが貼付されていないパソコンの回収・再資源化料金は、お客様にご負担いただくことになります。「再資源化料金」は、「リサイクル費用（家庭系パソコンの再資源化料金）」(☞77ページ)をご参照ください。

メモ

- パソコンのリサイクルの取り組みについては、当社ホームページでも紹介しております。ぜひご覧ください。
  http://www.sotec.co.jp/recycle/index.html
- 同時にパソコンのご購入を検討されている場合は、「インターネット無料査定・パソコン買取りサービス」(http://www.sotec.co.jp/direct/guide/used/index.html)で、お使いのパソコンの買取り査定を行ったうえでパソコンをご購入いただくことをおすすめします。

回収の仕組み

リサイクル費用（家庭系パソコンの再資源化料金）

PCリサイクルシールの貼付されていないPCをお持ちの場合は、下記料金が別途必要となります。

回収対象製品	回収・再資源化料金(税込)
ノートブック型パソコン	3,150円
デスクトップ型パソコン	3,150円
液晶ディスプレイ一体型パソコン	3,150円
CRTディスプレイ一体型パソコン	4,200円
液晶ディスプレイ	3,150円
CRTディスプレイ	4,200円

(本書制作時)

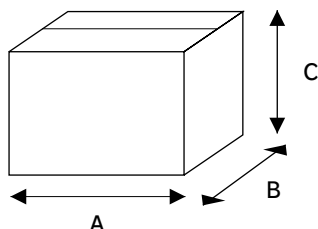
※なお、お支払い時には各種振込手数料(コンビニエンスストア:¥63、郵便局(窓口):¥90、郵便局(ATM):¥60)が発生します。予めご了承ください。

付録

■PC梱包時の注意事項

排出品を梱包し、送付された「エコゆうパック伝票」を梱包した箱等の見やすい場所に貼ります。

■輸送途中で破損・飛散しないような簡易な梱包で構いません。
■無梱包での輸送はできません。

◎梱包する際の条件は以下の通りです

・ダンボール箱(もしくは破れにくい袋)
・排出パソコンを含み、重さ30kgまで
・A+B+Cの長さ=1.7m以内

<条件を満たさない場合>

梱包した排出パソコンが30kgを超える、梱包の縦、横、高さの合計が1.7mを超える等の理由により、郵便局で引取りができない場合があります。
その際は、ソーテックダイレクトリサイクルセンタ(☞77ページ)受付窓口までご連絡ください。

◎デスクトップパソコンとディスプレイなど、複数台数を同時に排出する場合は、1台ずつ梱包し、それぞれにエコゆうパック伝票を貼ってください。

◎キーボードやマウスなどの標準添付品は、排出するパソコンと同じ梱包箱(もしくは袋)に入れてください。標準添付品以外のものは回収対象となりませんのでご注意ください。

○	マウス、キーボード、スピーカー、ケーブルなど、購入時に同梱されていた標準添付品
×	プリンタなどの周辺機器、取扱説明書/マニュアル、フロッピーディスク、CD-ROM等の媒体

■回収時の条件(回収規約)

ソーテック製パーソナルコンピュータまたはディスプレイの回収を希望されるお客様は、回収規約(http://www.sotec.co.jp/recycle/images/20031001.pdf)をご確認頂き、同意して頂いた上で回収のお申し込みをお願い申し上げます。

■家庭系パソコンリサイクル窓口

【ソーテックダイレクトリサイクルセンタ】

電話：0570-003196（ナビダイヤル）
月曜～金曜　11:00～17:00
(土・日・祝日および弊社指定休業日を除く)
この電話番号は、リサイクル専用です。製品に関するサポートは行っておりません。
インターネット:
http://support.sotec.co.jp/forms/recycle/

市町村からの引取り条件

「資源の有効な利用の促進に関する法律」(平成三年四月二十六日法律第四十八号)第二十六条に基づく「パーソナルコンピュータの製造等の事業を行う者の使用済パーソナルコンピュータの自主回収及び再資源化に関する判断の基準となるべき事項を定める省令」(平成十三年三月二十八日経済産業省・環境省令第一号)第四条に規定されている「市町村からの引取り条件」について、以下のように公表いたします。

【市町村からの引取り条件】

市町村は、消費者と同じ手続き・条件によって、弊社が製造等をした使用済みパーソナルコンピュータの引取りを弊社に求めるものとします。

手続き・条件については以下の通りです。

- ●市町村は弊社へ回収の申込みを行います。「PCリサイクルマーク」の付いていない製品については、回収再資源化料金の支払いが必要です。「PCリサイクルマーク」の付いている製品については、新たな料金負担なしで回収します。
- ●廃棄する製品を一台ずつ梱包し、弊社から送付された「エコゆうパック伝票」を貼り付けます。
- ●市町村において、伝票に記載された郵便局へ集荷を依頼するか、または郵便局(簡易郵便局を除く)へ持ち込むことにより、弊社は使用済みパーソナルコンピュータを引き取ります。

注)製品の汚れ、破壊レベルについては、「エコゆうパック」で安全に輸送でき、再資源化率を遵守できる程度までとします。

※回収再資源化料金については、「リサイクル費用(家庭系パソコンの再資源化料金)」(☞77ページ)をご確認ください。

廃棄・譲渡時のハードディスク上のデータ消去に関するご注意

最近、パソコンは、オフィスや家庭などで、いろいろな用途に使われるようになってきております。これらのパソコンの中のハードディスクという記録装置に、お客様の重要なデータが記録されています。

従って、そのパソコンを譲渡あるいは廃棄するときには、これらの重要なデータ内容を消去するということが必要となります。

ところが、このハードディスク内に書き込まれたデータを消去するというのは、それほど簡単ではありません。
「データを消去する」という場合に、一般に

- ・データを「ごみ箱」に捨てる
- ・「削除」操作を行う
- ・「ごみ箱を空にする」コマンドを使って消す
- ・ソフトで初期化(フォーマット)する
- ・ハードディスクのリカバリを行ない、工場出荷状態に戻す

などの作業をすると思いますが、これらのことをしても、ハードディスク内に記録されたデータのファイル管理情報が変更されただけで、実際はデータは見えなくなっているという状態なのです。つまり、一見消去されたように見えますが、WindowsなどのOSのもとで、それらのデータを呼び出す処理が出来なくなっただけで、本来のデータは残っているという状態なのです。

従いまして、特殊なデータ回復のためのソフトウェアを利用すれば、これらのデータを読み取ることが可能な場合があります。このため、悪意のある人により、このパソコンのハードディスク内の重要なデータが読み取られ、予期しない用途に利用されることがあります。

パソコンユーザが破棄・譲渡等を行う際に、ハードディスク上の重要なデータが流出するというトラブルを回避するためには、ハードディスクに記録された全データを、ユーザの責任において消去することが非常に重要になります。消去するためには、専用のソフトウェアあるいはサービス(共に有償)を利用するか、ハードディスク上のデータを金槌や強磁気により物理的・磁気的に破壊して、読めなくすることを推奨します。

索　引

付録

・本書の仕様、情報(本製品、ソフトウェアを含む)は予告なしに変更される場合があります。本製品ならびに、ソフトウェア、マニュアルを運用した結果については、いっさいの責任を負いかねますのでご了承ください。
・本書で紹介されている各ソフトウェアは、ライセンスあるいはロイヤリティ契約のもとに供給されています。
ソフトウェアおよびそのマニュアルは、そのソフトウェアライセンス契約にもとづき、同意書記載の管理責任者のもとでのみ使用することができます。よって、それ以外の目的で当該ソフトウェア供給会社の承諾なしに無断で使用することはできません。
・本製品にあらかじめインストールされているWindows XP以外のOSについては、サポートの範囲外とさせていただきますので、ご了承ください。
・本書の全ての内容は著作権法によって保護されています。株式会社ソーテックの許可なしに、本書の内容の一部または全部を無断で複写、転載することを禁じます。
・本製品で録画・録音したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権上、権利者に無断で使用できません。
・本製品は、人命にかかわる設備や機器（医療機器、原子力設備に関連する機器、航空宇宙機器、運輸設備に関連する機器など）や、高度な信頼性を必要とする設備や機器などへの使用や組み込みを目的として設計されていません。
これら設備や機器、制御システムなどに本製品を使用された場合、人身事故、財産損害などが生じても、当社はいかなる責任も負いかねます。

©2006 株式会社ソーテック
WinBook WJシリーズ
2006年6月 初版